

IoT Platform  
サービスポータル操作マニュアル  
(16.0\_0 版)

<改版履歴>

版数	説明	日付
1.0 版	初版	2016/10/5
1.1 版	誤記修正。用語一覧へリソース、リソースデータ、アクセスコードの説明追加。	2016/11/1
1.2 版	誤記修正。 サービス申込方法変更に伴う変更。 3.1 顧客識別子の説明を削除(現システムでは不要な説明)。 3.3 テナントの説明をテナント ID の説明に変更。記載修正。 開通通知書をサービス申込み時に通知される情報に変更(1.4、4.3) テナント ID 記載例を変更	2016/12/1
4_1.0 版	V4.0 対応 1.5 ご利用環境に Windows 10 を追加。Windows 8 を削除。 4.6 リソース収集用リソースについて注記。 4.7 アクセスコードに権限(G,P)を追加。 アクセスプロトコル指定、クライアント証明書設定を追加。 4.9 利用実績ログの出力項目を細分化。 4.13 証明書生成機能を追加。 4.14 共通設定に CORS 設定、エラー収集設定を追加。	2017/4/1
4_1.1 版	2017 年 7 月以降提供予定の機能の画面について、ダミー画像であることを記載	2017/4/14
4_2.0 版	画像以外の 2017 年 7 月以降提供予定の記載を削除	2017/4/24
4_2.1 版	画像を差し替え 4.10.4. ユーザー変更の説明を修正。	2017/6/1
4_2.2 版	4.7.2 指定する証明書についての注意書きを追加	2017/7/13
5.0_0 版	版数のみ変更	2017/10/20
5.1_0 版	版数のみ変更	2018/3/17
7.0_0 版	4.7.5 アクセスコードにリソースを紐づける際の注意事項を追加	2018/9/15
8.0_0 版	1.6 購入商品ごとの利用機能について記載を追加 1.7 FQDN の読み替えについて記載を追加 2.9.2 操作ログのログフォーマットを追加	2018/11/3
9.0_0 版	2.2.6 DRC (オンデマンドデータ収集) について記載を追加 4.12.2 共通画面 DRC (オンデマンドデータ収集) 設定について記載追加。	2019/8/22
11.0_0 版	版数のみ変更	2021/1/16
14.0_0 版	4.3 ログイン画面に MFA(証明書を必要とするログイン)対応の記載を追加 4.10 ユーザー画面に MFA 対応の記載を追加 対応ブラウザ変更に伴う修正	2022/4/1
16.0_0 版	ダイナミックリソースコントローラー (オンデマンドデータ収集) 機能削除に伴う記載修正	2024/5/16

## はじめに

このたびは「IoT Platform」をご検討いただき、誠にありがとうございます。この「IoT Platform サービスポータル操作マニュアル（以下、本書）」は、本サービスをご契約いただいたお客様、またはご採用いただくお客様のための資料です。下記につきましてご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

1. ご検討中のお客様は、本書を本サービスご採用可否のご判断のためにのみ、ご参照願います。
2. 本書および本書の内容について、第三者へご開示、ご提供にはならないようお願いいたします。
3. 発行元の許可なく、本書の記載内容を複写、転写することを禁止します。

本書には本サービスをご採用いただくための重要な情報を記載しています。

ご契約いただいたお客様は、ご利用前に本書をよくお読みの上、本サービスをご利用ください。なお、本書は大切に保管してください。

ご採用いただけないお客様は、お客様の責任で本書を、すみやかに廃棄願います。

※ Windows は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Google Chrome は、Google Inc. の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本書は、今後サービス仕様の変更にあわせて、予告なく内容を変更する場合があります。

## 免責事項について

- ・本サービスのマニュアルに記載されていない操作を行なったことで思わぬ誤動作や、予期せぬ課金が発生した場合であっても一切の責任を追いかねます。
- ・本サービスの利用、または利用できなかったことにより万が一損害（業務の中断・データの破損/損失・事故などによる損害や第三者からの賠償請求の可能性を含む）が生じたとしても、責任を一切負いかねます。

<用語一覧>

用語	説明	備考
IoT	Internet of Things の略 「モノのインターネット」と言われるが、「モノがインターネットプロトコル（インターネット言語）でネットワークされている状態」のこと。	
REST	REpresentational State Transfer の略 複数のソフトウェア連携に適した設計原則を WEB に適用したソフトウェアの設計様式を示す。 ※特定の URL にパラメータを指定して HTTP でアクセスすると XML で記述されたメッセージが送られてくるような、呼び出しインターフェース（「RESTful API」と呼ばれる）。 本サービスでは XML ではなく JSON 形式で返信する。	
MQTT	Message Queuing Telemetry Transport の略 MQTT とは、TCP/IP ネットワーク上の通信プロトコルで、多数の主体の間で短いメッセージを頻繁に送受信する用途に向けた軽量なプロトコル。M2M ネットワークや IoT（Internet of Things）分野での普及が見込まれている。ヘッダ部分が最小で 2 バイトと小さく、HTTP で同様の通信を行う場合より、通信量や CPU 負荷・電力消費量などを数十分の一に抑える。	
ダイナミック リソース コントローラー	Dynamic Resource Controller 富士通の広域分散技術を用いた分散制御処理。データ収集においてトラフィックの変動に従い、限られたリソースの中で最適化した収集の実現を補佐する機能。	
リソース	IoT データを収集するためのスペース	
リソースデータ	リソースの中のデータ	
アクセスコード	リソース操作に対する権限	
CORS	Cross-Origin Resource Sharing の略 Web サーバがドメインをまたぐアクセスを制御する方法を規定することで、ドメイン間の安全な通信を実現する仕組み	

# - 目次 -

第1章	はじめに	8
1.1.	本書の目的	8
1.2.	ドキュメント構成	8
1.3.	特長	8
1.4.	お客様が準備すること	8
1.5.	ご利用環境	9
1.6.	商品ごとの提供機能差異について	9
1.7.	FQDN の読み替えについて	10
第2章	IoT Platform について	11
2.1.	IoT とは	11
2.2.	サービス概要	11
2.2.1.	データ収集	11
2.2.1.1.	データ収集準備	11
2.2.1.2.	データ収集と活用	11
2.2.2.	イベント機能	12
2.2.3.	アクセス制限	12
2.2.4.	ダイナミックリソースコントローラー	12
2.2.5.	サービスポータル機能	13
第3章	本サービスの定義、考え方	14
3.1.	テナント ID	14
3.2.	ユーザー	14
3.3.	リソース	15
3.4.	リソース(転送)	15
3.5.	アクセスコード	16
3.6.	イベント	17
3.6.1.	判定条件	17
3.6.2.	イベントと判定した後のアクション	17
3.6.3.	イベント解除設定について	17
3.7.	データを書き込む	19
3.8.	書き込みしたデータを参照する	20
3.9.	API	21
3.9.1.	HTTP REST インターフェース	21
3.9.2.	MQTT インターフェース	24
3.10.	アクセス制限	24
3.11.	ダイナミックリソースコントローラー(DRC)	25
3.12.	MQTT 接続の ID とパスワードについて	25
3.13.	リージョンと時刻について	26
3.14.	言語について	26
3.15.	クライアント証明書	26
3.16.	CORS	26
第4章	各画面の説明	27
4.1.	基本的な設定の流れ	27
4.2.	CSV ファイルのご利用	28
4.3.	ログイン画面	29
4.4.	テナント選択	30
4.4.1.	コメント編集	31
4.5.	トップ画面	32
4.5.1.	共通画面について	32
4.5.2.	テナント ID 選択	32
4.5.3.	パスワード変更選択	33
4.5.4.	言語設定	34

4.5.5.	バージョン情報選択 .....	34
4.5.6.	操作マニュアル選択 .....	34
4.5.7.	ログアウト .....	35
4.6.	リソース画面 .....	36
4.6.1.	リソース一括追加 .....	37
4.6.2.	リソース追加 .....	38
4.6.3.	リソースダウンロード .....	40
4.6.4.	リソース検索 .....	41
4.6.5.	リソース設定変更 .....	42
4.6.6.	リソース一括削除 .....	44
4.7.	アクセスコード画面 .....	45
4.7.1.	アクセスコード一括追加 .....	46
4.7.2.	アクセスコード追加 .....	47
4.7.3.	アクセスコード検索 .....	49
4.7.4.	アクセスコードダウンロード .....	50
4.7.5.	アクセスコード設定変更 .....	50
4.7.6.	アクセスコード一括削除 .....	56
4.8.	イベント画面 .....	57
4.8.1.	イベント追加 (判定設定) .....	59
4.8.2.	イベント追加(アクション設定) .....	61
4.8.3.	イベント検索 .....	63
4.8.4.	イベント設定変更 .....	63
4.8.5.	イベント一括削除 .....	65
4.9.	ログ画面 .....	66
4.9.1.	利用実績画面 .....	66
4.9.2.	操作ログ画面 .....	68
4.9.3.	利用実績ログ画面 .....	71
4.9.4.	システムログ画面 .....	73
4.10.	ユーザー画面 .....	77
4.10.1.	ユーザー追加 .....	78
4.10.2.	パスワード変更 .....	79
4.10.3.	ユーザー検索 .....	80
4.10.4.	ユーザー変更 .....	80
4.10.5.	ユーザー一括削除 .....	86
4.11.	アクセス制限画面 .....	86
4.11.1.	サービスポータルアクセス制限画面 .....	87
4.11.2.	アクセスコードアクセス制限画面 .....	95
4.12.	分散設定画面 .....	102
4.12.1.	tps/bps 分散設定画面 .....	102
4.13.	証明書生成画面 .....	107
4.13.1.	証明書生成画面(新規証明書作成) .....	107
4.13.2.	証明書作成(証明書署名) .....	110
4.14.	共通設定画面 .....	112
4.14.1.	MQTT 設定画面 .....	112
4.14.2.	CORS 設定画面 .....	113
4.14.3.	エラー収集設定画面 .....	114
第5章	サービスポータルを用いた設定例 .....	117
5.1.	サンプルデータ .....	117
5.2.	上記モデルを用いた実際の操作 .....	121
5.2.1.	ログイン .....	121
5.2.2.	リソースの追加 .....	121
5.2.3.	証明書の生成 .....	123
5.2.4.	アクセスコードの追加 .....	125

5.2.5.	API のアプリケーションへの組み込み .....	126
5.2.6.	イベント機能 (Email) の設定 .....	126
5.2.7.	イベント (Email) を発生させた場合のメール受信確認 .....	131
5.2.8.	イベント機能 (API 呼び出し) の設定 .....	131
5.2.9.	アクセス制限の設定 .....	136
5.2.10.	分散機能の設定 .....	140
5.2.11.	MQTT の設定 .....	143
5.2.12.	CORS の設定 .....	144
5.2.13.	エラー収集の設定 .....	145
第 6 章	エラーメッセージ一覧 .....	147
第 7 章	付録 .....	161
7.1.	CSV フォーマットについて .....	161
7.1.1.	リソース用 CSV フォーマットイメージ .....	161
7.1.2.	アクセスコード用 CSV フォーマットイメージ .....	162
7.2.	ソートポリシーについて .....	163
7.3.	イベント機能の通知メッセージ .....	164
7.4.	証明書の登録・削除手順について .....	165
7.4.1.	登録手順 .....	165
7.4.1.	削除手順 .....	168

## 第1章 はじめに

### 1.1. 本書の目的

本書では、IoT Platform サービス（以下：本サービス）の利用にあたり、WEB インターフェース（以下：サービスポータル）の操作方法を説明します。

### 1.2. ドキュメント構成

本サービスではご利用に際し、以下のドキュメントを用意しています。

マニュアル名	説明
IoT Platform サービス詳細説明書	本サービスのサービス仕様を説明しています。
IoT Platform サービスポータル操作マニュアル	サービスポータルに関するマニュアルです。 (本書)
IoT Platform ユーザーガイド	本サービスで提供するサービスを利用したアプリケーションを設計するにあたって、具体的な例を交えて設計指針の説明を行うマニュアルです。
IoT Platform API リファレンス	本サービスで提供するサービスを利用したアプリケーションを設計するための API リファレンスです。

### 1.3. 特長

- WEB からの設定  
WEB ブラウザを経由して本サービスを利用するための設定が可能です。
- インターネットからの設定  
インターネット接続が可能な環境であればどこからでも本サービスに関する設定が可能です。
- 様々なデバイスからの設定  
パソコンおよびタブレット端末といったデバイスから本サービスに関する設定が可能です。
- データの収集および参照に関する設定  
本サービスで提供するデータの収集および参照に関する初期設定が可能です。  
本設定をおこなうことで一般的な業務アプリケーションの IF である REST (HTTP) や MQTT といったプロトコルに対応したデバイスと接続できます。

### 1.4. お客様が準備すること

本サービスのサービスポータルのご利用にはお客様のユーザーID とパスワードが必要です。ログインに必要な以下の情報はご購入各商品の説明をご確認ください。

- ・ サービスポータルの URL
- ・ テナント ID
- ・ サービスポータルのユーザーID
- ・ ユーザーID のパスワード（初期値）

### 1.5. ご利用環境

サービスポータルへのアクセス環境について、以下をご準備ください。

- ・インターネット接続が可能な環境
- ・接続端末

表. 推奨環境

項目	要件	備考
1 対応 OS	Windows 10(32bit 版,64bit 版) Windows 11(32bit 版,64bit 版)	Windows は日本語、英語版のみ
2 ブラウザ	Google Chrome	バージョン 123 以降
3 画面サイズ	PCの場合：1024×768 以上（推奨） タブレット端末の場合：1920*1200以上	

### 1.6. 商品ごとの提供機能差異について

IoT Platform はお客様のニーズに合わせ様々な商品体系で提供しています。商品ごとの提供機能を以下に示します。

なお、本マニュアルは FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IoT Platform をベースに記載しており、商品ごとの提供形態／非機能条件などについては各商品に付随する説明をご確認ください。

機能	商品名			
	FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 IoT Platform/IoT Platform 専用サービス	COLMINA V2 高速化 API(1tps)	COLMINA V2 高速化 API バイナリオプション(※)	COLMINA V2 高速化 API 転送オプション(※)
リソース	○	○	×	×
アクセスコード	○	○	×	×
JSON(HTTP)	○	○	×	×
JSON(MQTT)	○	○	×	×
バイナリ	○	×	○	×
データ転送	○	×	×	○
イベント	○	○	×	×
ログ	○	○	×	×
ユーザー	○	○	×	×
アクセス制限	○	○	×	×
分散	○	○	×	×
証明書設定	○	○	×	×
共通設定	○	○	×	×

※COLMINA V2 高速化 API(1tps)を購入いただく必要があります。単独ではご利用できません。

## 1.7. FQDN の読み替えについて

COLMINA V2 高速化 API (1tps) をご利用のお客様は URL に含まれる FQDN 部分を、” FQDN:ポート番号” となるように読み替えてください。

ポート番号は以下の通りとなります。

プロトコル	ポート番号
http	31080
https	31443
MQTT	31883
MQTTS	31983

## 第2章 IoT Platform について

### 2.1. IoT とは

IoT とは、様々な人、物をインターネットに接続することによりそれらの人、物から取得した大量の情報から新たな知見を得ることにより、その情報を利用して新たなサービス提供につなげることを指します。

### 2.2. サービス概要

本サービスでは、当社のクラウドにお客様エリアを用意します。お客様エリアには複数のテナントを申し込めます。

#### 2.2.1. データ収集

お客様テナント内にデータ登録単位である「リソース」を作ります。リソースには、当該リソースに対する権限である「アクセスコード」を作成し、付与する必要があります。

アクセスコードを API に付与することにより、該当リクエストは認可され、実行できます。

<権限の種類>

C：リソースやアクセスコードなど、作成できる権限

R：データを参照できる権限

U：データを登録できる権限

D：リソースやアクセスコード、イベントを削除できる権限

L：リソースやアクセスコード、イベントの一覧を取得できる権限

G：当該リソース配下の全リソースを参照できる権限

P：当該リソース配下の全リソースを更新・削除できる権限

##### 2.2.1.1. データ収集準備

サービスポータルからの操作、および API での操作が可能です。

※API での操作対象は「リソース」「アクセスコード」「イベント」のみ。

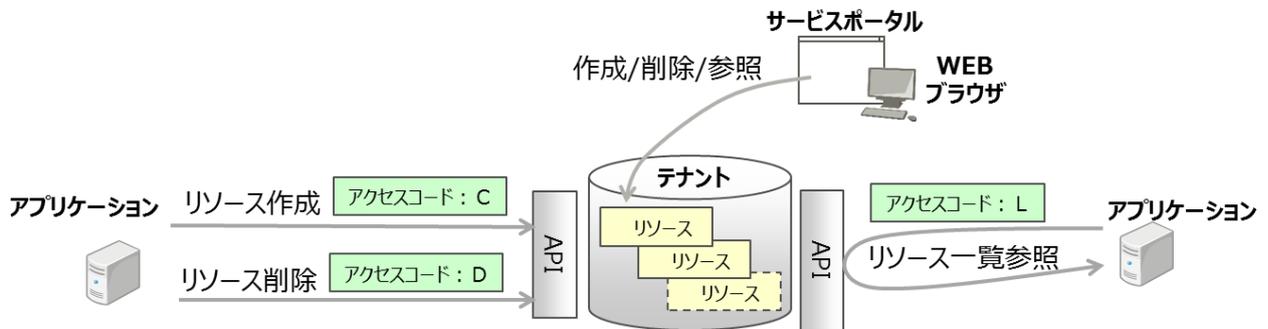


図 2.2.1.1 リソースを管理する

##### 2.2.1.2. データ収集と活用

データの登録や参照は API で実行できます。



図 2.2.1.2-1 データを蓄積する

本サービス内にデータを蓄積せず、他サービスへ転送することも可能です。



図 2.2.1.2-2 データを転送する

### 2.2.2. イベント機能

イベントとしてデータの抽出条件を設定することにより、データの登録/更新を契機に抽出条件にマッチする場合にアクションできます。アクションは、Email 通知または指定の API 起動を設定できます。

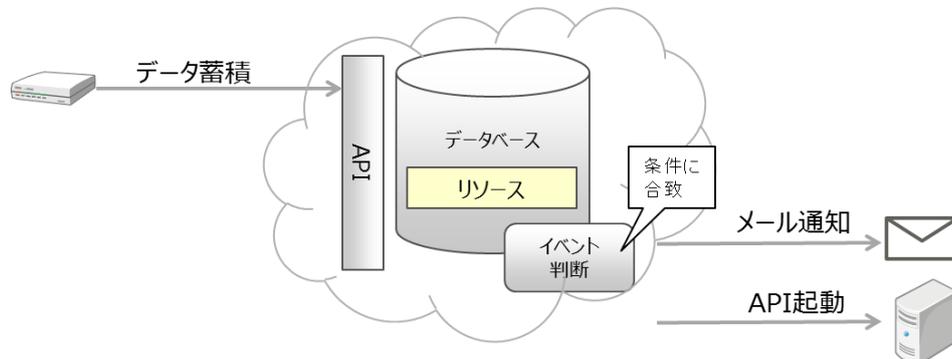


図 2.2.2 イベント機能

### 2.2.3. アクセス制限

本サービスに対するアクセスに IP アドレスの制限をかけることができます。

サービスポータルに対するアクセスおよび、アクセスコードに対して制限を設けることによりリソースに対するアクセスを制限できます。

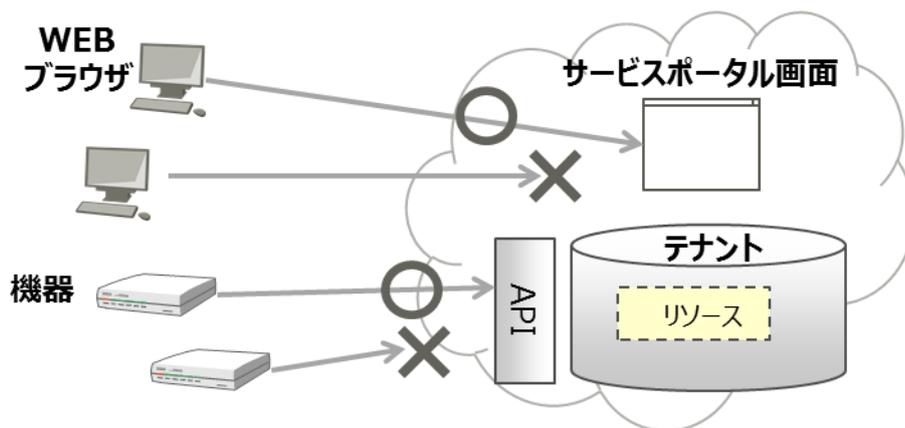


図 2.2.3 アクセス制限

### 2.2.4. ダイナミックリソースコントローラー

データ収集において、クラウドにかかる負荷によってデータ収集を制御する指針として利用できるリコメンドリソースを提供します。これによってお客様 IT リソースに合わせたデータ収集を可能とします。

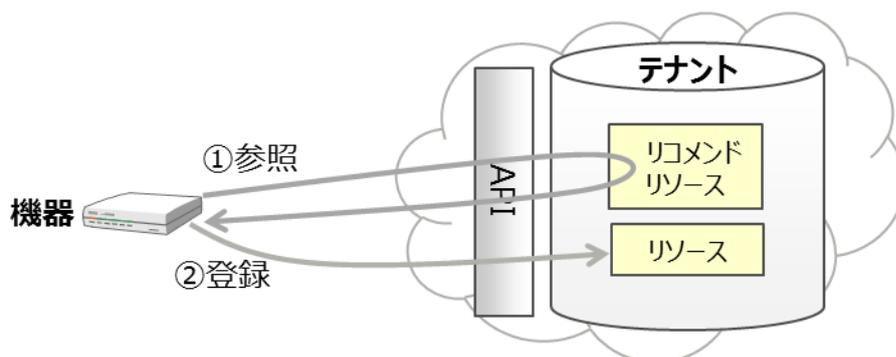


図 2.2.4 ダイナミックリソースコントローラー

## 2.2.5. サービスポータル機能

サービスポータルで提供する機能は以下のとおりです。

表. サービスポータルのメニュー

	管理機能	内容	備考
1	ユーザーアカウント	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスポータル利用のためのアカウントの追加・削除</li> <li>パスワードの再発行</li> </ul>	3.2および4.10章参照
2	リソース	<ul style="list-style-type: none"> <li>リソースの追加/変更/削除、一括追加</li> <li>リソース一覧の表示/検索/ダウンロード</li> </ul>	3.3および4.6章参照
3	アクセスコード	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセスコードの追加/変更/削除、一括追加</li> <li>アクセスコード一覧の表示/検索/ダウンロード</li> </ul>	3.5および4.7章参照
4	イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの追加/変更/削除</li> <li>イベント一覧の表示/検索</li> </ul>	3.6および4.8章参照
5	ログ	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様のサービスポータル操作履歴の表示/検索/ダウンロード</li> <li>月次の利用実績サマリの表示</li> <li>月次の利用実績の画面表示</li> <li>日時の利用実績のログファイルダウンロード</li> <li>システムログの画面表示</li> </ul>	4.9章参照
6	アクセス制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスポータルにアクセス可能なIPアドレスの追加/変更/削除</li> <li>アクセスコードに紐づくIPアドレスの追加/変更/削除</li> </ul>	4.11章参照
7	分散設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>分散制御機能の有効/無効設定</li> <li>負荷状況算出周期、リコメンド周期の設定</li> <li>負荷状況収集リソースの設定</li> <li>リコメンドリソースの設定</li> <li>エッジコンピューティング条件の追加/変更/削除</li> </ul>	4.12章参照
8	証明書生成	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライアント証明書の生成</li> </ul>	4.13章参照
9	共通設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>MQTTパスワードの設定</li> <li>CORSの設定</li> <li>エラー収集の設定</li> </ul>	4.14章参照

### 第3章 本サービスの定義、考え方

本サービスにおける定義、考え方を説明します。

#### 3.1. テナント ID

お客様エリア内のテナントを識別するコードで、本サービス内で一意です。

#### 3.2. ユーザー

ご契約のテナントを管理するお客様の管理者です。サービスポータルで自由にユーザーを作成できます。なお、ユーザーの操作権限範囲は全員共通となっており、本書に記載してあるすべてのサービスポータル機能をご利用いただけます。

[補足]テナントとユーザーの関係について

テナントとユーザーの関係性を以下に示します。

- ・ユーザーはお客様がご契約のテナントにアクセスが可能です。
- ・他社顧客識別子内のテナントへはアクセスできません。

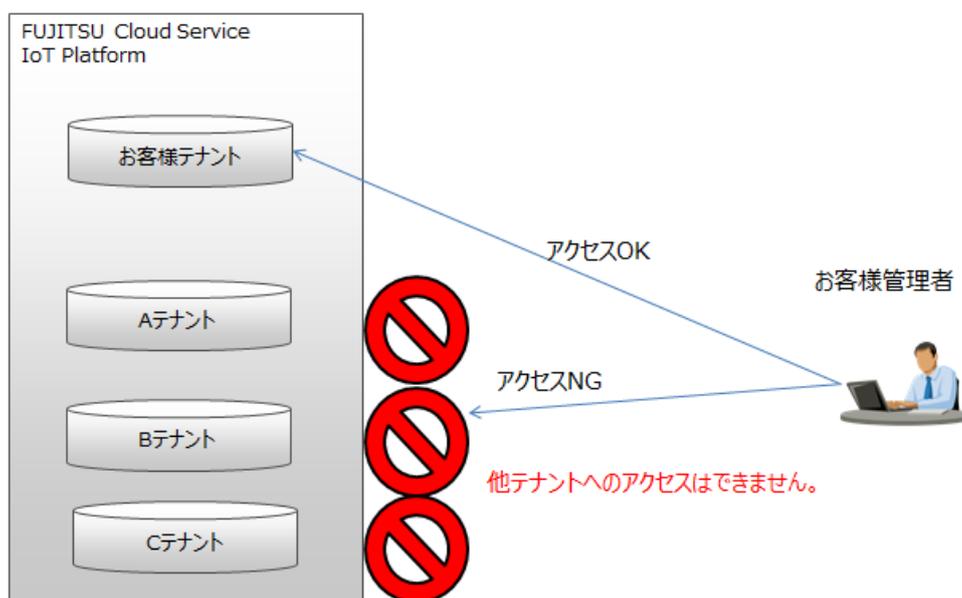


図 3-1. テナントとユーザー

### 3.3. リソース

本サービスでは「データを収集するためのスペース」を「リソース」と定義しています。本サービスではリソースを「リソースパス」という単位で管理しており、ディレクトリとファイルのようなイメージとなっています。

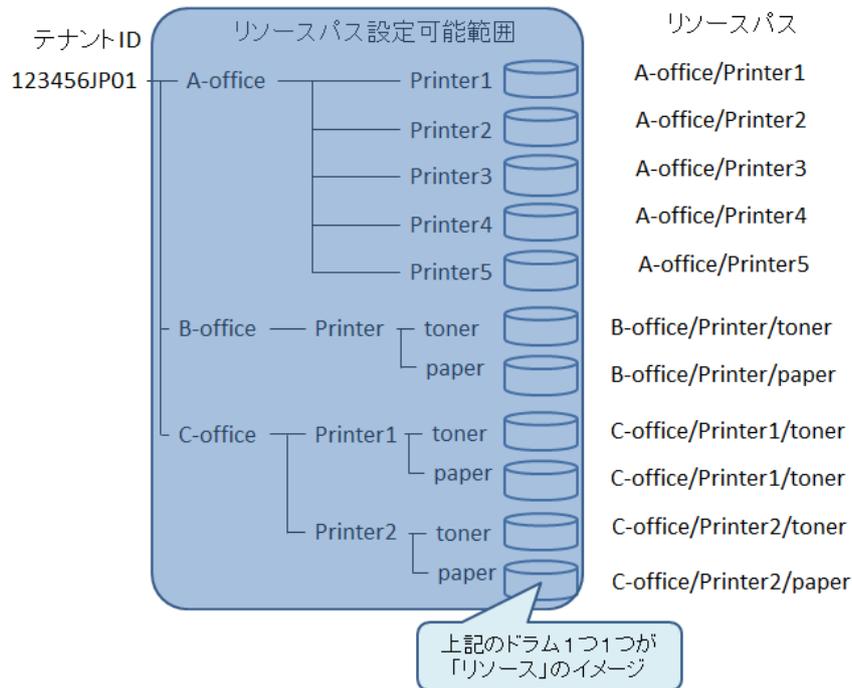


図 3-2 リソース管理イメージ

リソースパスの仕様は以下のとおりです。

- ・ 同じテナント内でのリソースパスは一意
- ・ リソースパスは任意の文字列で最大文字数は 128 文字

### 3.4. リソース(転送)

本サービスでは、本サービス内にデータを蓄積せず、他サービスへ蓄積させるリソース(転送)を作成できます。通常のリソースと同様に、「リソースパス」で管理しており、リソースパスの先頭に特定の文字列が付加される以外は通常のリソースのリソースパスと同様の仕様となっています。



図 3-3 リソース(転送)のイメージ



データ形式がバイナリの場合は転送することができません。

### 3.5. アクセスコード

本サービスではリソース内のデータを不特定多数の箇所から操作されるのを防ぐため、リソース内のデータ操作に対する権限（アクセスコード）を設定することができます。各リソースに対して、リソースをAPI 経由で登録・更新・削除・一覧参照する権限(CDL)、データ登録する権限(U)、データ参照する権限(R)とリソースをAPI 経由で一覧参照する権限(L)を付与することができます。Uの権限を設定すると、データ登録、更新、削除ができるようになり、Rの権限を設定するとデータの参照ができるようになります。また、Lの権限を付与するとリソース一覧での参照ができるようになります。CDLの権限を設定すると、Lの権限に加え、リソースの登録・更新・削除、リソースへのアクセスコードの登録・削除、リソースへのイベントの登録・削除ができるようになります。Gの権限を設定すると、当該リソース配下の全てのリソースのデータが参照できるようになります。Pの権限を設定すると、当該リソース配下の全てのリソースのデータ登録・更新・削除ができるようになります。

アクセスコードをお客様アプリケーションから呼び出すAPI に組み込むことによってリソースにデータを書き込みしたり、リソース内のデータを参照したりすることができます。

詳細は「IoT Platform ユーザーガイド」を参照願います。

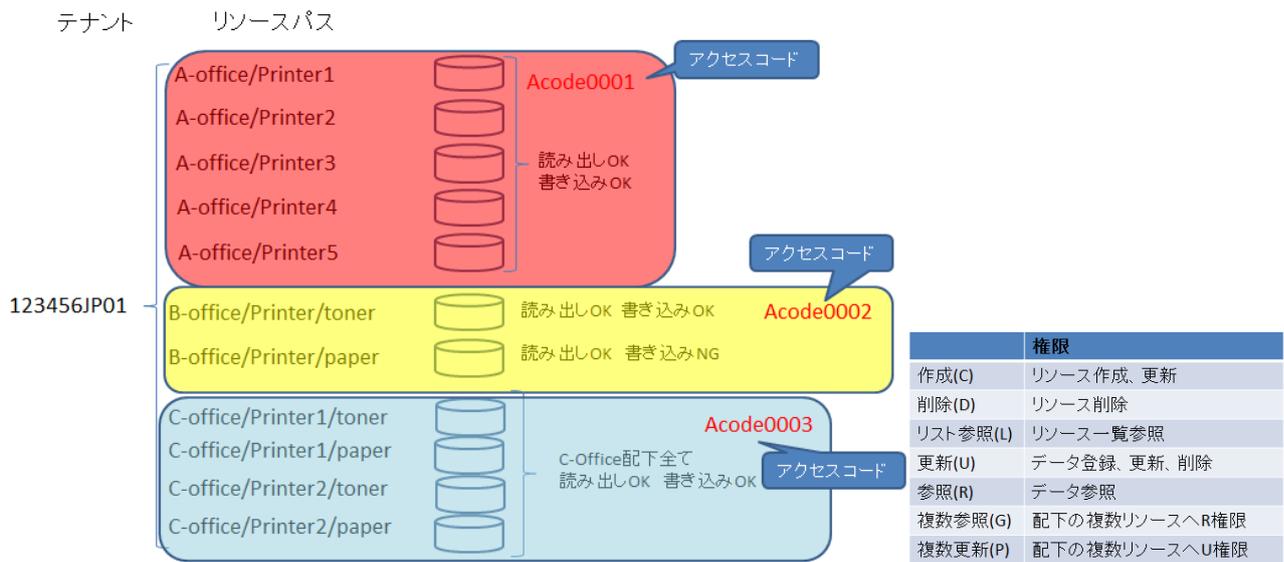


図 3-4. リソースとアクセスコードの関係

アクセスコードの仕様は以下のとおりです。

- ・同一テナント内でアクセスコードは一意
- ・リソースを追加してからアクセスコードを追加する必要があります。リソースを追加していない状態でアクセスコードのみを追加できない
- ・1つのアクセスコードで複数のリソースに対する権限をまとめて設定可能
- ・アクセスコードの値はお客様側で値を自由に設定可能

リソース(転送)についても同様にアクセスコードを設定することができます。アクセスコードをお客様アプリケーションから呼び出すAPI に組み込むことによってリソース(転送)を利用してにデータを転送することができます。

リソース(転送)を利用してにデータを転送する場合はUの権限またはPの権限のリソースの配下であることが必須となります。Rの権限のみ、またはGの権限のみリソースの配下である場合、リソース(転送)にアクセスすることはできません。

詳細は「IoT Platform ユーザーガイド」を参照願います。

### 3.6. イベント

本サービスではイベント機能を用いることでデータの変化に応じてアクションを発生させることができます。

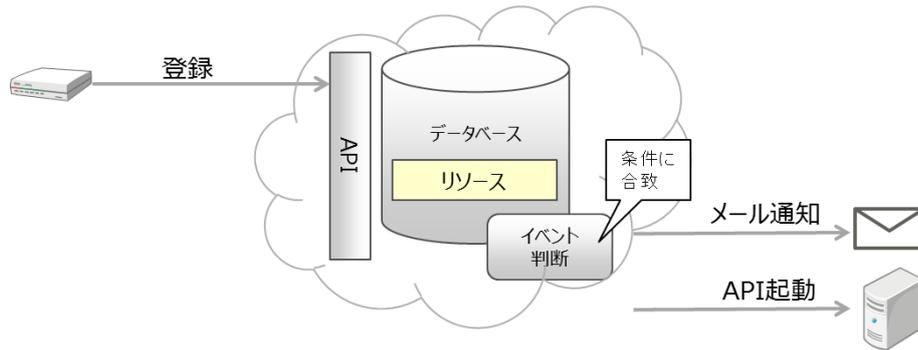


図 3-5. イベント機能



#### 注意

リソース(転送)はイベントを設定することはできません。

#### 3.6.1. 判定条件

本サービスのイベント機能で、イベントの判定条件は以下のとおりです。

1. 指定のリソースに対するデータの書き込みがあった場合
2. 指定のリソースに対するデータの書き込みにおいて、指定のデータ位置(※)のデータの状態が以下のいずれかになったことを検知した場合

文字列

- ・設定文字と完全一致した状態
- ・設定文字を含んでいる状態

数値

- ・データ内数字 > 設定数値
- ・データ内数字 ≥ 設定数値
- ・データ内数字 = 設定数値
- ・データ内数字 ≤ 設定数値
- ・データ内数字 < 設定数値

(※)データ位置は JSONPath 形式で指定します。

また、上記 1. 2. の状態となったことを検出する時間範囲の設定も可能です。

時間範囲指定があった場合は指定時間の範囲内に上記の 1. 2. のいずれかの状態となった場合にイベントと判定します。



#### 注意

リソースのデータ形式がバイナリの場合、判定条件は指定できません。

#### 3.6.2. イベントと判定した後のアクション

本サービスのイベント機能で、イベントと判定した後に可能なアクションは以下のとおりです。

1. 指定の Email アドレスに対して通知する。
2. 指定の REST API を呼び出す

#### 3.6.3. イベント解除設定について

本サービスのイベント機能では、イベントと判定する状態が継続した場合にイベント判定しつづけるのか、イベント判定を無効とするのかを選択することができます。初期設定時は「イベント判定しつづける」

設定となっています。例えば、初期設定時に気温が 30 度以上となった場合をイベント判定とするケースでは温度が 30 度以上の状態が継続している場合は常時イベントと判定します。

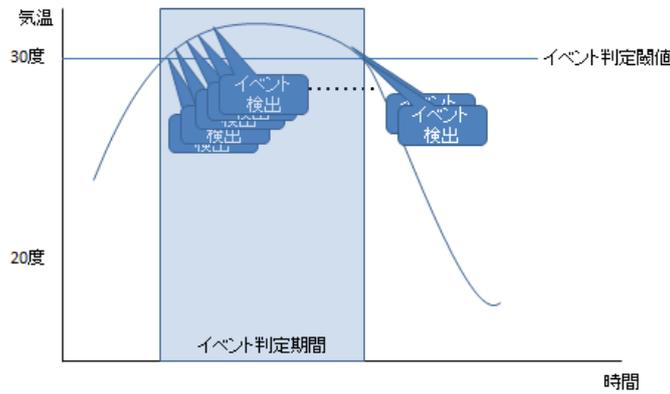


図 3-6. イベント判定時の動作

上記の温度のデータ採取を行うような、「常時変化しつづけるデータを短い間隔で採取する」場合は閾値を超えた状態を常時継続することがあるため、そのたびにアクションを起こし続けることが望ましくないケースが考えられます。その状態を防ぐためにイベント解除設定することにより、一旦イベントと判定した場合、それ以降はイベント判定を無効とするようにできます。

[例]

気温のデータを本サービスに書き込みしている状態で以下の設定をおこなっているケースを例に挙げます。

- ・ 気温が 30 度以上となった場合をイベント判定
- ・ 気温が 20 度以下となった場合をイベント解除

この場合、一旦気温が 30 度に達した場合はイベント判定しますが、その直後、30 度の状態が継続してもイベント判定が無効化されるため、30 度以上の状態が継続してもイベント判定はされません。なお、気温が 20 度以下になった場合はイベント判定の無効化が解除されるため、ここからイベント判定が有効になります。イメージとしては以下のとおりです。

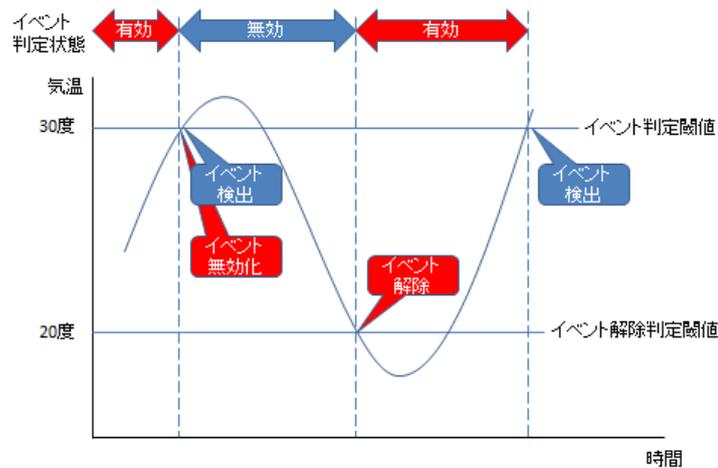


図 3-7. イベント判定と解除の関連性

※以下のようなケースではイベント解除設定をしないでください。

- ・ 特定リソースに対するデータ書き込みのみをイベント判定としたい場合
- ・ リソース内のデータにおいて、同じ内容のデータ書き込みでイベント判定とさせたい場合

### 3.7. データを書き込む

本サービスでは、リソースを追加することによりデータを書き込みすることができます。データを書き込みするためのおおまかな手順は以下のとおりです。

1. サービスポータルまたは API の操作によりリソースを追加します。(下図①)
2. サービスポータルまたは API の操作によりリソースに対するアクセス権限を付与します。(下図①) 書き込みする場合は書き込み権限をリソースに対して付与することによりデータを書き込みすることができますようになります。
3. お客様が使用するアプリケーションにリソースにデータを書き込みするための API 呼び出しを組み込んでください。(下図③) 詳細は「IoT Platform ユーザーガイド」を参照願います。
4. アプリケーションからリソースにデータを書き込みするための API を呼び出すことにより本サービスにデータを書き込みする。(下図④)

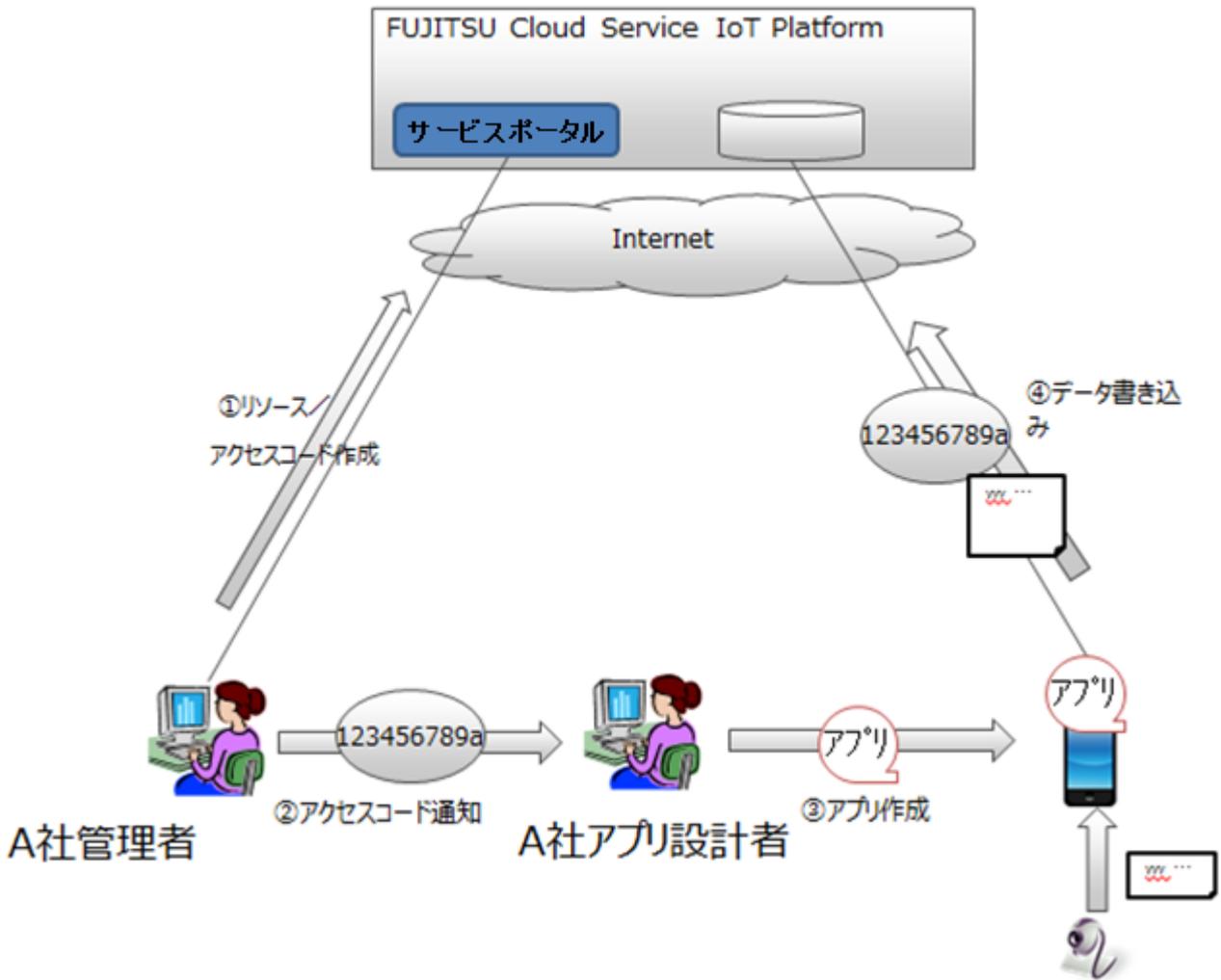


図 3-8. データを書き込みするまでの操作

### 3.8. 書き込みしたデータを参照する

本サービスでは、3.8章記載の操作によって書き込みしたデータを参照することができます。また、検索条件を設定することにより指定したデータのみを参照するといったことも可能です。データを参照するための手順は以下のとおりです。

1. お客様が使用するアプリケーションにリソースのデータを参照するための API 呼び出しを組み込んでください。なお、アクセスコード設定時に対象リソースに対する参照権が設定されている必要があります。詳細は「IoT Platform ユーザーガイド」を参照願います。
2. アプリケーションからリソースに書き込みされたデータを参照するための API を呼び出すことにより、本サービスからデータを参照できます。

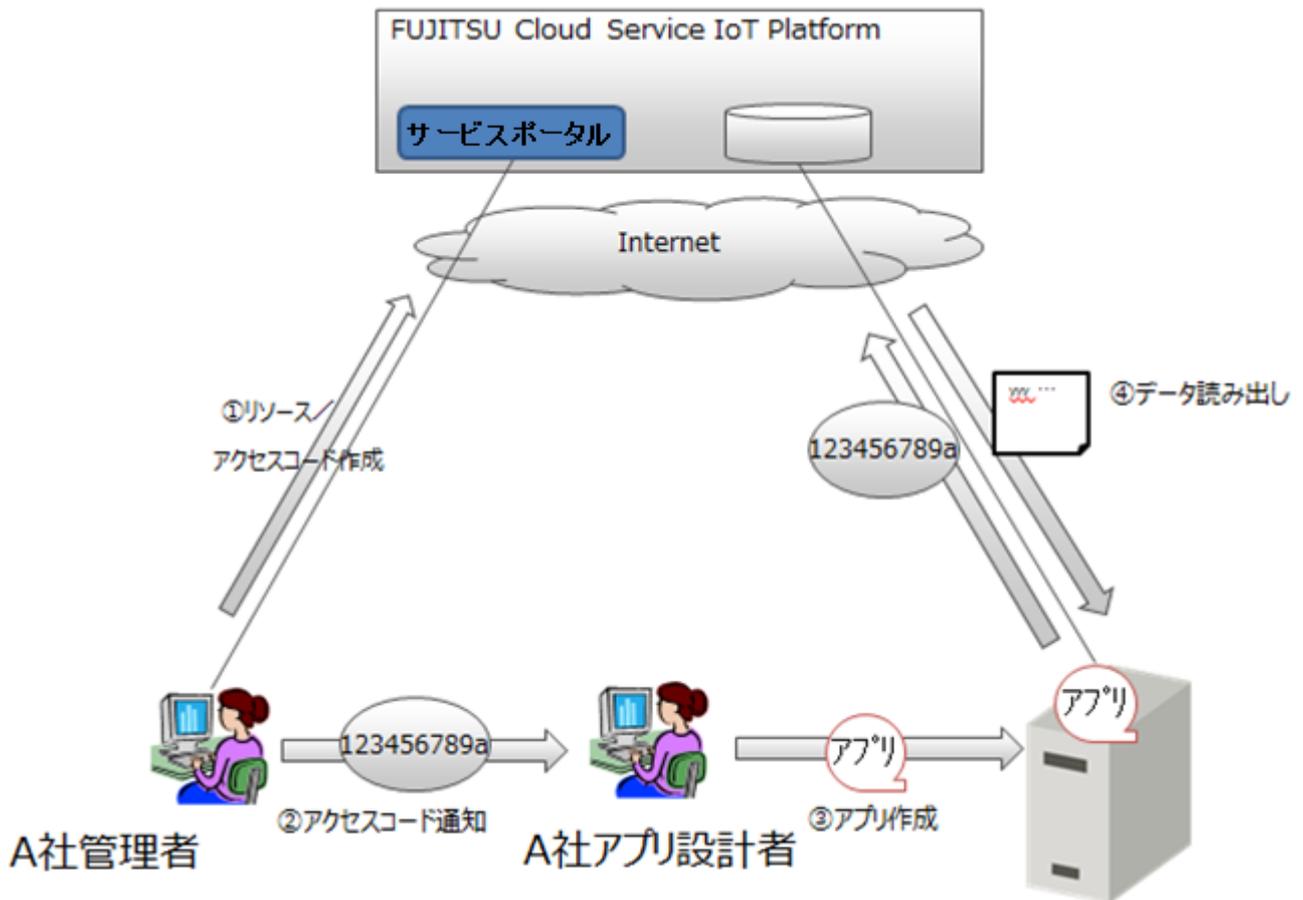


図 3-9. データを参照するまでの操作

### 3.9. API

本サービスでは、リソース、アクセスコードおよびイベントそのもの、リソースに対するデータの操作が可能なAPIを公開しています。

詳細は「IoT Platform ユーザーガイド」を参照願います。

#### 3.9.1. HTTP REST インターフェース

http および https に対応しています。

提供インターフェースを以下に示します。

リソースの中のデータ群をリソースデータと記載しています。

表 1. REST IF一覧

#### ・リソース関連

	操作	オプション	Method名	アクセスコードとの関連性
1	リソース登録	—	POST	Cで許可
2	リソースのメタデータ参照	取得フィールド指定 取得件数指定	GET	Lで許可
3	リソースのメタデータ更新	—	PUT	Cで許可
4	リソース削除	—	DELETE	Dで許可

#### ・リソースデータ関連(データ形式がJSONの場合)

	操作	オプション	Method名	アクセスコードとの関連性
1	リソースデータ登録	登録日時 RETAINフラグ Bulk Insertフラグ	PUT	Uで許可 Pで配下の全リソースに許可
2	リソースデータ参照	取得フィールド指定	GET	Rで許可 Gで配下の全リソースに許可
3	リソースデータ検索	日時指定 日時範囲指定 取得フィールド指定 取得件数指定	GET	Rで許可 Gで配下の全リソースに許可
4	リソースデータ更新	更新後の登録日時	PUT	Uで許可 Pで配下の全リソースに許可
5	リソースデータ削除	日時指定 日時範囲指定	DELETE	Uで許可 Pで配下の全リソースに許可



#### 注意

リソース(転送)の場合、以下の制限があります。

- ・MethodはPUTのみの対応となります。GET、DELETEは使用できません。
- ・リソースへのアクセスはU権限の付与が必要となります。権限がRのみ場合、当該リソースへはアクセスはできません。
- ・データ形式としてバイナリは使用できません。

・リソースデータ関連(データ形式がバイナリの場合)

	操作	オプション	Method名	アクセスコードとの関連性
1	リソースデータ登録	登録日時	PUT	Uで許可 Pで配下の全リソースに許可
2	リソースデータ参照	—	GET	Rで許可 Gで配下の全リソースに許可
3	リソースデータ検索	日時指定 日時範囲指定 取得件数指定	GET	Rで許可 Gで配下の全リソースに許可
4	リソースデータ削除	日時指定 日時範囲指定	DELETE	Uで許可 Pで配下の全リソースに許可



注意

データ形式がバイナリの場合はリソースデータの更新はできません。

### Memo

リソース関連、リソースデータ関連で指定可能なオプションについて説明します。

- ・登録日時  
データが登録された日時を指定します。指定しない場合は本サービスがリクエストを受信した日時となります。
- ・RETAIN フラグ  
MQTT broker 側で登録データを保持しておくかどうかを指定します。
- ・Bulk Insert フラグ  
Bulk Insert(※)を実行するか否かを指定します。  
※ JSON 配列の中に JSON オブジェクトが複数入っている形式でデータ登録することで、別々のデータとして格納・管理します。
- ・日時指定  
検索や削除を行う対象を日時に指定します。
- ・日時範囲指定  
検索や削除を行う対象を日時の範囲で指定します。
- ・取得フィールド指定  
取得するフィールドを指定します。指定されたフィールドのみが取得されます。
- ・取得件数指定  
取得する件数および検索結果として得られたデータをスキップする件数を指定できます。  
取得する件数の最大値は 1,000 件です。
- ・更新後の登録日時  
データの登録日時を指定の日時に更新します。

・アクセスコード関連

	操作	オプション	Method名	備考
1	アクセスコード登録	—	POST	
2	アクセスコード情報の参照	リソースパス指定 取得件数指定	GET	
3	アクセスコード情報の更新	—	PUT	
4	アクセスコード削除	—	DELETE	

**Memo**

アクセスコード関連で指定可能なオプションについて説明します。

・リソースパス指定

参照するアクセスコードに対応するリソースのリソースパスを条件として指定し、条件に一致するものだけを結果として返します。

・イベント関連

	操作	オプション	Method名	備考
1	イベント登録	—	POST	
2	イベント参照	イベントID指定 取得件数指定	GET	
3	イベント更新	—	PUT	
4	イベント削除	—	DELETE	

**Memo**

イベント関連で指定可能なオプションについて説明します。

・イベント ID 指定

参照するイベントのイベント ID を条件として指定し、条件に一致するものだけを結果として返します。省略した場合はテナントの全イベントを対象とします。

### 3.9.2. MQTT インターフェース

MQTT および MQTTS に対応しています。

提供インターフェースを以下に示します。

リソースの中のデータ群をリソースデータと記載しています。

表 2. MQTT IF一覧

・リソースデータ関連(データ形式がJSONの場合)

	操作	オプション	Control Packet名	アクセスコードとの関連性
1	リソースデータ登録	登録日時	PUBLISH	Uで許可 Pで配下の全リソースに許可
2	リソースデータ参照	—	SUBSCRIBE +PUBLISH(※)	Rで許可 Gで配下の全リソースに許可

・リソースデータ関連(データ形式がバイナリの場合)

	操作	オプション	Control Packet名	アクセスコードとの関連性
1	リソースデータ登録	—	PUBLISH	Uで許可 Pで配下の全リソースに許可
2	リソースデータ参照	—	SUBSCRIBE +PUBLISH(※)	Rで許可 Gで配下の全リソースに許可

(※) クライアントからの SUBSCRIBE を経た本サービスからの PUBLISH (オプション指定不可)

#### Memo

・登録日時

データが登録された日時を指定します。指定しない場合は本サービスがリクエストを受信した日時となります。

### 3.10. アクセス制限

本サービスに対するアクセスに IP アドレスの制限をかけることができます。

サービスポータルに対するアクセスおよび、アクセスコードに対して制限を設けることによりリソースに対するアクセスを制限できます。

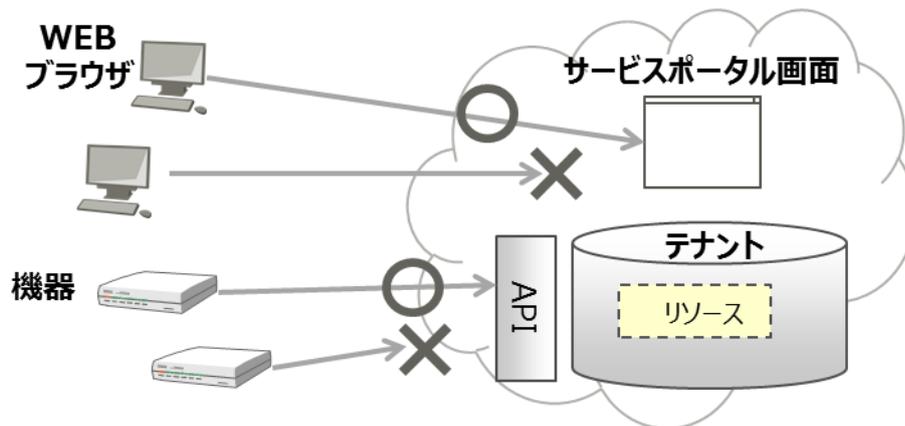


図 3-10. アクセス制限の動作

### 3.11. ダイナミックリソースコントローラー(DRC)

本サービスではダイナミックリソースコントローラー(分散制御)機能(以下 DRC)を利用して、センサー等デバイスから発生するデータの収集に対し、富士通独自の全体最適化技術(分散サービス基盤技術)により、データトラフィックの変動等に対して効率的かつ安定したデータ収集が可能です。

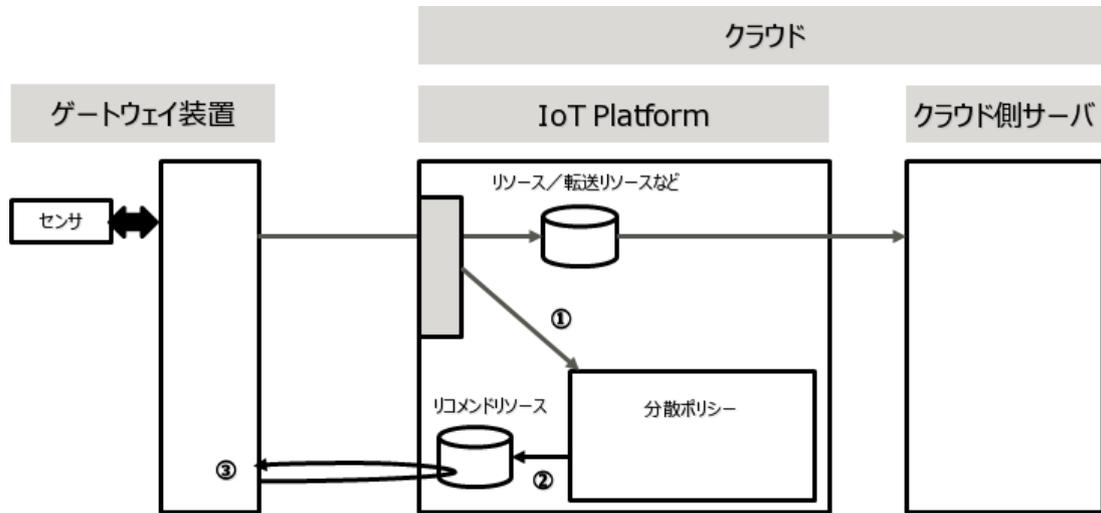


図 3-11. DRC のイメージ

本サービスでは、本サービスに対する負荷情報を集計し、その値をお客様が設定した条件（エッジコンピューティング条件）と比較してリコメンドとして提供します。お客様はリコメンドを利用することにより、お客様の IT リソース内で最適なデータ収集を行うアプリケーションを開発できます。

DRC の動作の流れは以下の通りです。

- ① 本サービスにかかる負荷を分散ポリシーが監視をします。
- ② 予め設定された分散ポリシーに従い、リコメンドリソースにリコメンドが記載されます。
- ③ 書き換えられたリコメンドリソースに応じて、処理の内容を変更します。

図の中のゲートウェイ装置、クラウド、センサーはお客様で用意するものになります。これにより、負荷に応じて処理の内容を変更できるため、安定したシステム運用が可能になります。

### 3.12. MQTT 接続の ID とパスワードについて

・ MQTT 接続アカウント

MQTT を利用する場合のアカウントは、テナント ID となります。

・ MQTT パスワード

MQTT パスワードのポリシーは以下の通りとなります。

<定義>

使用可能文字種別	以下の 4 つの文字種別から最低 1 つずつ使用しなければならない。 英大文字、英小文字、数字、記号（ #, @, -, (, ), :, ., _ の 8 個 ）
文字数	8～12
初期パスワードの有効期限	期限なし
パスワード有効期限	期限なし

### 3.13. リージョンと時刻について

- ・リージョン

本サービスは複数のリージョンで運用を行っています。

ユーザーがログインしているシステムがどのリージョンであるかは、サービスポータル画面上部のテナント ID 表示の横にあるリージョンコードで判別することができます。

- ・システム時刻・API/画面における日時時刻について

本サービスでは、サービスを提供するリージョンに関わらずシステム時刻は協定世界時(UTC)となります。サービスポータル画面で表示される日時情報、ログ出力時刻、API での時刻指定などは全てシステム時刻での表示・出力・指定となります。

### 3.14. 言語について

本サービスでは、サービスポータルの画面上で表示される項目名やメッセージ等の言語を日本語または英語から選択することができます。

言語設定はユーザー作成/変更時およびユーザーによる言語設定変更時に保存され、ログイン時に自動的に設定された言語で表示されます。

### 3.15. クライアント証明書

本サービスでは、クライアント証明書をアクセスコードへのアクセスする際の認証として設定することができます。また、証明書はサービスポータルの画面上で生成することができます。

### 3.16. CORS

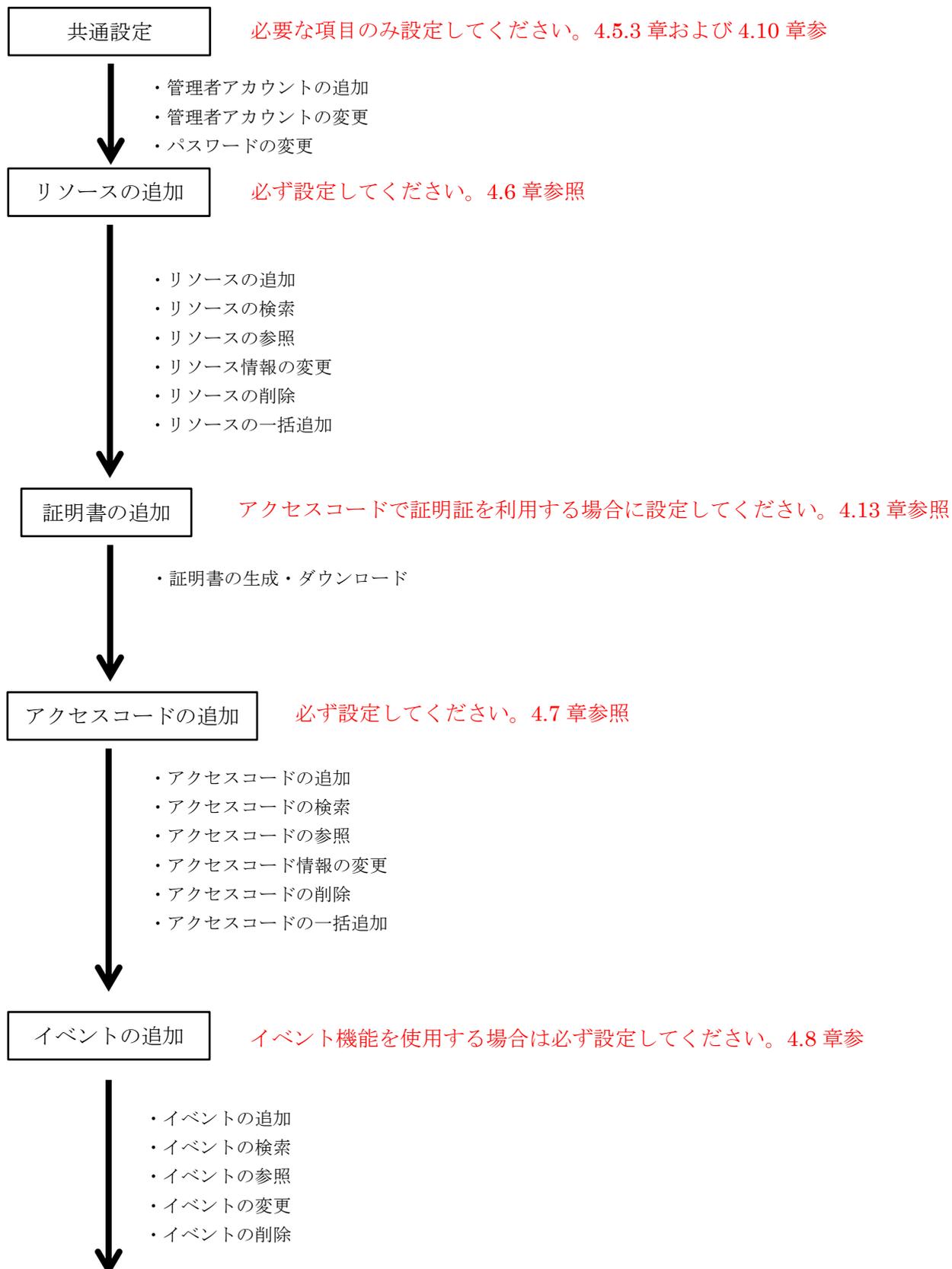
本サービスでは、CORS (Cross-Origin Resource Sharing) を利用することで、本サービスがあるドメイン以外のドメインへの HTTP リクエストができるようになります。サービスポータルの画面上で CORS の有効/無効を切り換えることができます。

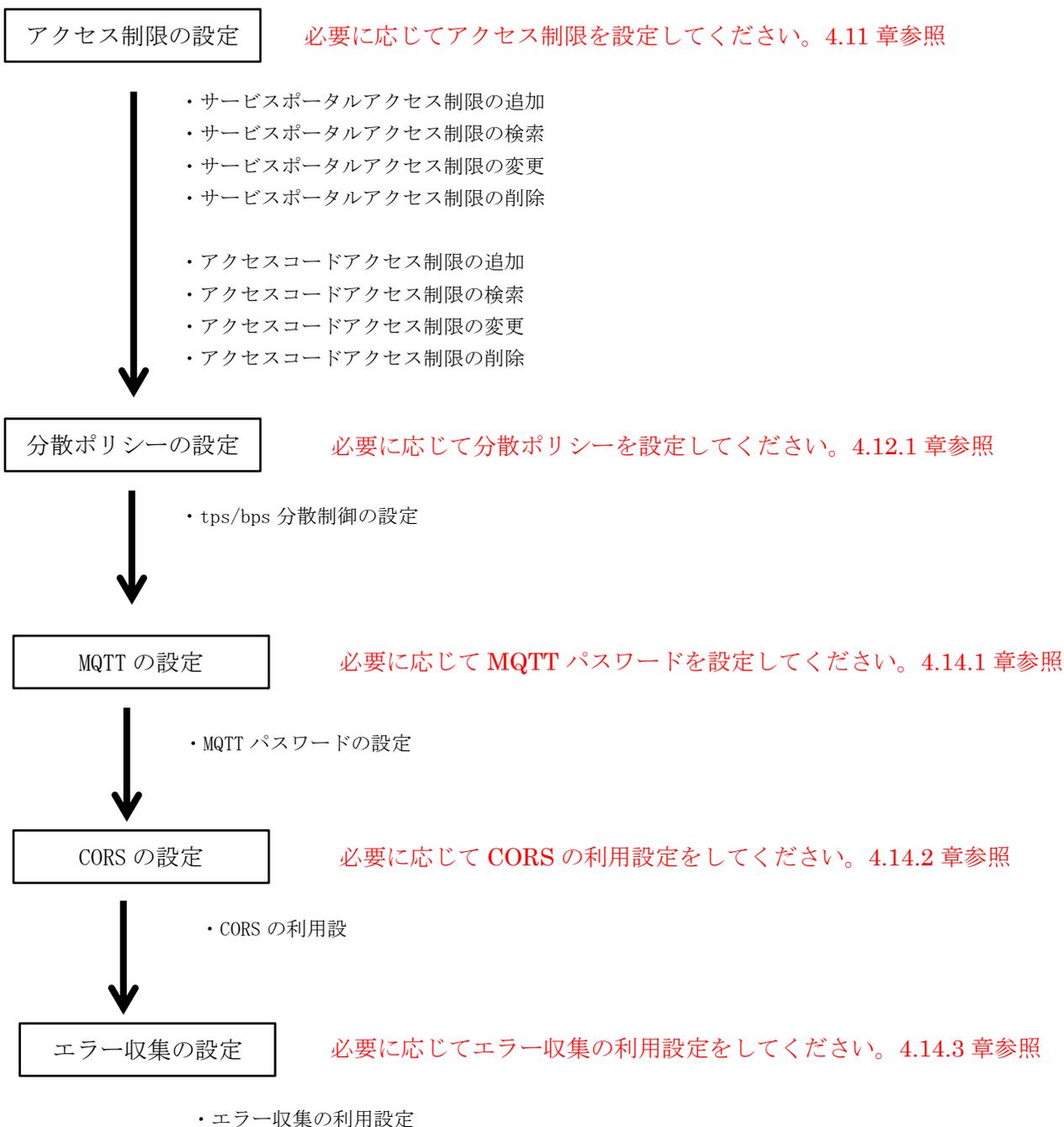
## 第4章 各画面の説明

本章ではサービスポータルのお操作方法について説明します。

### 4.1. 基本的な設定の流れ

本サービスを初めてご利用になる際の大まかな設定の流れです。





## 4.2. CSV ファイルのご利用

リソースやアクセスコードを追加される際は、事前に机上でリストを作成されることを推奨します。初めてお使い頂く場合、または大量に変更される場合は CSV ファイルのアップロードによる一括追加が便利です。詳細は 5.2.2 章および 5.2.4 章を参照願います。

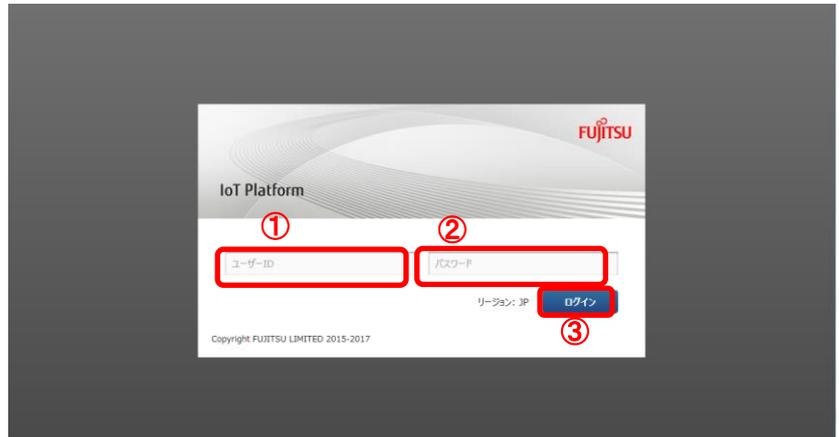
### 4.3. ログイン画面

ログイン URL にアクセスすると以下の画面が表示されます。

#### Memo

・ログイン URL は FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-0 PaaS ポータル画面からサービス利用設定時に表示されます。

- ①にユーザーID を入力します。
- ②にパスワードを入力します。
- ③のログインをクリックします。
- 証明書認証を必要とするユーザーの場合、証明書選択画面が表示されます。正しい証明書を選択後、④のOK をクリックしてください。



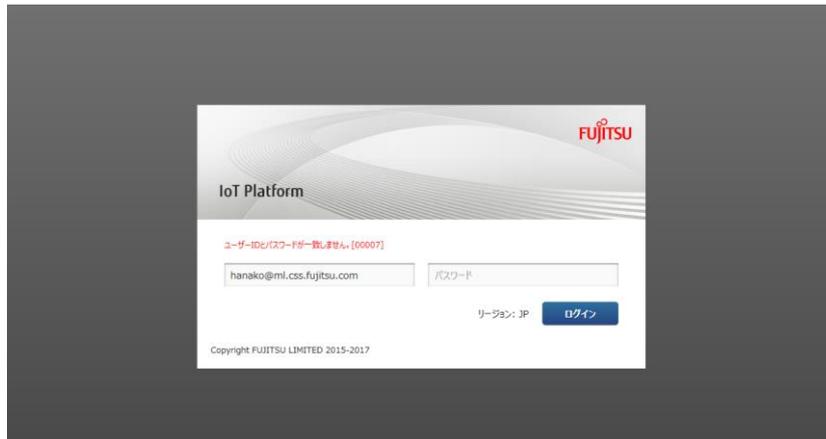
入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
ユーザーID	テキスト	半角英数字	○	-	-	メールアドレス形式
パスワード	テキスト	半角英数字	○	8~15	-	設定可能文字は以下のとおり 英小文字 英大文字 数字 # @ - ( ) : . _

#### Memo

- ・ログイン画面で表示される言語はブラウザの言語設定によって変わります。ブラウザの言語設定が日本語の場合、日本語で表示されます。それ以外の場合は英語で表示されます。
- ・ログイン後の画面で表示される言語はログインするユーザー毎の設定となります。詳細は 4.10 章を参照してください。
- ・ログインに証明書認証を必要とするユーザーは利用端末に証明書を登録する必要があります。手順の詳細は 7.4 章を参照してください。
- ・ログインに証明書認証を必要とするユーザーでない場合、証明書選択画面は表示されません、手順の 3. 実施後、ログイン完了となります。

ユーザーID とパスワードが一致しない場合、または証明書が正しくない場合は以下ようになります。



### ⚠️ 注意

- パスワードを忘却した場合は同一テナント内の他のお客様管理者にてパスワードリセットを行うことにより対処できます。詳細は 4. 10. 4 章（1）を参照ください。
- 証明書選択画面で誤った証明書を選択した場合、再度ログインしようとしても証明書選択画面が表示されず、ログインができない場合があります。その場合、一旦ブラウザを閉じ、起動しなおしてください。

## 4. 4. テナント選択

ログイン成功時にお客様が複数テナントのご契約がある場合は以下の画面が表示されます。

1. 操作したいテナントを①のテナント選択ボタンをクリックにより選択します。クリック後、4. 5 章記載のトップ画面に遷移します。



- ②のコメント編集ボタンをクリックすることで、テナント選択ボタン右側のコメントを編集できます。

### Memo

お客様のご契約テナントが1つのみの場合、本画面は表示されず、4. 5 章記載のトップ画面に直接遷移します。

#### 4.4.1. コメント編集

コメント選択ボタンをクリック時は以下の画面が表示されます。

1. ①のコメントを入力します。
2. ②の更新をクリックします。



入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
コメント	テキスト	任意	-	~256	-	

## 4.5. トップ画面

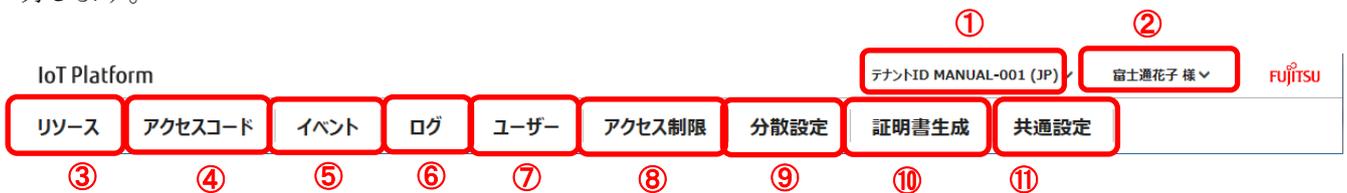
ログインに成功した場合は以下の画面が表示されます。

トップ画面には本サービスの機能概要が表示されます。画像をクリックすることで各機能の概要へジャンプします。



### 4.5.1. 共通画面について

ログイン後以降、どの画面に遷移した場合であっても必ず画面上部に表示される「共通画面」について説明します。



番号	項目名	説明	備考
①	テナント ID 選択	テナント ID を選択します。テナント ID の後に () 付けでリージョンコードが表示されます。	4.5.2 章参照
②	ユーザー選択	「パスワード変更/言語設定/バージョン情報/操作マニュアル/ログアウト」の選択が可能です。	4.5.3～4.5.7 章参照
③	リソース	リソース画面に遷移します。	4.6 章参照
④	アクセスコード	アクセスコード画面に遷移します。	4.7 章参照
⑤	イベント	イベント画面に遷移します。	4.8 章参照
⑥	ログ	ログ画面に遷移します。	4.9 章参照
⑦	ユーザー	ユーザー画面に遷移します。	4.10 章参照
⑧	アクセス制限	アクセス制限画面に遷移します。	4.11 章参照
⑨	分散設定	分散設定画面に遷移します。	4.12 章参照
⑩	証明書生成	証明書生成画面に遷移します。	4.13 章参照
⑪	共通設定	共通設定画面に遷移します。	4.14 章参照

### 4.5.2. テナント ID 選択

お客様が複数テナントをご契約されている場合は、テナント ID 選択プルダウンをクリックすると「テナント選択」が表示されます。テナント選択をクリックすると、4.4 章の画面に遷移します。

#### Memo

お客様のご契約テナントが1つのみの場合、テナント ID 選択をクリックしても何も表示されません。

### 4.5.3. パスワード変更選択

サービスポータルにログインするためのパスワード変更の変更方法を説明します。

1. トップ画面のユーザー名プルダウンより「パスワード変更」を選択すると、パスワード変更画面に遷移します。
2. 旧パスワードを入力します。
3. 新パスワードを入力します。
4. 新パスワード（確認用）を入力します。
5. 変更をクリックします。



#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
旧パスワード	テキスト	半角 英数字	○	8～15	-	設定可能文字は以下のとおり 英小文字 英大文字 数字 # @ - ( ) : . _
新パスワード	テキスト	半角 英数字	○	8～15	-	設定可能文字は以下のとおり 英小文字 英大文字 数字 # @ - ( ) : . _
新パスワード (確認用)	テキスト	半角 英数字	○	8～15	-	設定可能文字は以下のとおり 英小文字 英大文字 数字 # @ - ( ) : . _

#### 4.5.4. 言語設定

サービスポータルで表示される言語の変更方法を説明します。

ユーザー名プルダウンの言語設定から変更したい言語を選択してください。

言語は Japanese、English が選択できます。



#### Memo

言語設定で言語を変更した場合、設定が保存され、次回以降のログイン時も選択した言語で表示されるようになります。

#### 4.5.5. バージョン情報選択

ユーザー名プルダウンでバージョン情報を選択した場合は以下の画面が表示されます。

閉じるをクリックで前の画面に戻ります。



#### 4.5.6. 操作マニュアル選択

ユーザー名プルダウンで操作マニュアルを選択した場合は、本操作マニュアルをお客様がログインされている端末にて表示します。

#### 4.5.7. ログアウト

共通画面のユーザー名プルダウンからログアウトを選択することでログアウトできます。



注意

- ・ブラウザを終了する前には必ずログアウトしてください。

## 4.6. リソース画面

共通画面のリソースをクリックすると、リソース画面が表示されます。



番号	項目名	説明	備考
①	一括追加	リソース一括追加します。	4.6.1章参照
②	追加	リソース追加します。	4.6.2章参照
③	リソースパス	リソース検索時に設定します。	4.6.4章参照
④	リソース名	リソース検索時に設定します。	4.6.4章参照
⑤	ダウンロード	設定したリソース情報のダウンロードをします。	4.6.3章参照
⑥	検索	リソース検索します。	4.6.4章参照
⑦	削除	リソース一括削除時に使用します。	4.6.6章参照

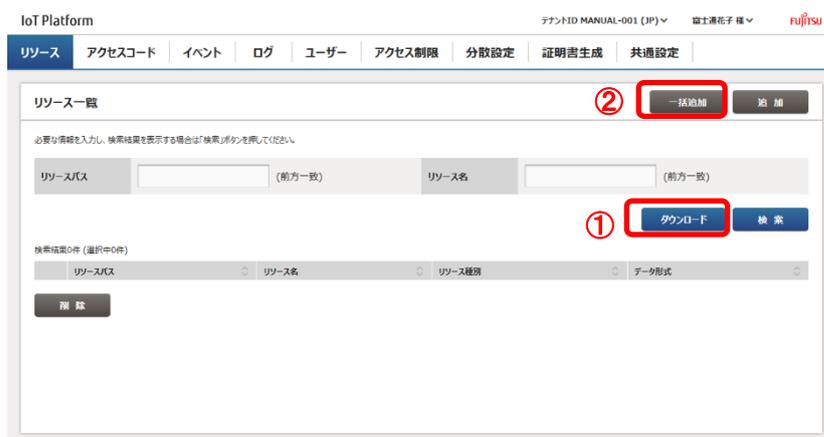
### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
リソースパス	テキスト	半角英数字	-	~128	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 -(ハイフン)、_(アンダー)、/(スラッシュ) 4.6.4参照
リソース名	テキスト	任意	-	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字 @ - ( ) : . _ 4.6.4参照

#### 4.6.1. リソース一括追加

CSV ファイルを用いることにより、リソースを一括して追加することができます。

1. ①のダウンロードをクリックし、CSV の雛形を操作端末へダウンロードします。
2. CSV ファイルを編集します。
3. ②の一括追加をクリックします。
4. ③の参照をクリックし、編集した CSV ファイルを選択します。
5. ④の追加をクリックします。



### Memo

- ダウンロードされるファイル名は resource\_YYYYMMDDHHMMSS.csv の形式となります。
- リソースが追加されていない状態でダウンロードを行うと、リソース未追加状態の CSV 雛形のみがダウンロードできます。
- ダウンロードをしなくても、操作 PC から雛形と同じ書式の CSV ファイル編集による追加も可能です。
- 一度の一括追加操作で追加できるリソース数は最大で 100 件です。100 件以上のリソースを追加される場合は一括追加操作を複数回にわけて操作願います。
- リソースパスやリソース名が同じテナント ID 内で既に使用されている場合は追加できません。
- リソースが追加された状態の CSV ファイルをダウンロードして編集される場合は、リソースの追加編集のみ可能です。既に追加済みのリソースの変更はできません。
- CSV フォーマットについて 7.1 章を参照願います。

#### ➤ (1) 前回の結果表示

リソース一括追加画面より「前回の結果表示」をクリックすると、直前の操作時のログが出力されます。

#### 4.6.2. リソース追加

4.6 章記載のリソース画面で追加をクリックした場合は以下の画面が表示されます。本メニューはリソースを1つのみ追加したい場合使用します。最初に以下の画面の①でリソース種別を選択してください。リソース種別で「リソース」が選択された場合はデータ蓄積用のリソースの入力項目が表示され、「リソース(転送)」が選択された場合はデータ転送用リソースの入力項目が表示されます。以下、データ蓄積用のリソースの場合とデータ転送用リソースの場合について説明します。

##### ・データ蓄積用のリソースの場合

- ①のプルダウンでリソースを選択します。
- ②にリソースパスを入力します。
- ③にリソース名を入力します。
- ④のプルダウンでデータ形式を選択します。
- ⑤の追加をクリックします。
- 追加クリック後はリソース追加・確認画面が表示され、⑥の確定をクリック後に追加できます。

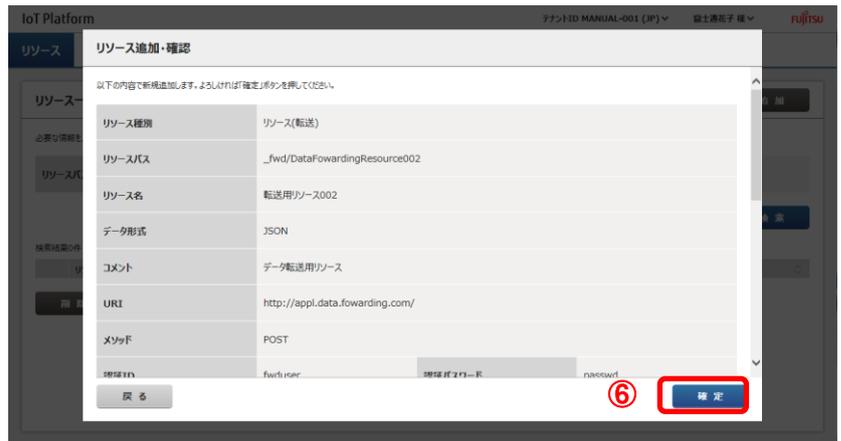
##### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
リソース種別	プルダウン	-	○	-	リソース	リソース、リソース(転送)から選択
リソースパス	テキスト	半角	○	~128	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 -(ハイフン)、_(アンダー)、/(スラッシュ)
リソース名	テキスト	全半角 英数字 記号	-	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字 @ - ( ) : . _
データ形式	プルダウン	-	○	-	JSON	JSON、バイナリから選択
コメント	テキスト	任意	-	~256	-	
保存期間	テキスト	半角数字	○	~4	1	単位:日 登録されたデータは保存期間経過後、適宜 削除されます。

- ・データ転送用のリソースの場合
- ①のプルダウンでリソース(転送)を選択します
  - ②にリソースパスを入力します。
  - ③にリソース名を入力します。
  - ④に転送先の情報および転送するデータの設定を入力します。
  - ⑤の追加をクリックします。



- 追加クリック後は確定画面が表示され、⑥の確定クリック後に追加できます。



入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
リソース種別	プルダウン	-	○	-	リソース	リソース/リソース(転送)から選択
リソースパス	テキスト	半角	○	~128 (※1)	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 -(ハイフン)、_(アンダー)、/(スラッシュ)
リソース名	テキスト	全半角 英数字	-	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字 @ - ( ) : . _
データ形式	プルダウン	-	○	-	JSON	JSONのみ
コメント	テキスト	任意	-	~256	-	
URI	テキスト	半角	-	~256	-	
メソッド	プルダウン	-	-	-	(空白)	(空白)/POST/PUT/GET/DELETE/HEAD/ OPTIONS/TRACEから選択
認証ID	テキスト	半角	-	~20	-	
認証パスワード	テキスト	半角	-	~20	-	
ヘッダ名1~10	テキスト	半角	-	~20	-	
ヘッダ値1~10	テキスト	半角	-	~512	-	

## Memo

- ・リソースパスが同じテナント内で既に使用されている場合は追加できません。
- ・リソースパスの最初に\_(アンダー)がつくパス、および/(スラッシュ)の直後に\_(アンダー)が付くようなパスの指定はできません。
- ・リソース種別がリソースでデータ形式がバイナリのリソースパスは先頭に\_bin/が自動的に付加されます。
- ・リソース種別がリソース(転送)のリソースパスは先頭に\_fwd/が自動的に付加されます。
- ・(※1)リソースパスの文字数は\_bin/、\_fwd/を含めて最大 128 文字までとなります。
- ・リソース/アクセスコードを追加または変更してから実際にこれらの設定を使って API アクセスができるようになるまで最大で 5 分程度かかる場合があります。

### 4.6.3. リソースダウンロード

お客様のテナントに登録されているリソースの情報をダウンロードすることができます。本機能を用いることで、検索キーにヒットした全てのリソースがダウンロードできます。

ダウンロードをクリックすることでテナント内のリソースの情報をダウンロードできます。

The screenshot shows the 'IoT Platform' interface with a navigation menu at the top including 'リソース', 'アクセスコード', 'イベント', 'ログ', 'ユーザー', 'アクセス制限', '分散設定', '証明書生成', and '共通設定'. The main content area is titled 'リソース一覧' and contains a search form with fields for 'リソースパス' and 'リソース名', both with '(前方一致)' (prefix match) indicators. A red box highlights the 'ダウンロード' (Download) button. Below the search form, there is a table with 3 items (selected 0 items) and a '削除' (Delete) button.

リソースパス	リソース名	リソース種別	データ形式
<input type="checkbox"/> DataResource001	データ用リソース001	リソース	JSON
<input type="checkbox"/> _error		リソース	JSON
<input type="checkbox"/> _fwd/DataForwardingResource002	転送用リソース002	リソース(転送)	JSON

## Memo

- ・未検索状態で、ダウンロードを実行するとすべてのテナント内の全てのリソースが含まれたファイルをダウンロードします。検索後に検索状態に戻すには、共通画面のリソース以外を一旦クリッし、再度共通画面のリソースをクリックしてください。

### ⚠ 注意

- ・登録リソース数が多い状態で全てのリソースをダウンロードした場合はダウンロード時間が長くなる場合がありますので、検索条件で絞ってダウンロードされることを推奨します。

#### 4.6.4. リソース検索

リソース画面からリソースを検索することができます。主にリソースに関する編集や不要なリソースを削除する場合に使います。又、検索条件にヒットしたリソース情報のみをダウンロードすることもできます。

1. ①の箇所に検索したいリソースパス又はリソース名を前方一致で入力します。
2. ②の検索をクリックすると、画面下部に検索結果が表示されます。

リソースパス	リソース名	リソース種類	データ形式
<input type="checkbox"/> DataResource001	データ用リソース2001	リソース	JSON
<input type="checkbox"/> _error		リソース	JSON
<input type="checkbox"/> _fwd/DataForwardingResource002	転送用リソース2002	リソース(転送)	JSON

- ③をクリックすることにより、検索結果をソートできます。ソートの表示順については 7.2 章を参照願います。

#### Memo

- リソースパスおよびリソース名は前方一致での検索が可能です。
- 検索結果として表示される最大件数は 100 件です。最大件数を超える条件で検索を行った場合は 100 件までしか表示されませんのでご注意ください。

## 4.6.5. リソース設定変更

リソース追加後に、リソース設定を変更することができます。

1. リソース画面から変更したいリソースを検索します。検索の方法は4.6.4章を参照願います。
2. リソースの設定を変更したいリソースパス①をクリックします。
3. リソース名を変更したい場合は②に入力します。
4. コメントを変更したい場合は③に入力します。

※必要に応じて他の入力項目を変更することも可能です。入力項目については4.6.2 リソース追加を参照してください。

5. ④の更新をクリックします。
6. リソース更新・確認画面が出力されますので問題ないことを確認し、確定をクリックします。

リソースパス	リソース名	リソース種類	データ形式
DataResource001	データ用リソース001	リソース	JSON
_error		リソース	JSON
_fwd/DataForwardingResource002	転送用リソース002	リソース(転送)	JSON

リソース種類	リソース
リソースパス	DataResource001
リソース名	データ用リソース001
データ形式	JSON
コメント	データ用リソース
保存期間(1~9999日)*	1
REST URI	http://api.dev11.iot.jp.fujitsu.com/v1/MANUAL-001/DataResource001
MQTT Topic	<アクセスコード>/v1/MANUAL-001/DataResource001

リソースパス	DataResource001
リソース名	データ用リソース001
データ形式	JSON
コメント	データ用リソース
保存期間(1~9999日)	10
REST URI	http://api.dev11.iot.jp.fujitsu.com/v1/MANUAL-001/DataResource001
MQTT Topic	<アクセスコード>/v1/MANUAL-001/DataResource001

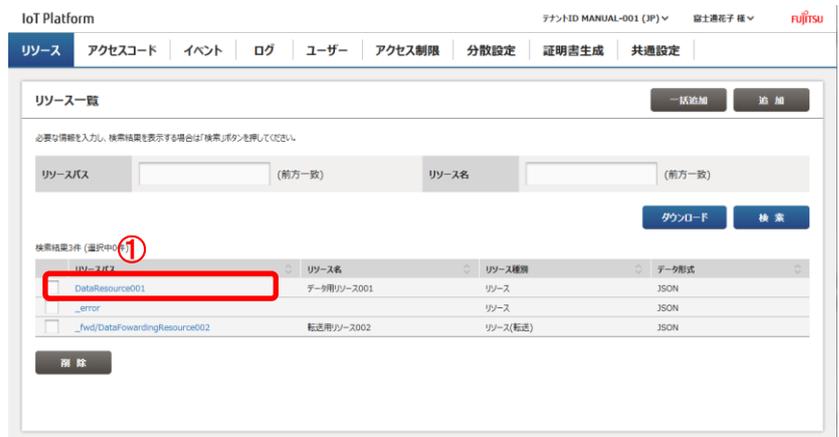
### ⚠️ 注意

- ・リソースパス、データ形式の変更はできません。
- ・リソースパス、データ形式を変更する場合は該当のリソースを削除後、新たに追加することにより対処してください。
- ・テナント作成時にシステムにより追加される、エラー収集用リソース「\_error」は更新および削除できません。

## ➤ (1) リソースの削除

リソースを1つだけ削除したい場合の操作方法について説明します。なお、アクセスコードが削除したいリソースにだけ紐づいている場合は、先にアクセスコードを削除する必要があります。詳細は4.7.5章(5)を参照願います。

1. リソース画面から削除したいリソース名を検索します。検索の方法は4.6.4章を参照願います。
2. リソース名を削除したいリソースパス①をクリックします。
3. リソース更新画面の削除②をクリックします。



4. 確認画面が表示されるので、確認後、実行をクリックします。



### Memo

- ・4.6.6章記載の方法でもリソースを削除することができます。

### ⚠ 注意

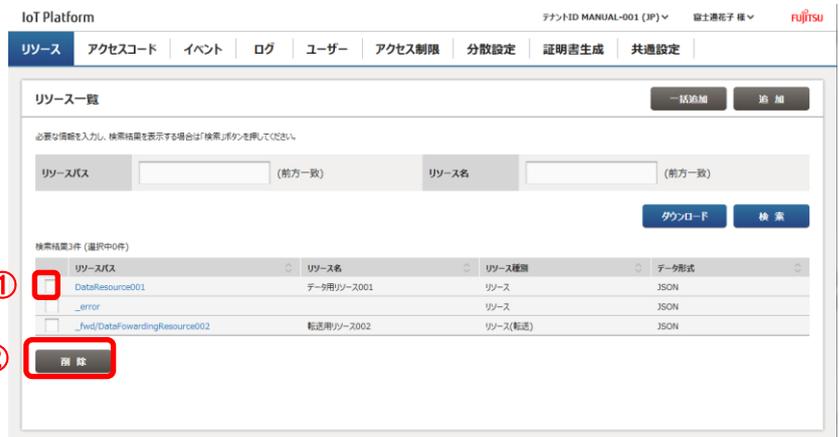
- ・削除操作を行うと、リソースおよび書き込みされたデータの全てが削除されます。
- ・削除されたリソースおよびリソースに書き込みされたデータを復元することはできませんので、お客様の責任のもと、十分に確認されたうえで、削除をお願いします。

- ・テナント作成時にシステムにより追加される、エラー収集用リソース「\_error」は削除できません。「\_error」のリソース更新画面で削除ボタンをクリックしても削除失敗となります。

#### 4.6.6. リソース一括削除

リソースの一括削除は以下の手順で行います。なお、アクセスコードが削除したいリソースにだけ紐づいている場合は、先にアクセスコードを削除する必要があります。詳細は4.7.6章を参照願います。

1. リソース画面から変更したいリソース名を検索します。検索の方法は4.6.4章を参照願います。
2. 削除したいリソースのチェックボックス①にチェックします。複数ある場合は複数にチェックします。
3. 削除②をクリックします。
4. 確認画面が表示されるので、確認後、③の実行をクリックします。



### Memo

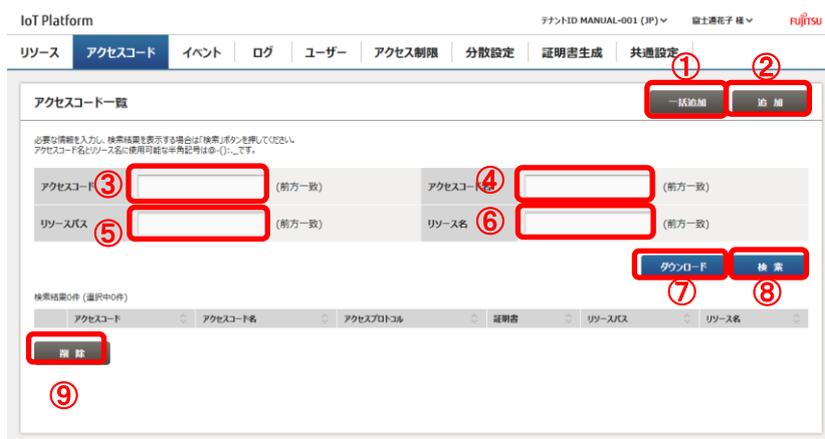
- ・4.6.5章（1）記載の方法でもリソースを削除することができます。

### ⚠️ 注意

- ・削除操作を行うと、リソースおよび蓄積用のリソースに書き込みされたデータの全てが削除されます。
- ・削除されたリソースおよびリソースに書き込みされたデータを復元することはできませんので、お客様の責任のもと、十分に確認されたうえで、削除をお願いします。
- ・テナント作成時にシステムにより追加される、エラー収集用リソース「\_error」は削除できません。「\_error」をチェックし、削除実行した場合、「\_error」の削除は失敗となります。

#### 4.7. アクセスコード画面

共通画面のアクセスコードをクリックすると、アクセスコード画面が表示されます。



番号	項目名	説明	備考
①	一括追加	アクセスコード一括追加します。	4.7.1 章参照
②	追加	アクセスコード追加します。	4.7.2 章参照
③	アクセスコード	アクセスコード検索時に設定します。	4.7.3 章参照
④	アクセスコード名	アクセスコード検索時に設定します。	4.7.3 章参照
⑤	リソースパス	アクセスコード検索時に設定します。	4.7.3 章参照
⑥	リソース名	アクセスコード検索時に設定します。	4.7.3 章参照
⑦	ダウンロード	設定したアクセスコード情報のダウンロードをします。	4.7.4 章参照
⑧	検索	アクセスコード検索します。	4.7.3 章参照
⑨	削除	アクセスコード一括削除時に使用します。	4.7.6 章参照

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考（使用可能文字）
	入力方法	文字種				
アクセスコード	テキスト	半角英数字	-	3~48	-	数字、英小文字、英大文字 4.7.3 参照
アクセスコード名	テキスト	備考参照	-	3~48	-	数字、英小文字、英大文字、 全角文字、@ - ( ) : . _ 4.7.3 参照
リソースパス	テキスト	半角英数字	-	~128	-	数字、英小文字、英大文字、 -(ハイフン)、_(アンダー)、 /(スラッシュ) 4.7.3 参照
リソース名	テキスト	備考参照	-	~32	-	数字、英小文字、英大文字、 全角文字、@ - ( ) : . _ 4.7.3 参照

#### 4.7.1. アクセスコード一括追加

CSV ファイルを用いることにより、アクセスコードを一括して追加することができます。

1. ①のダウンロードをクリックし、CSV の雛形を操作端末へダウンロードします。
2. CSV ファイルを編集します。
3. ②の一括追加をクリックします。
4. ③の参照をクリックし、編集した CSV ファイルを選択します。
5. ④の追加をクリックします。



### Memo

- ダウンロードされるファイル名は access\_code\_YYYYMMDDHHMMSS.csv となります。
- アクセスコードが追加されていない状態でダウンロードを行うと、アクセスコード未追加状態の CSV 雛形のみがダウンロードできます。
- ダウンロードをしなくても、操作 PC から雛形と同じ書式の CSV ファイル編集による追加も可能です。
- 一度の一括追加操作で追加できるアクセスコード数は最大で 100 件です。100 件以上のアクセスコードを追加される場合は一括追加操作を複数回にわけて操作願います。
- 1つのアクセスコードに対して複数のリソースパスを割り当てる場合は 7.1.2 章の CSV イメージのように横の行に追加することで対応できます。
- アクセスコードおよびアクセスコード名は既に追加済みの値と重複しないように設定してください。
- イベントの対象とするアクセスコードに対しては必ず R または G のアクセス権限を割り当ててください。
- アクセスコード一括追加ではアクセスコードに証明書を設定することはできません。
- CSV フォーマットについて 7.1 章を参照願います。

#### ➤ (1) 前回の結果表示

リソース一括追加画面より「前回の結果表示」をクリックすると、直前の操作時のログが出力されます。

#### 4.7.2. アクセスコード追加

4.7 章記載のアクセスコード画面で追加をクリックした場合は以下の画面が表示されます。本メニューはアクセスコードを1つのみ追加したい場合に使用します。

1. ①にてアクセスコードを入力します。
2. ②にてアクセスコード名を入力します。
3. アクセスプロトコルを指定する場合、③にて指定有を選択し、指定するアクセスプロトコルをチェックします。指定しない場合、指定無を選択してください。

4. 証明書を設定する場合は④の参照ボタンをクリックし、証明書ファイルを選択します。

5. 本アクセスコードの権限を付与したいリソースを選択します。

- 5-1. ⑤にてリソースパス又は、リソース名の検索キーワードを入力します。

- 5-2. ⑥の検索をクリックすると、画面下部に検索条件にヒットしたリソースが表示されます。

- 5-3. 権限を付与したいリソースを⑦のチェックボックスにて選択後、⑧の追加をクリックすると、画面下部の使用リソース一覧に選択したリソース追加されます。

6. リソースに対する権限を⑨の部分のチェックボックスを選択することにより設定します。

権限はAPI 経由での登録・更新・削除・一覧参照(CDL)、API 経由での一覧参照(L)、配下の全リソースの更新・削除(P)、配下の全リソースの参照(G)、データ登録(U)、データ参照(R)を設定できます。

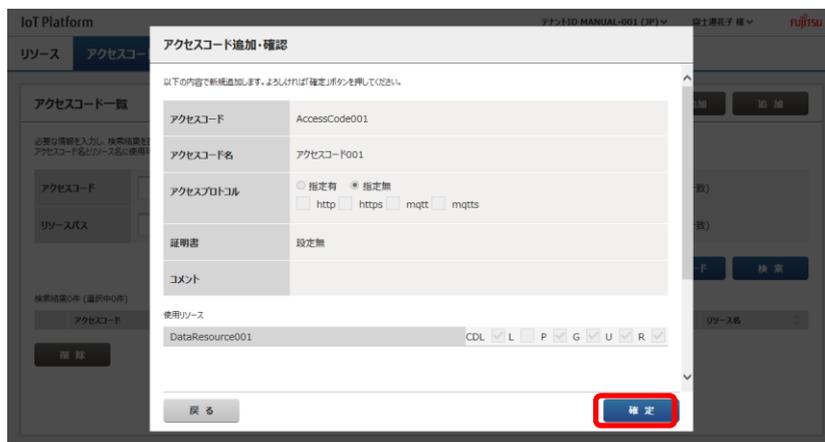
※使用リソース一覧の全選択をチェックすると、一括で、CDL, L, P, G, U, R の付与ができます。

7. 5. および6. の操作を必要設定分繰り返します。
8. ⑩の追加をクリックします。

9. 追加・確認画面表示後内容を確認し



9. 追加・確認画面表示後内容を確認し  
確定をクリックします。



### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
アクセスコード	テキスト	-	○	3~48	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字
アクセスコード名	テキスト	全半角 英数字	-	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字、@ - ( ) : . _
アクセスプロトコ ル	ラジオボ タン	-	-	-	指定無	指定無、指定有から選択
アクセスプロトコ ル(種別)	チェック ボックス	-	○	-	HTTP, HTTPS, MQTT, MQTTS	アクセスプロトコルで指定無が選択 されている場合のみチェックできま す。 HTTP、HTTPS、MQTT、MQTTS から複数 選択可
証明書	テキスト	備考参 照	-	-	-	ファイルパス使用可能な文字が使用 可能
コメント	テキスト	任意	-	~256	-	
リソースパス	テキスト	備考参 照	-	~128	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 -(ハイフン)、_(アンダー)、/(スラ ッシュ)
リソース名	テキスト	備考参 照	-	~32		使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字、@ - ( ) : . _

### Memo

- ・追加画面内のリソースパスをクリックするとリソース名を表示することができます。
- ・イベントの対象とするアクセスコードに対しては必ずRまたはGのアクセス権限を割り当ててください。
- ・CDLのアクセス権限はAPI経由で当該リソース配下にリソースを追加、またはAPI経由で追加したリソースの更新/削除を行いたい場合に割り当ててください。
- ・CDLのアクセス権限にチェックが付けられている場合、Lのアクセス権限はチェックが付けられません。
- ・Lのアクセス権限にチェックが付けられている場合、CDLのアクセス権限はチェックが付けられません。
- ・アクセスコードが同じテナントIDの範囲内で既に使用されている場合は追加ができません。

- ・リソース/アクセスコードを追加または変更してから実際にこれらの設定を使って API アクセスができるようになるまで最大で5分程度かかる場合があります。
- ・分散設定画面(4.12章)の負荷リソースまたはリコメンドリソースに設定したアクセスコードは分散設定を有効にしている場合、該当のアクセスコードを削除することはできません。  
この場合、分散設定を無効にすることで当該アクセスコードを削除することができるようになります。
- ・証明書は「証明書生成画面」で生成したクライアント証明書 (PEM(. crt)形式) またはお客様が用意した任意のクライアント証明書 (PEM(. crt)形式) を使用できます。
- ・「証明書生成画面」で生成したクライアント証明書は PKCS#12(. p12)形式となります。この形式から PEM(. crt)形式の証明書を生成する方法については IoT Platform ユーザーガイドの「5.8 クライアント認証について」を参照ください。
- ・証明書として利用可能なファイルのサイズは10000Byte以下となります。

#### 4.7.3. アクセスコード検索

アクセスコード画面からアクセスコードを検索することができます。主にアクセスコードに関する編集や不要なアクセスコードを削除する場合に使用します。

1. ①の箇所に検索したいアクセスコード又はアクセスコード名又はリソースパス又はリソース名を入力します。
2. ②の検索をクリックすると、画面下部に検索結果が表示されます。
- ・③をクリックすることにより、検索結果をソートできます。ソートの表示順については 7.2 章を参照願います。

#### Memo

- ・全ての検索キーは前方一致での対応となっています。
- ・検索結果として表示される最大件数は100件です。最大件数を超える条件で検索を行った場合は100件までしか結果が表示されませんのでご注意ください。

#### ⚠️ 注意

- ・アクセスコード、アクセスコード名に\_(アンダーバー)だけ入力して検索ボタンを押下すると、全アクセスコードがヒットしてしまいますので、このような検索を実行しないでください。

#### 4.7.4. アクセスコードダウンロード

お客様のテナントに登録されているアクセスコードの情報をダウンロードすることができます。本機能を用いることで、検索キーにヒットした全てのリソースがダウンロードできます。

1. 4.7.3 章記載のアクセスコード検索により検索を実行します。
2. ダウンロードをクリックします。

The screenshot shows the 'IoT Platform' interface with the 'Access Code List' page. The page has a navigation bar with 'リソース', 'アクセスコード', 'イベント', 'ログ', 'ユーザー', 'アクセス制限', '分散設定', '証明書生成', and '共通設定'. Below the navigation bar, there are search filters for 'アクセスコード', 'アクセスコード名', 'リソースパス', and 'リソース名'. A 'ダウンロード' button is highlighted with a red box. Below the filters, there is a table with search results. The table has columns for 'アクセスコード', 'アクセスコード名', 'アクセスプロトコル', '証明書', 'リソースパス', and 'リソース名'. The first row is 'AccessCode001' and the second row is 'ForwardingAccess002'. There is a '削除' button at the bottom left of the table.

#### Memo

- ・未検索状態で、ダウンロードを実行するとすべてのテナント内の全てのアクセスコードが含まれたファイルをダウンロードします。検索後に検索状態に戻すには、共通画面のアクセスコード以外を一旦クリッし、再度共通画面のアクセスコードをクリックしてください。

#### ⚠️ 注意

- ・アクセスコードダウンロードではアクセスコードに設定されている証明書のダウンロードはできません。

#### 4.7.5. アクセスコード設定変更

アクセスコード検索実行後に設定変更したいアクセスコードのリンクをクリックすることでアクセスコード変更画面が表示されます。なお、該当のアクセスコードがイベント設定に割付してある場合は削除することができません。この場合はイベント設定の方を先に削除してからアクセスコードを削除してください。

1. アクセスコード画面から設定変更したいアクセスコードを検索します。検索の方法は4.7.3章を参照願います。
2. 設定変更したいアクセスコード①をクリックするとアクセスコード変更画面に遷移します。以降にアクセスコード変更画面内で実施できる内容および操作方法について説明していきます。

The screenshot shows the 'IoT Platform' interface with the 'Access Code List' page. The 'AccessCode001' link in the search results table is highlighted with a red box and a circled number 1. The table has columns for 'アクセスコード', 'アクセスコード名', 'アクセスプロトコル', '証明書', 'リソースパス', and 'リソース名'. The first row is 'AccessCode001' and the second row is 'ForwardingAccess002'. There is a '削除' button at the bottom left of the table.

➤ (1) アクセスコード名の変更

1. ①のアクセスコード名を変更します。必要に応じて②のコメントも編集できます。
2. ③の更新をクリックします。

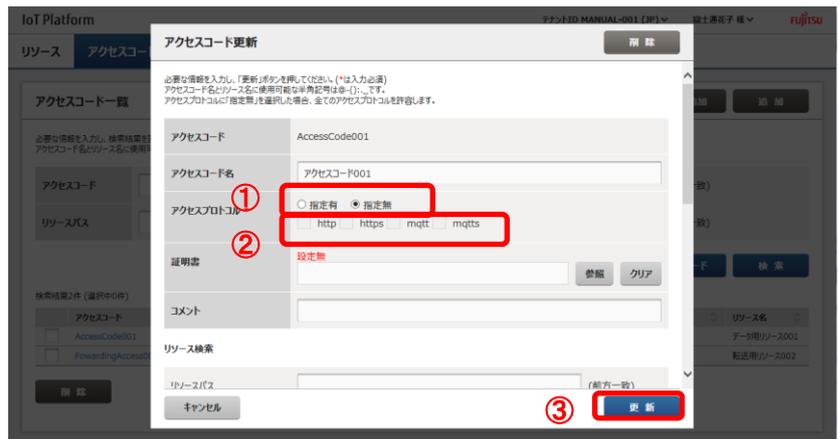


⚠ 注意

- アクセスコードの値の変更はできません。アクセスコードの値を変更する場合は該当のアクセスコードを削除後、新たにアクセスコードを追加することにより対処してください。

➤ (2) アクセスプロトコルの変更

1. ①の指定の有無または②のアクセスプロトコルのチェック状態を変更します。
2. ③更新をクリックします。



➤ (3) 証明書の変更

- 証明書が設定されていない場合  
証明書の項目には「設定無」と表示されます。

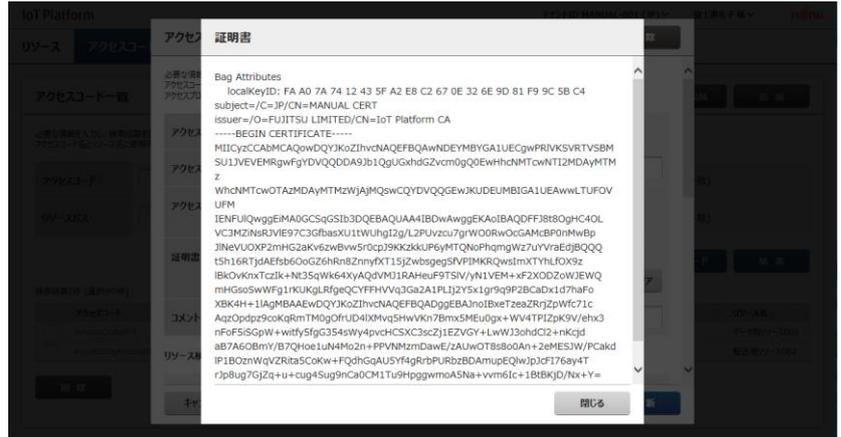
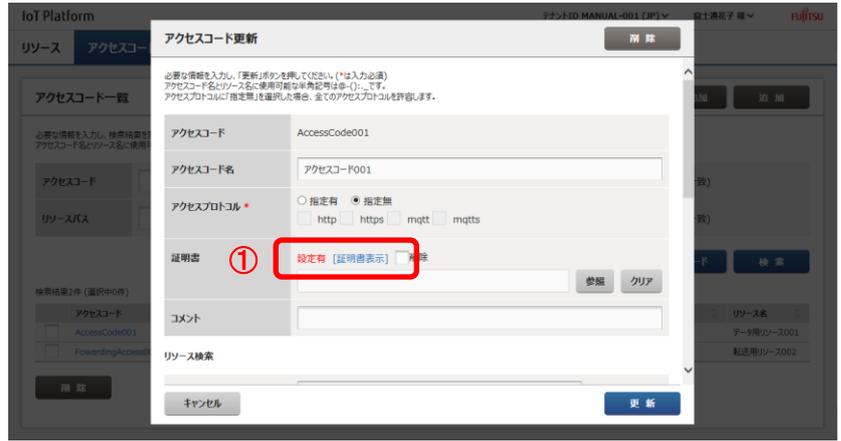
1. 証明書を設定する場合は①の参照ボタンをクリックし、証明書ファイルを選択します。
2. ②の更新をクリックします。



・証明書が設定されている場合

証明書の項目には「設定有」と表示されます。また、「証明書表示」リンクと削除チェックボックスが表示されます。

「証明書表示」(①)をクリックすると現在設定されている証明書の内容を表示します。



－ 別の証明書への変更

1. 別の証明書へ変更する場合、①の参照ボタンをクリックし、証明書ファイルを選択します。

2. ②の更新をクリックします。



－ 証明書の削除

1. 証明書を削除する場合、①の削除チェックボックスをチェックします。

2. ②の更新をクリックします。



➤ (4) 該当アクセスコードに紐づくリソースの追加

1. ①のリソースパス/リソース名を検索キーにして追加したいリソースを検索します。
2. 画面下部に検索キーにヒットしリソースパスが表示されるため、追加したいリソースを②のチェックボックスにより選択します。
3. ③の追加をクリックすると、使用リソース一覧内に新たにリソースが追加されます。
4. 追加したリソースに対してアクセス権限を④のチェックボックスにより割り当てます。
5. ⑤の更新をクリックします。



**Memo**

- ・リソースパス、リソース名の検索は前方一致で行ってください。

**注意**

- 1 つのアクセスコードに 101 個以上のリソースを紐付けしている場合はポータル画面から設定変更を行うことはできません。101 個以上のリソースを紐付けしている場合の設定変更は以下の A. B. いずれかの手順により実施してください。
- A. アクセスコード更新 API を利用する。(IoT Platform API リファレンスを参照ください。)
  - B. アクセスコードダウンロード機能(4.7.4 章参照)を利用し、以下の手順で設定変更する。
    1. アクセスコードのダウンロードを行う。
    2. ダウンロードした csv ファイルを編集する。
    3. 編集したいアクセスコードをポータル画面から削除する。(4.7.6 章参照)
    4. 2. で編集した csv ファイルでアクセスコード一括追加を行う。(4.7.1 章参照)

➤ (5) アクセスコード割付済みリソースに対するアクセス権限変更

1. 画面下部の使用リソースからアクセス権を変更したいリソースを選択し、①のチェックボックスのチェックやチェックをはずすことによりアクセス権を変更します。
2. ②の更新をクリックします。



➤ (6) アクセスコード割付済みリソースの割付解除

1. 使用リソース一覧から割付解除したいリソースを①のチェックボックスをチェックすることにより選択します。
2. ②の解除をクリックすることにより選択したリソースが使用リソース一覧から削除されます。
3. ③の更新をクリックします。



➤ (7) アクセスコード変更画面からのアクセスコード削除

1. アクセスコード削除をクリックします。
2. アクセスコード削除・確認画面が表示されるので問題ないことを確認し、問題なければ実行をクリックします。



注意

- ・削除されたアクセスコード情報を復元することはできませんので、お客様の責任のもと、十分に確認されたうえで、削除をお願いします。

#### 4.7.6. アクセスコード一括削除

アクセスコードの一括削除は以下の手順で行います。なお、該当のアクセスコードがイベント設定に割付してある場合は削除することができません。この場合はイベント設定の方を先に削除してからアクセスコードを削除してください。

1. アクセスコード画面から削除したいアクセスコードを検索します。検索の方法は4.7.3章を参照願います。
2. 削除したいアクセスコードのチェックボックス(①)にチェックします。複数ある場合は複数にチェックします。
3. 削除(②)をクリックします。
4. 確認画面が表示されるので、確認後、実行をクリックします。



#### Memo

- ・4.7.5章(5)に記載の方法でもアクセスコードの削除は行えます。

#### ⚠注意

- ・アクセスコードアクセス制限機能で許可IPアドレスと紐づけられているアクセスコードは削除できません。削除する場合は許可IPアドレスとの紐付けを解除してから行ってください。
- ・削除されたアクセスコード情報を復元することはできません。お客様の責任のもと、十分に確認されたうえで、削除をお願いします。

## 4.8. イベント画面

共通画面のイベントをクリックすると、イベント画面が表示されます。

番号	項目名	説明	備考
①	追加	イベント追加します。	4.8.1章参照
②	イベントID	イベント検索時に設定します。	4.8.3章参照
③	イベント名	イベント検索時に設定します。	4.8.3章参照
④	リソースパス	イベント検索時に設定します。	4.8.3章参照
⑤	リソース名	イベント検索時に設定します。	4.8.3章参照
⑥	検索	イベント検索します。	4.8.3章参照
⑦	削除	イベント一括削除時に使用します。	4.8.5章参照

### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
イベントID	テキスト	半角英数字	-	~12	-	
イベント名	テキスト	備考参照	-	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字 @ - ( ) : . _ 4.8.3参照
リソースパス	テキスト	半角英数字	-	~128	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 -(ハイフン)、_(アンダー)、/(スラッシュ) 4.8.3参照
リソース名	テキスト	備考参照	-	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字 @ - ( ) : . _ 4.8.3参照

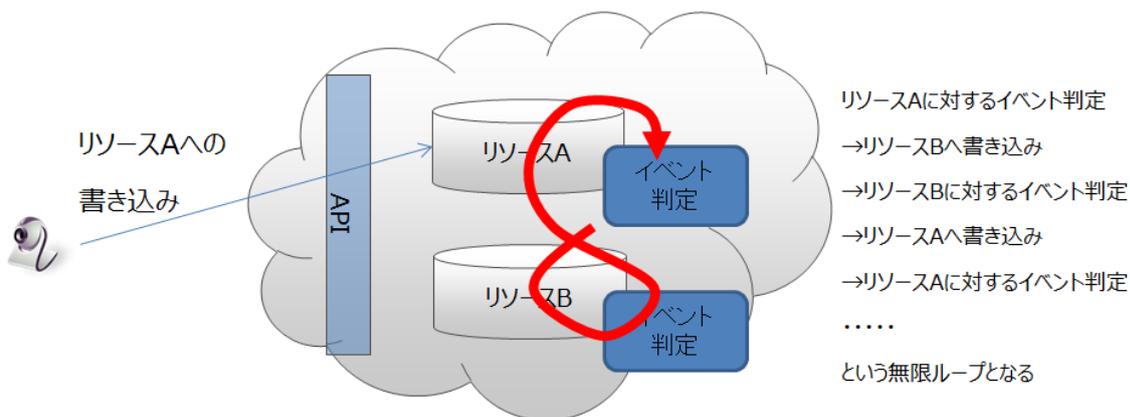
4.8章記載のイベント画面で追加をクリックした場合はイベント追加画面が表示されます。



本サービスではイベント判定の設定とアクション設定を同一画面で設定することができますが、本書ではイベント設定とアクション設定を分けて説明します。

**注意**

- ・イベントの課金に関して、イベントの追加そのものに対しては発生しませんが、リソースへのデータ書き込み API が呼び出される都度、該当リソースに登録されているイベント数分の課金が発生しますので、十分に考慮されたうえで設定するようお願いします。
- ・イベント設定でアクションがループするような設定を行った場合、お客様の利用請求額が高額となる場合がありますので以下のような設定はしないでください。
  - ・リソース A への書き込みがあった場合に自テナントのリソース B への書き込み API 呼び出しを行う。
  - ・リソース B への書き込みがあった場合に自テナントのリソース A への書き込み API 呼び出しを行う。



**注意**

- ・種別がリソース(転送)のリソースにはイベントを設定することはできません。

#### 4.8.1. イベント追加（判定設定）

##### ➤ （1）特定リソースのデータ書き込み

特定リソースのデータ書き込みがあった場合をイベント判定としたい場合の設定を説明します。

1. ①にてイベント名を入力します。  
必要に応じてコメントを入力します。

2. イベント判定対象のリソースを設定します。

2-1. ②のリソースパスの検索をクリックします。

2-2. ③にてリソースパス又は、リソース名の検索キーワードを入力します。

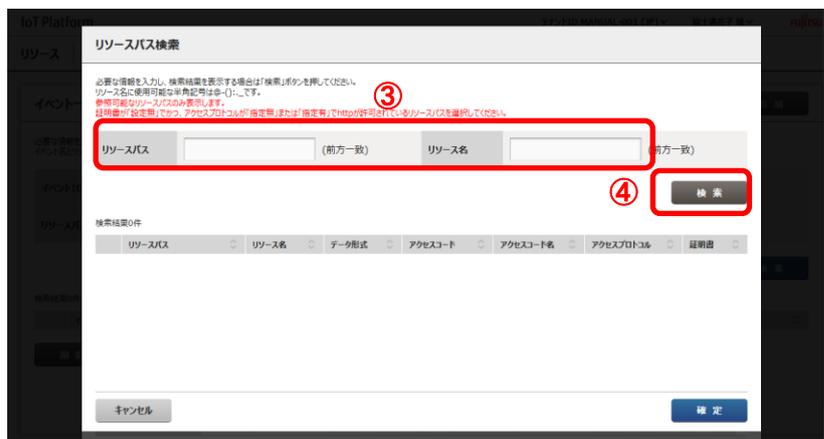
2-3. ④の検索をクリックすると、画面下部に検索条件にヒットしたリソースパスとそのリソースパスに付与されているアクセスコードの一覧が表示されます。

2-4. イベント判定対象のリソースとアクセスコードの組み合わせを⑤のクリックによりチェックします。

2-5. ⑥の確定をクリックすると、イベント追加画面に戻り、⑦の箇所が自動的に反映されます。

2-6. 必要に応じて⑧のイベント監視時刻範囲を設定します。

以降はアクション設定を行います。詳細は4.8.2章を参照願います。



入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
イベント名	テキスト	全半角 英数字	-	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字、@ - ( ) : . _
コメント	テキスト	-	-	~256	-	
リソースパス	テキスト	半角英数字	○	~128	-	検索により入力できます。
リソース名	-	-	-	-	-	リソースパス設定により、自動 入力されます。
アクセスコード	-	-	-	-	-	
アクセスコード名	-	-	-	-	-	
データ形式	-	-	-	-	-	
検出条件(時間)	テキスト又は カレンダー	半角数字	-	-	-	YYYY/MM/DD HH:MM:SS の形式で 入力可能

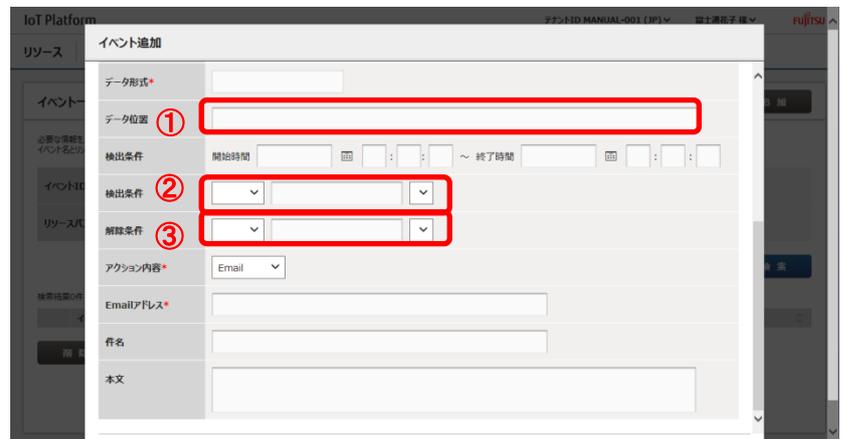
**Memo**

- ・アクセスコードが設定されていないリソースを選択することはできません。
- ・アクセスコードが設定されていても、R の権限が設定されていないか、G の権限が設定されているリソースの配下でない場合、リソースの選択をすることはできません。権限が設定されていない場合はアクセスコードのメニュー(4.7.5章(3))から編集してください。
- ・テナント作成時にシステムにより追加される、エラー収集用リソース「\_error」を選択することはできません。

➤ (2) データの内容による判定

特定リソースのデータ書き込みがあった場合でかつ、データの内容が特定の状態となったことをイベント判定としたい場合の設定を説明します。

1. 4.8.1章(1)記載の操作を実施します。
2. ①のデータ位置を設定します。  
JSONPath 形式で入力してください。
3. ②の検出条件を設定します。
4. 必要に応じて③の解除条件を設定します。解除条件仕様については3.6.3章を参照願います。



以降はアクション設定を行います。

4.8.2章を参照願います。

## 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
データ位置	テキスト	備考参照	-	~1902	-	3.6.1章参照
検出条件(種別)	プルダウン	-	-	-	-	数値/文字列から選択可能
検出条件(値)	テキスト	半角英数字	-	~64	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、
検出条件(条件)	プルダウン	-	-	-	-	検出条件(種別)を「数値」選択した場合 →一致/不一致/以上/以下/未満/超えから 選択可能 検出条件(種別)を「文字列」選択した場合 →完全一致/部分一致から選択可能
解除条件(種別)	プルダウン	-	-	-	-	数値/文字列から選択可能
解除条件(値)	テキスト	半角英数字	-	~64	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、
解除条件(条件)	プルダウン	-	-	-	-	検出条件(種別)を「数値」選択した場合 →一致/不一致/以上/以下/未満/超えから 選択可能 検出条件(種別)を「文字列」選択した場合 →完全一致/部分一致から選択可能

### ⚠ 注意

- ・ リソースパスに入力されているリソースのデータ形式がバイナリである場合、データ内容による判定は利用できません。
- ・ リソースパスに入力されているリソースのデータ形式がバイナリである場合、検出条件、解除条件の各項目は入力できません。
- ・ 検出条件、解除条件の各項目が入力されている状態でリソースパスの項目をデータ形式がバイナリのリソースのリソースパスに変更した場合、入力された値は削除されます。

## 4.8.2. イベント追加(アクション設定)

本章の設定は 4.8.1 章記載のイベント追加(判定設定)からのつづきとして記載しています。

### ➤ (1) Email 設定

1. ①のアクション内容を選択します。  
ここでは Email を選択します。
2. ②で送信先 Email アドレスを設定します。
3. ③で件名を設定します。
4. ④で本文を設定します。
5. 追加をクリックするとイベント追加の設定が完了します。

## 入力パラメータ

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
アクション内容	プルダウン	-	○	-	-	Email/API 呼び出しから選択可能
Email アドレス	テキスト	半角英数字	○	~254	-	メールアドレス形式
件名	テキスト	任意	-	~256	-	
本文	テキスト	任意	-	~140	-	未設定時はメール送信時に「Event Occurs」という内容を本サービスが自動設定してメール送信します。

指定した Email アドレス宛に対して通知メッセージを添付ファイル形式で通知します。通知メッセージの内容については 7.3 章を参照願います。

### ➤ (2) API 呼び出し設定

- ①のアクション内容を選択します。  
ここでは API 呼び出しを選択します。
- ②で呼び出し先 URI を設定します。
- ③で HTTP のメソッドを設定します。
- 呼び出し先が Basic 認証に対応している場合④で認証 ID およびパスワードを設定します。
- 必要に応じて⑤で HTTP のヘッダおよびヘッダ値を設定します。(10 種類まで入力可能です。)
- 必要に応じて⑥で HTTP のボディに入る値を設定します。
- 追加をクリックするとイベント追加の設定が完了します。

The image shows two screenshots of a web interface for configuring an API call event. The top screenshot shows the 'API Call' configuration form with several fields highlighted by red boxes and numbered 1 through 6. Field 1 is the 'Action' dropdown set to 'API Call'. Field 2 is the 'URI' text input. Field 3 is the 'Method' dropdown set to 'POST'. Field 4 is the 'Authentication ID' and 'Password' text inputs. Field 5 is the 'Headers' section with six rows of 'Header Name' and 'Header Value' text inputs. Field 6 is the 'Body' text input. The bottom screenshot shows the same form with the 'Body' field (6) highlighted and the 'Add' button at the bottom right.

## 入力パラメータ

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
URI	テキスト	半角英数字	○	~256	-	-
メソッド	プルダウン	-	○	-	-	GET/POST/PUT/DELETE/HEAD/OPTIONS/TRACE から選択可能
認証 ID 認証パスワード	テキスト	半角英数字	-	~20	-	
ヘッダ名 ヘッダ値	テキスト	半角英数字	-	~20 ~512	-	

ボディ	テキスト	半角英数字	-	~1024	-	ボディに何も指定しない場合は本サービスが通知メッセージ(7.3章参照)を自動的に付与します。なんらかの値を設定された場合、通知メッセージは付与されません。
-----	------	-------	---	-------	---	---

#### 4.8.3. イベント検索

イベント設定変更およびイベント一覧表示のために用いるイベント検索について説明します。

1. イベント画面から①の検索キーを入力した後に②の検索をクリックすると、画面下部に検索結果が表示されます。

- ③をクリックすることにより、検索結果をソートできます。ソートの表示順については7.2章を参照願います。

#### ⚠注意

- イベント名、リソースパス、リソース名に\_(アンダーバー)だけ入力して検索ボタンを押下すると、全イベントがヒットしてしまいますので、このような検索を実行しないでください。

#### 4.8.4. イベント設定変更

1. 4.8.3章記載のイベント検索機能により設定変更したいイベントを表示させます。
2. 変更したいイベントのイベント ID (①) をクリックします。
3. イベント更新画面が表示されるため、変更したい内容を選択し、編集します。  
※パラメータの仕様については4.8.1章および4.8.2章を参照願います。

## ➤ (1) イベント削除

1. 4.8.3章記載のイベント検索機能により削除したいイベントを表示させます。
2. 削除したいイベントのイベント ID をクリックします。
3. イベント更新画面が表示されるため、①の削除をクリックします。
4. 確認画面が出力されますので、確認後実行 ② をクリックします。

The screenshot shows the 'IoT Platform' interface with the 'Event Update' form. The form contains the following fields: Event ID (592cdcc30011), Event Name (イベントコード1), Comment, Resource ID (DataResource001), Resource Name (データ用リソース001), Access Code (AccessCode001), Access Code Name (アクセスコードP001), Data Format (JSON), and Data Location. A red circle with the number '1' highlights the '削除' (Delete) button in the top right corner.

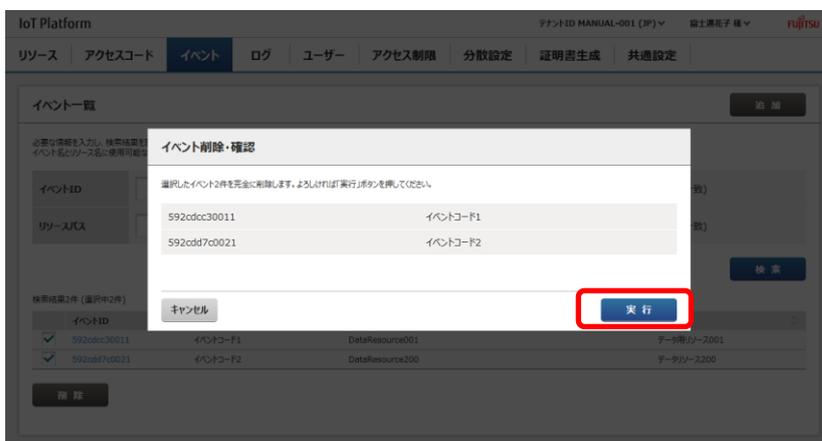
The screenshot shows the same 'Event Update' form, but with a confirmation dialog box titled 'イベント削除・確認' (Event Deletion Confirmation) overlaid. The dialog contains the text: '選択したイベント1件を完全に削除します。よろしければ実行ボタンを押してください。' (Delete the selected event 1 item completely. Please press the execute button if you are satisfied.) Below the text, the event ID '592cdcc30011' and event name 'イベントコード1' are displayed. At the bottom of the dialog, there are 'キャンセル' (Cancel) and '実行' (Execute) buttons. A red circle with the number '2' highlights the '実行' button.

### ⚠ 注意

- ・削除されたイベント情報を復元することはできませんので、お客様の責任のもと、十分に確認されたうえで、削除をお願いします。

#### 4.8.5. イベント一括削除

1. 4.8.3 章記載のイベント検索機能により削除したいイベントを表示させます。
2. 削除したいイベントの左にあるチェックボックス (①) をチェックします。複数削除したい場合は複数個チェックします。
3. ②の削除をクリックします。
4. 削除確認画面が出力されますので確認後、実行をクリックします。



#### ⚠️ 注意

- ・削除されたイベント情報を復元することはできませんので、お客様の責任のもと、十分に確認されたうえで、削除をお願いします。

## 4.9. ログ画面

共通画面のログをクリックすると、ログ画面が表示されます。  
なお、ログ画面は利用実績、操作ログ、利用実績ログ、システムログの4つの画面があります。

### 4.9.1. 利用実績画面

#### ➤ (1) 月次利用実績ダウンロード

指定した月の1ヶ月分の利用実績をダウンロードします。過去3ヶ月分までの実績をダウンロードすることができます。

月次利用実績に表示される内容は以下のとおりです。

- 登録リソース数(Number of resources)(1日単位での登録数履歴)
- ディスク使用量(Amount of disk use)(1日単位での使用量履歴)
- Normal API 利用量(Amount of Normal API use)(1ヶ月の累積)
- Light API 利用量(Amount of Light API use)(1ヶ月の累積)
- API Bulk 利用量(Amount of API Bulk use)(1ヶ月の累積)
- Normal SSL 利用量(Amount of Normal SSL use)(1ヶ月の累積)
- Light SSL 利用量(Amount of Light SSL use)(1ヶ月の累積)
- SSL Bulk 利用量(Amount of SSL Bulk use)(1ヶ月の累積)
- イベント利用量(Amount of event use)(1ヶ月の累積)
- 通信量(Communication volume)(1ヶ月の累積)

1. 利用実績画面からダウンロードしたい利用実績月を①より指定します。直接入力又はカレンダーのアイコンをクリックすることにより指定できます。
2. ②クリックにより、操作している端末の保存するフォルダ先を指定し、保存します。



## ➤ (2) グラフ表示

指定した月の1日単位での利用実績をグラフ表示します。過去1年分までの実績を表示することができます。表示する内容は以下のとおりです。

- リソース登録数
- ディスク使用量
- API 利用回数
- SSL 利用回数
- イベント利用回数
- 通信量



### Memo

- API 利用回数は Normal API、Light API、API Bulk それぞれの利用回数の合計が表示されます。
- SSL 利用回数は Normal SSL、Light SSL、SSL Bulk それぞれの利用回数の合計が表示されます。

#### 4.9.2. 操作ログ画面

ログ画面内の操作ログタブをクリックすると操作ログ画面が表示されます。

操作ログとは、お客様管理のテナント内のサービスポータルへのアクセスおよびサービスポータル上での操作を行った全ユーザーの操作履歴のことです。本ログにより、リソース、アクセスコード、イベントなどの設定において操作ミスなどがあった場合などの操作履歴確認を行うことができます。



番号	項目名	説明	備考
①	ユーザーID	操作ログ検索時に設定します。	(2) 参照
②	ユーザー名	操作ログ検索時に設定します。	(2) 参照
③	日付	操作ログ検索時に設定します。	(2) 参照
④	ダウンロード	操作ログをダウンロードします。	(1), (3) 参照
⑤	検索	操作ログ検索します。	(2) 参照

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
ユーザーID	テキスト	-	-	~256	-	
ユーザー名	テキスト	-	-	~32	-	
日付	テキスト/カレンダー	-	-	-	-	使用可能文字：数字

#### Memo

- ・ 検索結果の日時は協定世界時(UTC)で出力されます。形式は YYYY/MM/DD HH:MM+00 となります。

➤ (1) 操作ログ一括ダウンロード

1. 操作ログトップ画面から検索を実行しない状態で①をクリックします。
2. 操作している端末へ保存するフォルダ先を指定し、保存します。



**Memo**

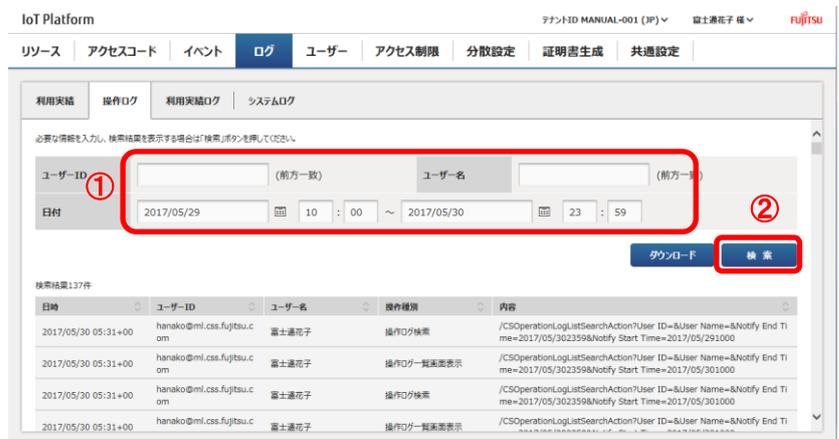
- テナント内の全ユーザーの操作ログが最大で 92 日分ダウンロードできます。
- 未検索状態で、ダウンロードを実行するとすべてのテナント内の全ての操作ログが含まれたファイルをダウンロードします。検索後に検索状態に戻すには、共通画面のログ以外を一旦クリッし、再度共通画面のログをクリックしてください。

操作ログのログフォーマット

項目名	説明	備考
日時	RFC3339 の日時形式例： 2018-04-02T11:52:08.586808+09:00 API 利用時：API 受付時の日時 イベント利用時：イベント判定時の日時	
ユーザーID	操作を行ったユーザーのユーザーID	
ユーザー名	操作を行ったユーザーのユーザー名	
操作種類	行った操作の種類	
内容	ログ毎の任意のメッセージが出力されます。	

➤ (2) 操作ログ検索

1. 操作ログトップ画面から①の検索したいユーザーID 又はユーザー名又は日付を入力します。ユーザーID 又はユーザー名は前方一致で入力します。
2. ②の検索をクリックすると結果が表示されます。



- ①を何も設定しないで検索をクリックすると、該当の全ユーザーの操作ログが最大で 92 日分表示されます。

**Memo**

- ・ヒットした件数が 1000 件を超える場合は、1000 件までしか表示されません。



### 注意

- ・ユーザーID、ユーザー名に\_(アンダーバー)だけ入力して検索ボタンを押下すると、全ログがヒットしてしまいますので、このような検索を実行しないでください。

### ➤ (3) 操作ログ検索からのダウンロード

操作ログ検索からダウンロードを実行した場合は表示された結果のみのファイルとしてダウンロードすることができます。

1. 操作ログトップ画面から検索を実行した状態で①をクリックします。
2. 操作している端末へ保存するフォルダ先を指定し、保存します。

The screenshot shows the 'IoT Platform' log search interface. At the top, there are navigation tabs: 'リソース', 'アクセスコード', 'イベント', 'ログ', 'ユーザー', 'アクセス制限', '分散設定', '証明書生成', and '共通設定'. The 'ログ' tab is selected. Below the tabs, there are search filters for 'ユーザーID' and 'ユーザー名' (both set to '(前方一致)'), and a date range from '2017/05/29 10:00' to '2017/05/30 23:59'. A 'ダウンロード' button is highlighted with a red circle and a circled '1'. Below the filters, there is a table of search results with columns for '日時', 'ユーザーID', 'ユーザー名', '操作種別', and '内容'. The table shows several entries for user 'hanako@mli.css.fujitsu.com' performing '操作ログ検索' and '操作ログ一覧表示'.

### 4.9.3. 利用実績ログ画面

ログ画面内の利用実績ログのタブをクリックすると利用実績ログ画面が表示されます。指定した日付時点の1日単位での利用実績ログをダウンロードすることができます。92日前までのログを1日単位でダウンロードすることができます。

利用実績ログで表示される内容は以下のとおりです。

- 登録リソース数 (Number of resources)
- ディスク使用量 (Amount of disk use) (Mbyte 単位)
- Normal API 使用量 (Amount of Normal API use) (回数単位)
- Light API 使用量 (Amount of Light API use) (回数単位)
- API Bulk 使用量 (Amount of API Bulk use) (回数単位)
- Normal SSL 使用量 (Amount of Normal SSL use) (回数単位)
- Light SSL 使用量 (Amount of Light SSL use) (回数単位)
- SSL Bulk 使用量 (Amount of SSL Bulk use) (回数単位)
- イベント使用量 (Amount of event use) (回数単位)
- 通信量 (Communication volume) (Mbyte 単位)
- 利用証跡用のログ

1. 利用実績ログ TOP 画面からダウンロードしたいログの日を①より指定します。直接入力又はカレンダーのアイコンをクリックすることにより指定できます。

2. ②クリックにより、操作している端末の保存するフォルダ先を指定し、保存します。



## ▶ (1) 利用実績ログの見方

ここでは利用実績ログのフォーマットおよび利用実績ログから課金に関する情報を参照する方法を解説します。

### 1. ログフォーマット

利用実績ログはAPI 利用時またはイベント利用時のアクセス 1 回につき 1 行出力されます。また 1 行は以下の各項目が半角空白文字で区切られて出力されます。

項目名	説明	備考
日時	ログが出力された日時を RFC3339 の形式で出力します。 API 利用時：API 受付時の日時 イベント利用時：イベント判定時の日時	出力例： 2016-02-01T11:52:08.586808+09:00
テナント ID	利用されたテナントの ID を出力します。	
通信先	API をリクエストした元の IP アドレスを出力します。	
利用コード	アクセスに利用しているコードを出力します。	API 利用時：アクセスコード イベント利用時：イベント ID
メッセージ	ログ毎の任意のメッセージが出力されます。	

### 2. 課金情報の確認について

#### ・API 利用回数

利用実績ログから通信種別が 1 となっているものを抽出し、行数をカウントすることでログ出力期間内の API 利用回数をカウントすることができます。また、抽出したログの SSL 利用コードを参照することで API 利用時に SSL を利用したかどうかを判別できます。

#### 注意

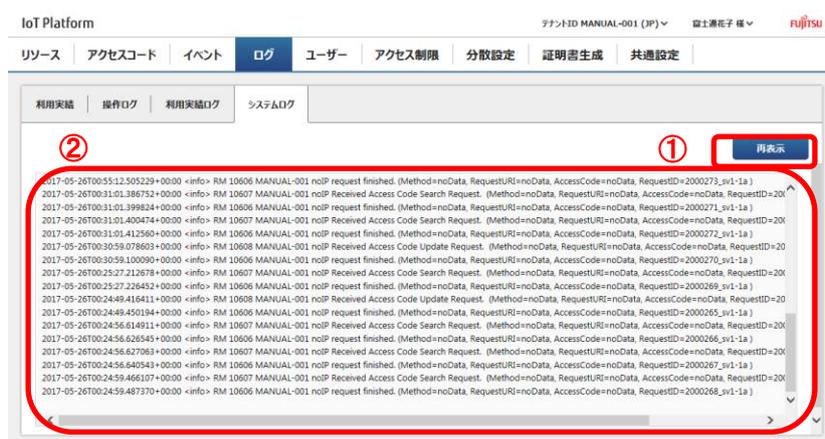
- ・利用実績ログは課金の根拠として API が実行されたことをお客様が確認するためのログという位置づけとなっています。上記以外のログ出力内容の詳細については非公開とさせていただきます。

#### 4.9.4. システムログ画面

ログ画面内のシステムログタブをクリックするとシステムログ画面が表示されます。

お客様管理のテナント内の以下の処理で OK となった (200 OK を受信した) もの、実際は本サービスの内部処理でエラーとなっている場合について、システムログを参照することで確認できます。

- ・ イベントアクションの実行 (Email、API)
- ・ リソースの転送の実施
- ・ MQTT リクエスト



番号	項目名	説明	備考
①	表示／再表示	システムログを表示／再表示します。	システムログ画面の初期表示時は表示となります。
②	システムログ表示エリア	システムログを表示します。	システムログ画面の初期表示時は枠のみとなります。

#### ➤ (1) システムログ表示／再表示

1. システムログ画面を表示し、①の表示をクリックしてください。システムログが表示されます。

※システムログ表示後、システムログ表示エリアのスクロールバーは一番下に移動します。また、表示ボタンは再表示ボタンになります。

2. システムログ表示後、最新のログを表示したい場合は再表示をクリックしてください。



#### Memo

- ・ システムログの行数が多い場合、表示までに時間が掛かることがあります。
- ・ システムログが 5000 行を超える場合は、5000 行までしか表示されません。

➤ (2) システムログの見方

ここではシステムログのフォーマットおよびシステムログから各種の情報を参照する方法を解説します。

・システムログフォーマット

実行されたイベントアクション等の処理 1 つにつき 1 行出力されます。また 1 行は以下の各項目が半角空白文字で区切られて出力されます。

項目名	説明	備考
日時	ログが出力された日時を RFC3339 の形式で出力します。	出力例: 2016-02-01T11:52:08.586808+09:00
ログレベル	ログレベルを出力します。	以下のいずれかが表示されます。 <emerg>, <err>, <warning>, <info> 詳細はログレベル詳細を参照願います。
コンポーネント略称	ログ出力元のコンポーネント名を 2 文字の略称で出力します。	AO: 認可 DM: データ管理 EJ: イベント判定 ET: イベント送信 IP: IP フィルタ MP: MQTT パーサ MX: MQTT-Proxy PP: 前処理 FW RM: REST パーサ(管理系) RT: 転送リソース判定 SV: サービスポータル RD: REST パーサ(データ系) TS: 転送リソース送信
基盤機能内のメッセージ ID	メッセージを一意に表す ID を 5 桁の 10 進数で出力します。	
テナント ID	処理が行われたテナントのテナント ID を出力します。	特殊なテナント ID として以下が出力される場合があります。 ・末尾に*がついたテナント ID 認可処理が行われていない状態で行われた処理を表します。API 等のリクエストで指定されたテナント ID が出力されます。 ・iotpf プロセス初期化処理など、ユーザー操作に起因しない処理を表します。
送信元 IP	API 発行元の IP アドレスを出力します。	特殊な送信元 IP として以下が出力される場合があります。 ・noIP プロセス初期化処理など、ユーザー操作に起因しない処理
メッセージ内容	ログ毎の任意のメッセージが出力されます。	

ログレベル詳細

ログレベル	内容	備考
warning	<ul style="list-style-type: none"> <li>警告</li> </ul> 要求された処理の中で問題が発生したが、不完全ながらも処理を完了できた場合に出力されます。	
info	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報</li> </ul> アプリケーションの動作を表示します。	

①システムログからイベントアクションの実行(API) のログを確認する

手順

1. リソースへアクセスした時刻付近のシステムログからアクセスしたリソースパスを検索します。
2. 1の検索結果からイベントアクション実行を表すコンポーネント略称「ET」を探します。
3. API呼び出しが成功の場合、ログレベル<info>で「Success to send transmissionData」と出力されます。また、それに続けて、呼び出し先のURL、関連するリソースパス等の情報が出力されます。  
  
 ※API呼び出しが失敗の場合、ログレベル<warning>で「Failed to send transmissionData」と出力されます。
4. 上記のログにリクエスト ID(ReqId)が出力されていますので、当該IDでシステムログを検索することリソースへアクセスした時点から実行完了までの一連のログを検索することができます。

ログの例:

```

2016-02-23T10:52:33.428322+09:00 <info> ET 10506 SMPAPL-001 Success to send Transmission
Data to http://sampleappl.iot.jp.fujitsu.com/WebApl/AccessServlet. (ReqID=93942,
ResourcePath=test, AccCode=) (ReqId=93942, ResourcePath=test,
AccessCode=) (EventTransmissionForHttp.java:164)
2016-02-23T10:52:33.429069+09:00 <info> ET 10502 SMPAPL-001 Success to transmit
event(http). Event Trigger Info(56cbb9f70011, test, create). Event Operational
Info(http://sampleappl.iot.jp.fujitsu.com/WebApl/AccessServlet, POST) (ReqId=93942,
ResourcePath=test, AccessCode=) (ReceiveEvt.java:251)
    
```

②システムログからイベントアクションの実行(Email) のログを確認する

手順

1. リソースへアクセスした時刻付近のシステムログからアクセスしたリソースパスを検索します。
2. 1の検索結果からイベントアクション実行を表すコンポーネント略称「ET」を探します。
3. Email送信が成功の場合、ログレベル<info>で「Success to transmit event.」と出力されます。  
  
 ※Email送信が失敗の場合、ログレベル<warning>で「Fail to transmit event(smtp)」と出力されます。
4. 上記のログにリクエスト ID(ReqId)が出力されていますので、当該IDでシステムログを検索するとリソースへアクセスした時点から実行完了までの一連のログを検索することができます。

### ③システムログからリソース(転送)の転送処理の実施を確認する

#### 手順

1. リソースへアクセスした時刻付近のシステムログからアクセスしたリソースパスを検索します。
2. 1の検索結果からリソース(転送)の処理を表すコンポーネント略称「TS」を探します。
3. 転送成功の場合、ログレベル<info>で「Success to send Transmission Data」と出力されます。また、それに続けて、転送の宛先 URL が出力されます。
4. 上記のログにリクエスト ID(ReqId)が出力されていますので、当該 ID でシステムログを検索するとリソースへアクセスした時点から実行完了までの一連のログを検索することができます。

#### ログの例:

```
2016-02-23T10:58:23.004101+09:00 <info> TS 10406 SMPAPL-001 180.43.8.247 Success to
send Transmission Data to http://sampleappl.iot.jp.fujitsu.com/WebApl/AccessServlet.
(ReqID=94330, ResourcePath=_fwd/image, AccCode=imageAccessCode) (Normal)
(ResourceSendForHTTP.java:150)
```

### ④システムログから MQTT リクエストによるデータ登録を確認する

#### 手順

1. MQTT でデータ送信を行った時刻付近のシステムログからアクセスしたリソースパスを検索します。
2. 1の検索結果からデータ登録を表すコンポーネント略称「TS」を探します。
3. データ登録成功の場合、ログレベル<info>で「Add of resource data succeed.」と出力されます。

#### ログの例:

```
2016-02-23T10:57:39.110570+09:00 <info> DM 30001 SMPAPL-001 180.43.8.247 Add of
resource data succeed. [DataLength=19] (ReqId=1010326, ResourcePath=test, AccessCode=)
(MongoDbManage.go:155)
```

#### 4. 10. ユーザー画面

共通画面のユーザーをクリックすると、ユーザー画面が表示されます。

番号	項目名	説明	備考
①	追加	ユーザー追加します。	4. 10. 1 章参照
②	ユーザーID	ユーザー検索時に設定します。	4. 10. 3 章参照
③	ユーザー名	ユーザー検索時に設定します。	4. 10. 3 章参照
	検索	ユーザー検索します。	4. 10. 3 章参照
⑤	削除	ユーザー削除します。	4. 10. 5 章参照

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
ユーザーID	テキスト	半角英数字	-	~254	-	メールアドレス形式 4. 10. 4 章および 4. 10. 3 章参照
ユーザー名	テキスト	-	-	~32	-	4. 10. 4 章および 4. 10. 3 章参照

#### 4. 10. 1. ユーザー追加

ユーザー画面から追加をクリックすることでユーザー追加を行うことができます。ここではユーザー追加画面の操作方法について説明します。

- ①の箇所に入力してユーザーIDを入力します。必ずメールアドレス形式で入力してください。
- ②の箇所に入力してユーザー名を入力します。必要に応じて③のコメントも入力します。
- 当該ユーザーがログイン時に証明書が必要となるように設定する場合、④の参照ボタンから証明書ファイルを選択してください。
- ⑤でユーザーがログインした画面で表示される言語を選択してください。
- ⑥の追加をクリックします。

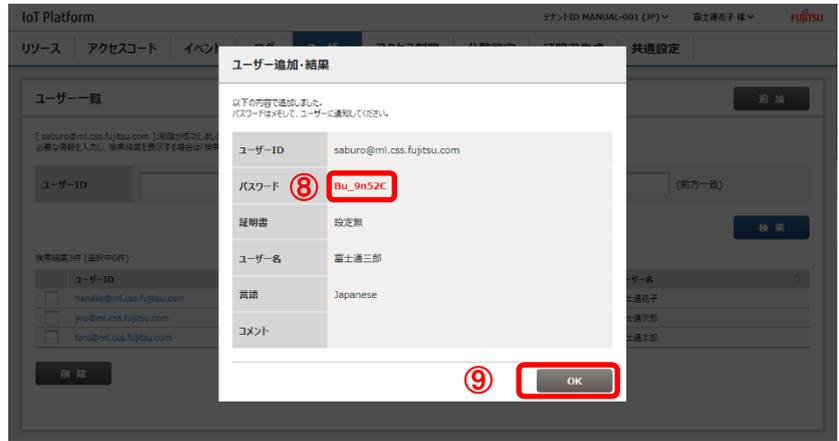


#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
ユーザーID	テキスト	半角英数字	○	～254	-	メールアドレス形式
証明書	テキスト	備考参照	-	-	-	ファイルパスに使用可能な文字が使用可能
ユーザー名	テキスト	任意	-	～32	-	
言語	プルダウン	-	○	-	Japanese	Japanese、English から選択
コメント	テキスト	任意	-	～256	-	

- ユーザー情報追加・確認画面がでますので、内容に問題がなければ⑦をクリックします。
- ⑧の箇所に入力されたユーザーのパスワードが表示されますのでメモをしてください。
- ⑨の OK をクリックします。⑧に表示されたパスワードを追加ユーザーに対して通知してください。





## Memo

- ・メモしたパスワードを忘却した場合はパスワードをリセットすることで対処できます。詳細は 4.10.4 章（2）を参照願います。
- ・証明書は「証明書生成画面」で生成したクライアント証明書（PEM(. crt)形式）またはお客様が用意した任意のクライアント証明書（PEM(. crt)形式）を使用できます。
- ・「証明書生成画面」で生成したクライアント証明書は PKCS#12(. p12)形式となります。この形式から PEM(. crt)形式の証明書を生成する方法については IoT Platform ユーザーガイドの「5.8 クライアント認証について」を参照ください。
- ・証明書にパスワードを設定している場合はパスワードをユーザーに通知する必要があります。
- ・証明書として利用可能なファイルのサイズは 10000Byte 以下となります。

### 4.10.2. パスワード変更

ログインしているユーザーのパスワードは共通画面から変更できます。詳細は 4.5.3 章を参照願います。

### 4. 10. 3. ユーザー検索

1. 検索したいユーザーID, ユーザー名を①の箇所前方一致で入力します。
2. ②クリックにより、画面下部に検索キーにヒットしたユーザーが表示されます。
3. ③のユーザーID をクリックすると、ユーザー情報更新画面が表示されます。



- ④をクリックすることにより、検索結果をソートできます。ソートの表示順については 7.2 章を参照願います。



#### 注意

- ユーザーID、ユーザー名に\_(アンダーバー)だけ入力して検索ボタンを押下すると、全ユーザーがヒットしてしまいますので、このような検索を実行しないでください。

### 4. 10. 4. ユーザー変更

- (1) ユーザー名、言語、コメントの変更

1. 変更したいユーザーの情報更新画面を 4. 10. 3 記載の操作実施により表示させます。
2. ①のユーザー名、言語およびコメントを編集します。
5. ②の更新クリックによりユーザー情報更新・確認画面が表示されますので、更新を行ってもよい場合は③の確定をクリックします。



## ➤ (2) パスワードリセット

パスワードを忘却した場合などにパスワードをリセットすることができます。パスワードリセットはお客様内の別管理者に依頼してください。

1. パスワードリセットしたいユーザーの情報更新画面を 4.10.3 記載の操作実施により表示させます。
2. ①のパスワードリセットをチェック後、②の更新をクリックします。
3. ユーザー情報更新・確認画面が表示されますので、パスワードリセットを行ってもよい場合は③の確定をクリックします。
4. ユーザー情報更新・確認画面の④にリセット実行後のパスワードが表示されますので、リセット後のパスワードをユーザーに通知してください。



### ➤ (3) 証明書の変更

#### ・証明書が設定されていない場合

1. 証明書を設定したいユーザーの情報更新画面を 4.10.3 記載の操作実施により表示させます。

証明書の項目には「設定無」と表示されます。

2. 証明書を設定する場合は、①の参照をクリックし、証明書ファイルを選択します。その後、②の更新をクリックします。

3. ユーザー情報更新・確認画面が表示されますので、内容確認後、更新を行ってもよい場合は③の確定をクリックします。

4. ユーザー情報更新・確定画面に結果が表示されます。

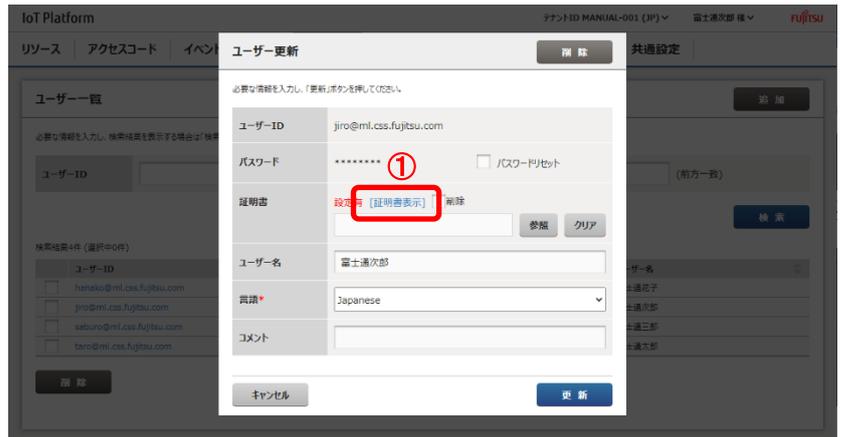


・証明書が設定されている場合

1. 証明書を変更または削除したいユーザーの情報更新画面を 4.10.3 記載の操作実施により表示させます。

証明書の項目には「設定有」と表示されます。また、「証明書表示」リンクと削除チェックボックスが表示されます。

「証明書表示」(①)をクリックすると現在設定されている証明書の内容を表示します。



－ 別の証明書への変更

1. 別の証明書へ変更する場合、①の参照ボタンをクリックし、証明書ファイルを選択します。その後、②の更新をクリックします。
3. ユーザー情報更新・確認画面が表示されますので、内容確認後、更新を行ってもよい場合は③の確定をクリックします。
4. ユーザー情報更新・確認画面に結果が表示されます。当該ユーザーに新しい証明書の登録および古い証明書の削除を依頼してください。





## - 証明書の削除

1. 証明書を削除する場合、①の削除チェックボックスをチェックします。その後、②の更新をクリックします。
3. ユーザー情報更新・確認画面が表示されますので、内容確認後、更新を行ってもよい場合は③の確定をクリックします。
4. ユーザー情報更新・確定画面に結果が表示されます。当該ユーザーに証明書の削除を依頼してください。





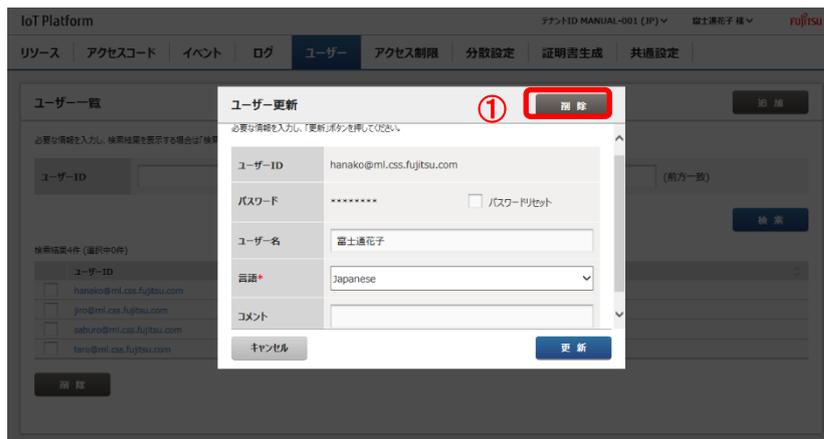
## 注意

- ・ユーザー変更でユーザーに証明書を新たに設定した場合およびユーザーの証明書を変更した場合、設定を反映するために10分以内に任意のアクセス可能なユーザーでログインし直してください。追加後10分以内にログインが行われなかった場合、変更前の設定に自動的に戻されます。(誤った設定により、すべてのユーザーがログインできない状態とすることを防止するための機能です)
- ・ユーザーから証明書を削除した場合は、設定は即時反映され、変更前の設定に自動的に戻されることはありません。

## ➤ (4) ユーザー削除

1. 削除したいユーザーの情報更新画面を 4.10.3 記載の操作実施により表示させます。
2. ①の削除をクリックします。
3. ユーザー削除・確認画面が出力されますので、削除を行ってもよい場合は②の実行をクリックします。

当該ユーザーに証明書を設定していた場合、証明書の削除を依頼してください。



#### 4.10.5. ユーザー一括削除

1. 削除したいユーザーを 4.10.3 記載の検索操作実施により表示させます。
2. 削除したいユーザーを①のチェックボックスをチェック後、②の削除をクリックします。
3. ユーザー削除確認画面が出力されますので、削除を行ってもよい場合は③の実行をクリックします。

削除したユーザーにログインに証明書を必要とするユーザーが含まれていた場合、当該ユーザーに証明書の削除を依頼してください。



#### ⚠️ 注意

- ・サービスポータルアクセス制限の対象ユーザーとして登録されているユーザーは削除できません。削除する場合はサービスポータルアクセス制限の対象ユーザーから除外してください。サービスポータルアクセス制限の設定については 4.11.1 章を参照願います。

#### 4.11. アクセス制限画面

共通画面のアクセス制限をクリックすると、アクセス制限画面が表示されます。なお、アクセス制限画面にはサービスポータルアクセス制限画面、アクセスコードアクセス制限画面の2つの画面があります。



#### 4. 11. 1. サービスポータルアクセス制限画面

アクセス制限画面内のサービスポータルタブをクリックするとサービスポータルアクセス制限画面が表示されます。



サービスポータルアクセス制限では、お客様管理のテナント内のサービスポータルへのアクセスすることのできるユーザーと許可 IP アドレスの組み合わせを登録できます。許可 IP アドレスは例えば 10. 11. 22. 33-10. 11. 22. 44 といった範囲で指定できます。アクセスしようとするユーザーの端末の IP アドレスが当該ユーザーの許可 IP アドレスの範囲と異なる場合、サービスポータルへのアクセスが拒否されます。

#### Memo

- ・許可 IP アドレスが 1 つも紐づけられていないユーザーは、任意の IP アドレスの端末からサービスポータルにアクセスすることができます。

番号	項目名	説明	備考
①	追加	サービスポータルアクセス制限を追加します。	4. 11. 1 章（1）参照
②	許可 IP アドレス	サービスポータルアクセス制限検索時に設定します。	4. 11. 1 章（2）参照
③	ユーザーID	サービスポータルアクセス制限検索時に設定します。	4. 11. 1 章（2）参照
④	検索	サービスポータルアクセス制限を検索します。	4. 11. 1 章（2）参照
⑤	削除	サービスポータルアクセス制限を削除します。	4. 11. 1 章（4）参照

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
許可 IP アドレス	テキスト	半角数	-	～15	-	使用可能文字：半角数[.]
ユーザーID	テキスト	半角	-	～254	-	

➤ (1) サービスポータルアクセス制限追加

4.11.1章記載のサービスポータルアクセス制限画面で追加をクリックした場合は以下の画面が表示されます。



番号	項目名	説明	備考
①	許可 IP アドレス	アクセスを許可する IP アドレスの範囲を設定します。	許可 IP アドレスの設定を参照
②	コメント	サービスポータルアクセス制限の概要等を任意に設定できます。	
③	ユーザーID	ユーザー検索時に設定します。	許可対象ユーザーの設定を参照
④	ユーザー名	ユーザー検索時に設定します。	許可対象ユーザーの設定を参照
⑤	検索	ユーザーを検索します。	許可対象ユーザーの設定を参照
⑥	▼追加	選択されたユーザーを許可対象ユーザーとして追加します。	許可対象ユーザーの設定を参照
⑦	▲解除	選択されたユーザーを許可対象ユーザーから削除します。	許可対象ユーザーの設定を参照
⑧	キャンセル	サービスポータルアクセス制限の追加をキャンセルし、画面を閉じます。	
⑨	追加	設定された内容でサービスポータルアクセス制限を追加します。	

入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
許可 IP アドレス (開始)	テキスト	半角数	○	～15	-	使用可能文字：半角数[.]
許可 IP アドレス (終了)	テキスト	半角数	-	～15	-	使用可能文字：半角数[.]
コメント	テキスト	半角数		～256	-	使用可能文字：半角/全角/記号(日本語入力可)
ユーザーID	テキスト	半角	-	～254	-	
ユーザー名	テキスト	備考参照	-	～32	-	使用可能文字：半角/全角/記号(日本語入力可)

・許可 IP アドレスの設定

- ①にて許可 IP アドレスの開始と終了を入力します。必要に応じてコメントを入力してください。



**⚠️ 注意**

- ・許可 IP アドレス(終了)は許可 IP アドレス(開始)より小さい値の IP アドレスは設定できません。

・許可対象ユーザーの設定

- ①で検索したいユーザーID またはユーザー名を入力してください。
- 検索(②)をクリックすると検索結果が表示されます。
- 検索結果(③)からユーザーを選択し、▼追加(④)をクリックしてください。選択されたユーザーが許可対象ユーザーとして追加されます。

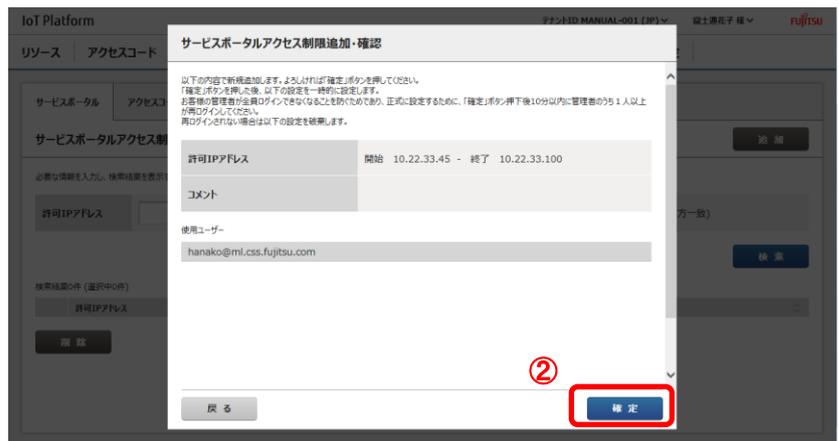


※許可対象ユーザーから削除する場合はユーザーを選択し、▲解除をクリックしてください。



・追加

5. 追加(①)をクリックします。
6. 確認画面が表示されますので内容を確認して、確定(②)をクリックしてください。
7. 設定を有効にするため、アクセス可能な任意のユーザーで10分以内にログインし直してください。



**Memo**

- ・追加可能なサービスポータルアクセス制限はテナントごとに5件までです。

**⚠️ 注意**

- ・サービスポータルアクセス制限の追加/変更/削除後、設定を有効にするために、アクセス可能なユーザーで10分以内にログインし直してください。
- ・追加/変更/削除後に10分間ログインが行われなかった場合、変更前の設定に自動的に戻されます。(誤った設定により、すべてのユーザーがログインできない状態となることを防止するための機能です)

## ➤ (2) サービスポータルアクセス制限検索

サービスポータルアクセス制限画面からサービスポータルアクセス制限を検索することができます。主にサービスポータルアクセス制限に関する編集や不要なサービスポータルアクセス制限を削除する場合に使用します。

1. ①の箇所に検索したい許可 IP アドレス又はユーザー名を入力します。
2. ②の検索をクリックすると、画面下部に検索結果が表示されます。
- ③をクリックすることにより、検索結果をソートできます。ソートの表示順については7.2章を参照願います。



### Memo

- 全ての検索キーは前方一致での対応となっています。

## ➤ (3) サービスポータルアクセス制限更新

サービスポータルアクセス制限検索実行後に設定変更したいサービスポータルアクセス制限のリンクをクリックすることでサービスポータルアクセス制限変更画面が表示されます。

1. サービスポータルアクセス制限画面から設定変更したいサービスポータルアクセス制限を検索します。検索の方法は(2)を参照願います。
2. 設定変更したいサービスポータルアクセス制限(①)をクリックするとサービスポータルアクセス制限変更画面に遷移します。以降にサービスポータルアクセス制限変更画面内で実施できる内容および操作方法について説明していきます。



### Memo

- サービスポータルアクセス制限更新画面の項目はサービスポータルアクセス制限追加画面と同様です。詳細は(1) サービスポータルアクセス制限追加画面を参照願います。

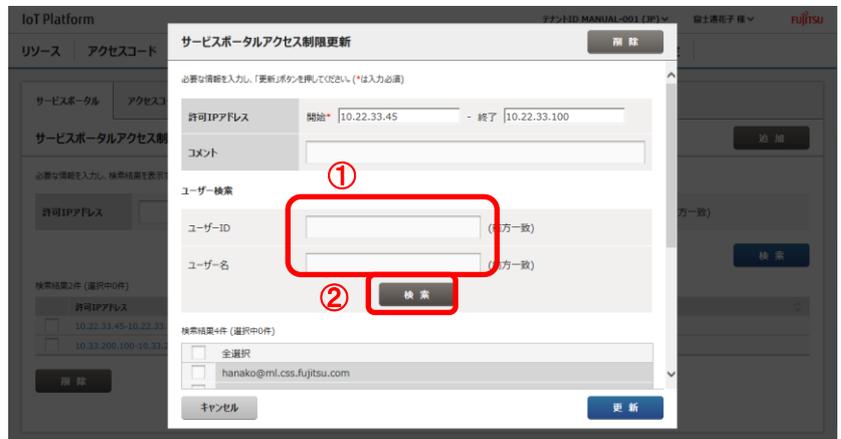
・許可 IP アドレスの変更

- ①の許可 IP アドレスを変更します。必要に応じてコメントも編集できます。



・許可対象ユーザーの変更

- ①検索したいユーザーID またはユーザー名を入力してください。
- 検索(②)をクリックすると検索結果が表示されます。
- 検索結果からユーザーを選択(③)し、▼追加(④)をクリックしてください。選択されたユーザーが許可対象ユーザーとして追加されます。



※許可対象ユーザーから削除する場合はユーザーを選択し、▲解除をクリックしてください。



・更新

1. 更新(①)をクリックします。
2. 確認画面が表示されますので内容を  
確認して、確定(②)をクリック  
してください。
3. 設定を有効にするため、アクセス  
可能な任意のユーザーで10分以内  
にログインし直してください。



➤ (4) サービスポータルアクセス制限一括削除

サービスポータルアクセス制限の一括削除は以下の手順で行います。

1. サービスポータルアクセス制限画面から削除したいサービスポータルアクセス制限を検索します。検索の方法は(2)を参照願います。
2. 削除したいサービスポータルアクセス制限のチェックボックス(①)にチェックします。複数ある場合は複数にチェックします。
3. 削除(②)をクリックします。
4. 確認画面が表示されるので、確認後、実行(③)をクリックします。
5. 実行後、削除を有効にするためアクセス可能なユーザーでログインし直してください。



**⚠ 注意**

- ・ サービスポータルアクセス制限の追加/変更/削除後、設定を有効にするために 10 分以内にアクセス可能なユーザーでログインし直してください。追加/変更/削除後に 10 分間ログインが行われなかった場合、変更前の設定に自動的に戻されます。(誤った設定により、すべてのユーザーがログインできない状態とすることを防止するための機能です)
- ・ 削除が有効となった後でサービスポータルアクセス制限情報を復元することはできません。お客様の責任のもと、十分に確認されたうえで、削除をお願いします。

#### 4. 11. 2. アクセスコードアクセス制限画面

アクセス制限画面内のアクセスコードタブをクリックするとアクセスコードアクセス制限画面が表示されます。



アクセスコードアクセス制限では、お客様管理のテナント内のアクセスコードに紐づける許可 IP アドレスを登録できます。

許可 IP アドレスは例えば 10. 11. 22. 33-10. 11. 22. 44 といった範囲で指定できます。アクセスしようとする端末の IP アドレスが許可 IP アドレスの範囲と異なる場合、アクセスコードへのアクセスが拒否されます。

#### Memo

- 許可 IP アドレスが 1 つも紐づけられていないアクセスコードは、任意の IP アドレスからアクセスすることができます。

番号	項目名	説明	備考
①	追加	アクセスコードアクセス制限を追加します。	4. 11. 2 章 (1) 参照
②	許可 IP アドレス	アクセスコードアクセス制限検索時に設定します。	4. 11. 2 章 (2) 参照
③	アクセスコード	アクセスコードアクセス制限検索時に設定します。	4. 11. 2 章 (2) 参照
④	検索	アクセスコードアクセス制限を検索します。	4. 11. 2 章 (2) 参照
⑤	削除	アクセスコードアクセス制限を削除します。	4. 11. 2 章 (4) 参照

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
許可 IP アドレス	テキスト	半角数	-	~15	-	使用可能文字：半角数[.]
アクセスコード	テキスト	半角数	-	~48	-	使用可能文字：半角数[-]

➤ (1) アクセスコードアクセス制限追加

4.11.2章記載のアクセスコードアクセス制限画面で追加をクリックした場合は以下の画面が表示されます。



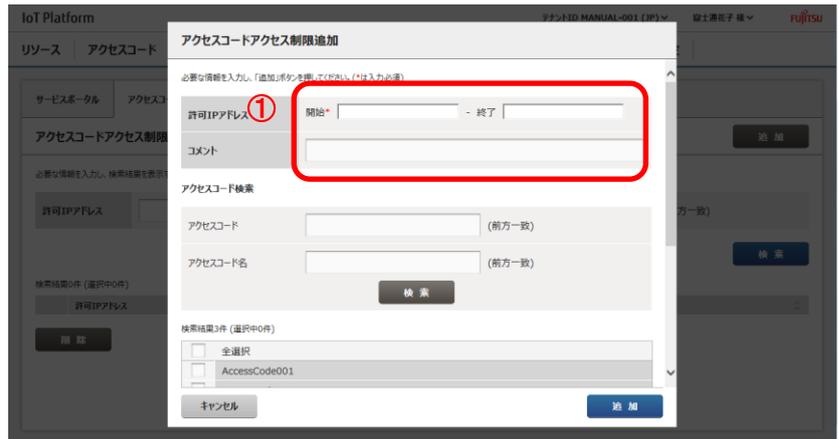
番号	項目名	説明	備考
①	許可 IP アドレス	アクセスを許可する IP アドレスの範囲を設定します。	許可 IP アドレスの設定を参照
②	コメント	アクセスコードアクセス制限の概要等を任意に設定できます。	
③	アクセスコード	アクセスコード検索時に設定します。	許可対象アクセスコードの設定を参照
④	アクセスコード名	アクセスコード検索時に設定します。	許可対象アクセスコードの設定を参照
⑤	検索	アクセスコードを検索します。	許可対象アクセスコードの設定を参照
⑥	▼追加	選択されたユーザーをアクセス許可対象アクセスコードとして追加します。	許可対象アクセスコードの設定を参照
⑦	▲解除	選択されたユーザーをアクセス許可対象アクセスコードから削除します。	許可対象アクセスコードの設定を参照
⑧	キャンセル	アクセスコードアクセス制限の追加をキャンセルし、画面を閉じます。	
⑨	追加	設定された内容でアクセスコードアクセス制限を追加します。	

入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
許可 IP アドレス (開始)	テキスト	半角数	○	~15	-	使用可能文字：半角数[.]
許可 IP アドレス (終了)	テキスト	半角数	-	~15	-	使用可能文字：半角数[.]
コメント	テキスト	備考参照		~256	-	使用可能文字：半角/全角/記号(日本語入力可)
アクセスコード	テキスト	半角数	-	~254	-	使用可能文字：半角数[-]
アクセスコード名	テキスト	備考参照	-	~32	-	使用可能文字：半角/全角/記号(日本語入力可)

・許可 IP アドレスの設定

- ①にて許可 IP アドレスの開始と終了を入力します。必要に応じてコメントを入力してください



注意

- ・許可 IP アドレス(終了)は許可 IP アドレス(開始)より小さい値の IP アドレスは設定できません。

・許可対象アクセスコードの設定

- ①検索したいアクセスコードまたはアクセスコード名を入力してください。
- 検索(②)をクリックすると検索結果が表示されます。
- 検索結果(③)からアクセスコードを選択し、▼追加(④)をクリックしてください。選択されたアクセスコードが許可対象アクセスコードとして追加されます。



※許可対象アクセスコードから削除する場合はアクセスコードを選択し、▲解除をクリックしてください。



・追加

1. 追加(①)をクリックします。
2. 確認画面が表示されますので内容を確認して、確定(②)をクリックしてください。



**Memo**

- ・追加可能なアクセスコードアクセス制限はテナントごとに5件までです。

➤ (2) アクセスコードアクセス制限検索

アクセスコードアクセス制限画面からアクセスコードアクセス制限を検索することができます。主にアクセスコードアクセス制限に関する編集や不要なアクセスコードアクセス制限を削除する場合に使用します。

1. ①の箇所に検索したい許可 IP アドレス又はアクセスコードを入力します。
2. ②の検索をクリックすると、画面下部に検索結果が表示されます。
- ③をクリックすることにより、検索結果をソートできます。ソートの表示順については7.2章を参照願います。



## Memo

- ・全ての検索キーは前方一致での対応となっています。

### ➤ (3) アクセスコードアクセス制限更新

アクセスコードアクセス制限検索実行後に設定変更したいアクセスコードアクセス制限のリンクをクリックすることでアクセスコードアクセス制限変更画面が表示されます。

1. アクセスコードアクセス制限画面から設定変更しアクセスコードアクセス制限を検索します。検索の方法は(2)を参照願います。
2. 設定変更したいアクセスコードアクセス制限(①)をクリックするとアクセスコードアクセス制限画面に遷移します。以降にアクセスコードアクセス制限変更画面内で実施できる内容および操作方法について説明していきます。



## Memo

- ・アクセスコードアクセス制限更新画面の項目はアクセスコードアクセス制限追加画面と同様です。詳細は(1)アクセスコードアクセス制限追加画面を参照願います。

### ・許可 IP アドレスの変更

1. ①の許可 IP アドレスを変更します。必要に応じてコメントも編集できます。



・許可対象アクセスコードの変更

- ①で検索したいアクセスコードまたはアクセスコード名を入力してください。
- 検索(②)をクリックすると検索結果が表示されます。
- 検索結果(③)からアクセスコードを選択し、▼追加(④)をクリックしてください。選択されたアクセスコードが許可対象アクセスコードとして追加されます。



※許可対象アクセスコードから削除する場合はアクセスコードを選択し、▲解除をクリックしてください。



・更新

- 更新(①)をクリックします。
- 確認画面が表示されますので内容を確認して、確定(②)をクリックしてください。



#### ➤ (4) アクセスコードアクセス制限削除

アクセスコードアクセス制限の一括削除は以下の手順で行います。

1. アクセスコードアクセス制限画面から削除したいアクセスコードアクセス制限を検索します。検索の方法は(2)を参照願います。
2. 削除したいアクセスコードアクセス制限のチェックボックス(①)にチェックします。複数ある場合は複数にチェックします。
3. 削除(②)をクリックします。
4. 確認画面が表示されるので、確認後、実行(③)をクリックします。



## 4. 12. 分散設定画面

共通画面の分散設定をクリックすると、分散設定画面が表示されます。

### 4. 12. 1. tps/bps 分散設定画面

tps/bps 分散設定画面では、tps(Transactions Per Second)またはbps(Byte Per Second)として測定された負荷状況を元に分散ポリシーを設定することができます。



番号	項目名	説明	備考
①	全体の有効／無効	分散設定全体の有効／無効を設定します。	
②	分散ポリシー共通	共通の設定をします。	各項目の内容は 4. 12. 1 章（1）を参照願います。
③	負荷リソース	負荷状況を蓄積するリソースを設定します。	各項目の内容は 4. 12. 1 章（1）を参照願います。
④	検索(負荷リソース)	負荷リソース設定時にリソースパス検索を行います。	
⑤	リコメンドリソース 1～3	リコメンドを行うリソースを設定します。	各項目の内容は 4. 12. 1 章（1）を参照願います。
⑥	検索(リコメンドリソース)	リコメンドリソース設定時にリソースパス検索を行います。	
⑦	更新	入力された内容で更新します。	

➤ (1) tps/bps 分散設定更新

・分散ポリシー全体の有効/無効の設定

1. ①にて分散ポリシー全体の有効/無効を設定してください。



注意

- ・全体の有効/無効を無効に設定した場合、入力情報は更新されません。

・共通ポリシーの設定

1. ①にてリコメンド周期を設定してください。
2. ②にて算出期間を設定してください。



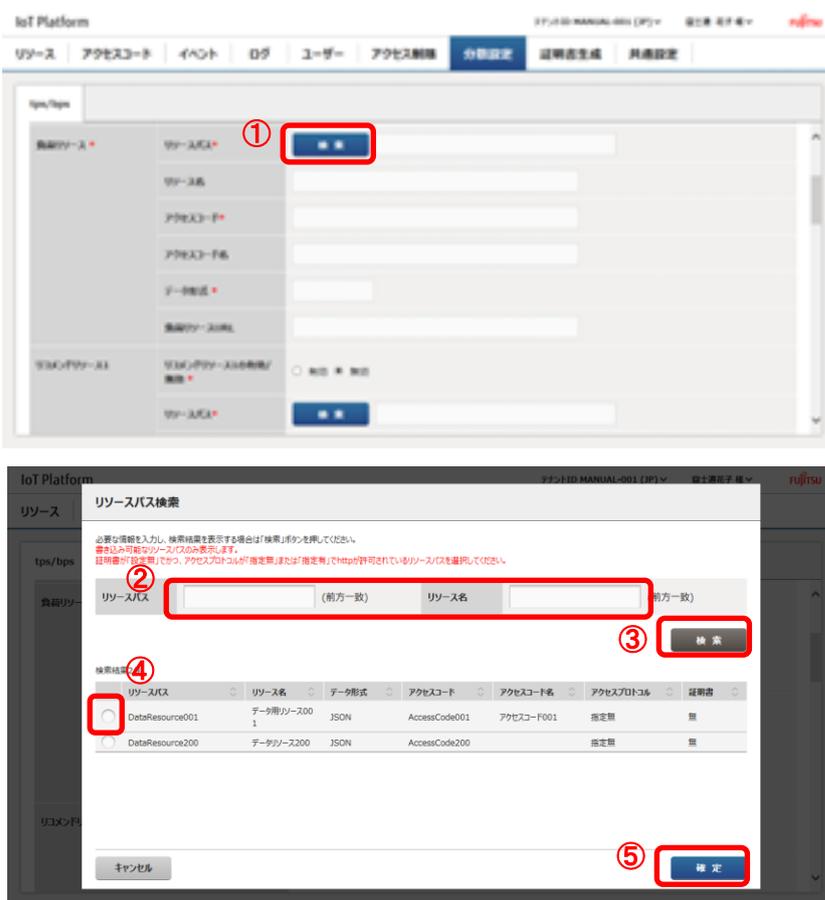
番号	項目名	説明	備考
①	リコメンド周期	リコメンドを行う間隔を設定します。	
②	算出期間	負荷状況を算出する間隔を設定します。	

入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
リコメンド周期	テキスト	半角数字	○	-	60	設定可能な値:1~1440(単位:分)
算出期間	テキスト	半角数字	○	-	120	設定可能な値:1~1440(単位:分)

・負荷リソースの設定

- ①の検索をクリックし、リソースパス検索画面を表示してください。
- リソースパス検索画面の②でリソースパスまたはリソース名を入力して検索(③)をクリックしてください。
- 検索結果(④)から設定するリソースパスを選択し、確定(⑤)をクリックしてください。



**注意**

- ・種別がリソース(転送)のリソースおよびデータ形式がバイナリのリソースは負荷リソースとして設定することはできません。
  - ・テナント作成時にシステムにより追加される、エラー収集用リソース「\_error」は負荷リソースとして設定することはできません。
- ※検索前にあらかじめ、リソース画面およびアクセスコード画面にて負荷リソースとして使用するリソースおよびアクセスコードを設定しておく必要があります。

番号	項目名	説明	備考
①	検索	リソースパス検索画面を表示します。	
②	リソースパス	リソースパスを設定します。	リソースパス検索により選択します
③	リソース名	リソース名を設定します。	リソースパス設定により、自動入力されます。
④	アクセスコード	アクセスコードを設定します。	
⑤	アクセスコード名	アクセスコード名を設定します。	
⑥	データ形式	データ形式を設定します。	
⑦	負荷リソース URL	負荷リソース URL を設定します。	

入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
リソースパス	テキスト	半角英数字	○	~128	-	検索により選択します。リソースパスを直接入力することはできません。
リソース名	-	-	-	-	-	リソースパス設定により、自動入力

アクセスコード	-	-	-	-	-	されます。
アクセスコード名	-	-	-	-	-	
データ形式	-	-	-	-	-	
負荷リソース URL	-	-	-	-	-	

## Memo

・リソースパス検索画面は 4.8.1 章イベント追加（判定設定）で使用するリソースパス検索画面と同様です。詳細は 4.8.1 章を参照願います。

### ・リコメンドリソースの設定

- ①でリコメンドリソース設定の有効/無効を設定してください。
- ②の検索をクリックし、リソースパス検索画面を表示してください。
- リソースパス検索画面の③でリソースパスまたはリソース名を入力して検索をクリックしてください。
- 検索結果④から設定するリソースパスを選択し、確定クリックしてください。
- ⑤で計測種別、エッジコンピューティング条件、上記の解除条件を設定して下さい。



### ⚠️ 注意

・テナント作成時にシステムにより追加される、エラー収集用リソース「\_error」はリコメンドリソースとして使用することはできません。

・検索前にあらかじめ、リソース画面およびアクセスコード画面にてリコメンドリソースとして使用するリソースおよびアクセスコードを設定しておく必要があります。

番号	項目名	説明	備考
①	有効/無効	リコメンドリソース設定の有効/無効を設定します。	
②	検索	リソースパス検索画面を表示します。	
③	リソースパス	リソースパスを設定します。	リソースパス検索により選択します。
④	リソース名	リソース名を設定します。	リソースパス設定により、自動入力されます。
⑤	アクセスコード	アクセスコードを設定します。	
⑥	アクセスコード名	アクセスコード名を設定します。	
⑦	データ形式	データ形式を設定します。	
⑧	リコメンドリソース URL	リコメンドリソースリソース URL を設定します。	
⑨	tps/bps 選択	負荷状況の計測種別を選択します。	
⑩	エッジコンピューティング条件	エッジコンピューティング条件を設定します。	
⑪	上記の解除条件	エッジコンピューティングの解除条件を設定します。	



注意

・リコメンドリソース設定を無効とした場合、当該リコメンドリソースの他の入力項目は内容を変更できない状態となります。また、この状態で分散ポリシーの更新を行った場合、当該リコメンドリソースの他の入力項目は更新されません。

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
リソースパス	テキスト	半角英数字	○	~128	-	検索により選択します。リソースパスを直接入力することはできません。
リソース名	-	-	-	-	-	リソースパス設定により、自動入力されます。
アクセスコード	-	-	-	-	-	
アクセスコード名	-	-	-	-	-	
データ形式	-	-	-	-	-	
リコメンドリソース URL	-	-	-	-	-	
エッジコンピューティング条件文字種選択	プルダウン	-	○		-	数値のみ選択できます。
エッジコンピューティング条件	テキスト	半角数字	○	~10	-	
エッジコンピューティング条件検出判定	プルダウン	-	○		-	以上のみ選択できます。
エッジコンピューティング条件通知文字列	テキスト	任意	○	~10	-	

解除条件文字種選択	プルダウン	-	-	-	-	数値のみ選択できます。
解除条件	テキスト	半角数字	○	~10	-	
解除条件検出判定	プルダウン		○		-	未満のみ選択できます。
解除条件通知文字列	テキスト	任意	○	~10	-	

## Memo

リコメンドリソースは1~3まで最大3件設定できます。各リコメンドリソースの設定項目は同一です。

### 分散設定の更新

- 更新(①)をクリックしてください。設定した内容が反映されます。



## 4.13. 証明書生成画面

共通画面の証明書生成をクリックすると、証明書生成画面が表示されます。証明書生成画面は証明書方式の選択状態によって表示される項目が変わります。

### 4.13.1. 証明書生成画面(新規証明書作成)

証明書生成画面の証明書方式で新規証明書生成を選択した場合、新規証明書作成用の項目が表示されます。この状態では、新規のクライアント証明書の生成およびダウンロードが行えます。

番号	項目名	説明	備考
①	証明書方式	証明書の方式を選択します。	

②	署名ハッシュアルゴリズム	署名ハッシュアルゴリズムを表示します。	4.13.1章(1)参照
③	PEM pass phrase	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
④	Export Password	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑤	Verifying ExportPassword	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑥	公開鍵の鍵長	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑦	有効期限	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑧	コモンネーム(CN)	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑨	国名(C)	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑩	都道府県名(ST)	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑪	市町村名(L)	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑫	組織名(O)	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑬	組織単位名(OU)	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑭	E-mail	証明書生成時に設定します。	4.13.1章(1)参照
⑮	生成ボタン	証明書を生成します。	4.13.1章(1)参照

### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
証明書方式	ラジオボタン	-	○	-	新規証明書作成	新規証明書作成、証明書署名から選択。
PEM pass phrase	テキスト	備考参照	○	8~16	-	使用可能文字:英小文字、英大文字、数字、# @ - ( ) : . _
Export Password	テキスト	備考参照	○	8~16	-	使用可能文字:英小文字、英大文字、数字、# @ - ( ) :
Verifying ExportPassword	テキスト	備考参照	○	8~16	-	使用可能文字:英小文字、英大文字、数字、# @ - ( ) :
公開鍵の鍵長	ラジオボタン	-	○	-	2048bit	1024bit、2048bit、4096bitから選択
有効期限	テキスト	備考参照	○	4	-	1~9999日まで指定可能
コモンネーム(CN)	テキスト	備考参照	○	32	-	英小文字、英大文字、数字、半角スペース、' - , ( ) . :
国名(C)	テキスト	備考参照	○	2	-	ISO 3166-1の alpha-2 国名コード
都道府県名(ST)	テキスト	備考参照	-	32	-	英小文字、英大文字、数字、半角スペース、' - , ( ) . :
市町村名(L)	テキスト	備考参照	-	32	-	英小文字、英大文字、数字、半角スペース、' - , ( ) . :
組織名(O)	テキスト	備考参照	-	32	-	英小文字、英大文字、数字、半角スペース、' - , ( ) . :
組織単位名(OU)	テキスト	備考参照	-	32	--	英小文字、英大文字、数字、半角スペース、' - , ( ) . :
E-mail	テキスト	備考参照	-	254	-	メールアドレス形式(RFC5321)

#### ➤ (1) 新規証明書作成

1. 入力パラメータ(①)を入力します。

※登録用パスワードおよび登録パスワード(確認用)は同じ文字列を入力してください。

2. 生成(②)をクリックすると証明書が生成されます。生成された証明書のダウンロードが行われますのでファイルに保存してください。

IoT Platform

テナントID MANUAL-001 (JP) | 富士通電子 様 | FUJITSU

リソース | アクセスコード | イベント | ログ | ユーザー | アクセス制限 | 分散設定 | 証明書生成 | 共通設定

### 証明書生成

必要な情報を入力し、「生成」ボタンを押下してください>(\*は入力必須)  
生成された証明書を保存してください。

証明書生成方式  新規証明書生成  証明書署名

署名ハッシュアルゴリズム sha256

PEM pass phrase\* ①

Export Password\*

Verifying Export Password\*

公開鍵の鍵長\*  1,024bit  2,048bit  4,096bit

有効期間(1~9999日)\*

IoT Platform

テナントID MANUAL-001 (JP) | 富士通電子 様 | FUJITSU

リソース | アクセスコード | イベント | ログ | ユーザー | アクセス制限 | 分散設定 | 証明書生成 | 共通設定

### 証明書生成

①

コモンネーム(CN)\*

国名(C)\*

都道府県名(ST)

市町村名(L)

組織名(O)

組織単位名(OU)

E-mail

②

生成

#### ⚠ 注意

- 証明書は生成時に1回のみダウンロードできます。再度ダウンロードすることはできません。ダウンロードを取り消した等、証明書の保存ができなかった場合、再度証明書の生成を行ってください。

#### 4.13.2. 証明書作成(証明書署名)

証明書生成画面の証明書方式で証明書署名を選択した場合、証明書署名用の項目が表示されます。この状態では CSR(証明書署名要求)による証明書の生成およびダウンロードが行えます。

番号	項目名	説明	備考
①	証明書方式	証明書の方式を選択します。	
②	Export Password	証明書生成時に設定します。	4.13.2章(1)参照
③	Verifying Export Password	証明書生成時に設定します。	4.13.2章(1)参照
④	CSR ファイル	証明書生成時に設定します。	4.13.2章(1)参照
⑤	参照ボタン	ファイルを選択し、CSR ファイルパスを設定します。	4.13.2章(1)参照
⑥	生成ボタン	証明書を生成します。	4.13.2章(1)参照

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
証明書方式	ラジオボタン	-	○	-	証明書署名	新規証明書作成、証明書署名から選択。
Export Password	テキスト	備考参照	○	8~16	-	使用可能文字:英小文字、英大文字、数字、# @ - ( ) : . _
Verifying Export Password	テキスト	備考参照	○	8~16	-	使用可能文字:英小文字、英大文字、数字、# @ - ( ) : . _
CSR ファイル	テキスト	備考参照	○	254	-	ファイルパスに利用可能な文字列

## ➤ (1) 証明書署名作成

1. 秘密鍵パスワード(①)を入力し  
す。
2. 登録用パスワードおよび登録用パ  
スワード(確認用)(②)を入力し  
ます。

※登録用パスワードおよび登録用パ  
スワード(確認用)は同じ文字列を入  
力してください。

3. 参照(③)をクリックし、CSR ファ  
イルを選択します。

4. 生成(④)をクリックすると証明書  
が生成されます。生成された証明書の  
ダウンロードが行われますのでファ  
イルに保存してください。

### ⚠ 注意

- ・証明書は生成時に1回のみダウンロードできます。再度ダウンロードすることはできません。ダウンロードを取り消した等、証明書の保存ができなかった場合、再度証明書の生成を行ってください。

## 4. 14. 共通設定画面

共通画面の共通設定をクリックすると、共通設定画面が表示されます。  
共通設定画面には MQTT 設定画面、CORS 設定画面、エラー収集設定画面があります。

### 4. 14. 1. MQTT 設定画面

MQTT 設定画面では MQTT パスワードの更新が行えます。

番号	項目名	説明	備考
①	User Name	MQTT の User Name を表示します。	4. 14. 1 章 (1) 参照
②	Password	現在の MQTT パスワードを表示します。	4. 14. 1 章 (1) 参照
③	新 Password	MQTT パスワード更新時に設定します。	4. 14. 1 章 (1) 参照
④	変更	MQTT パスワードを更新します。	4. 14. 1 章 (1) 参照

### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
新 Password	テキスト	備考参照	○	8~12	-	使用可能文字: 英小文字、英大文字、数字、# @ - ( ) : . _

#### ➤ (1) MQTT パスワード更新

1. MQTT 設定画面で新 Password(①)を入力します。

2. 変更(②)をクリックします。

※MQTT の User Name はテナント ID となりますのでお客様で変更することはできません。

## 4.14.2. CORS 設定画面

CORS 設定画面では CORS の利用設定を行えます。



番号	項目名	説明	備考
①	CORS 設定の有効/無効	CORS 設定の有効・無効を設定します。	4.14.2 章（1）参照
②	更新	CORS 設定を更新します。	4.14.2 章（1）参照

入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
CORS 設定の有効/無効	ラジオボタン	-	○	-	-	有効、無効から選択。 初期表示は現在の設定。

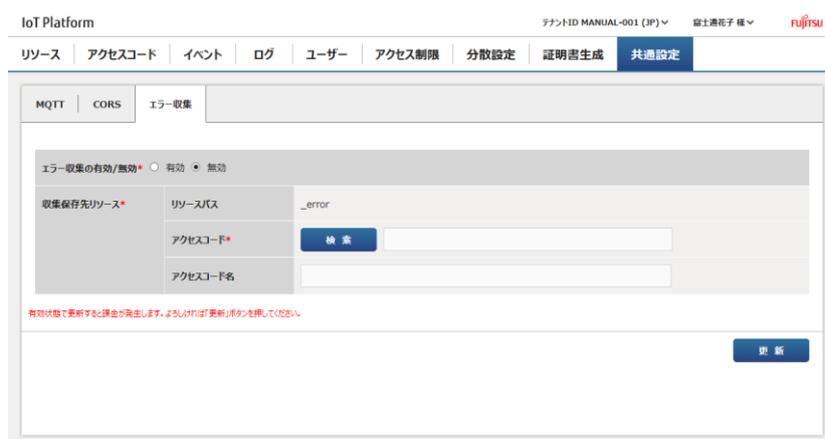
### ➤ （1）CORS 設定更新

1. CORS 設定画面で CORS 設定の有効/無効(①)を選択します。
2. 更新(②)をクリックします。



### 4. 14. 3. エラー収集設定画面

エラー収集設定画面ではエラー収集の利用設定を行えます。



番号	項目名	説明	備考
①	エラー収集有効/無効	CORS 設定の有効・無効を設定します。	4. 14. 3 章（1）参照
②	収集保存先リソース	収集したエラー情報が保存されるリソースパスを設定します。	
③	リソースパス	収集したエラー情報が保存されるリソースパスを表示します。	_error で固定。
④	検索	エラー情報を参照するためのアクセスコードをアクセスコード検索画面で検索し、設定します。	
⑤	アクセスコード	エラー情報を参照するためのアクセスコードを表示します。	リードオンリー
⑥	アクセスコード名	エラー情報を参照するためのアクセスコード名を表示します。	リードオンリー
⑦	更新	エラー収集設定を更新します。	4. 14. 3 章（1）参照

#### 入力パラメータについて

項目名	入力形式		必須	文字数	初期表示	備考
	入力方法	文字種				
エラー収集有効/無効	ラジオボタン	-	○	-	-	有効または無効から選択。
アクセスコード	-	-	※	-	-	検索により入力できます。
アクセスコード名	-	-	※	-	-	アクセスコード設定により、自動入力されます。

※エラー収集有効/無効が有効の場合のみ必須。

➤ (1) エラー収集設定更新

- ・エラー収集を有効にする場合

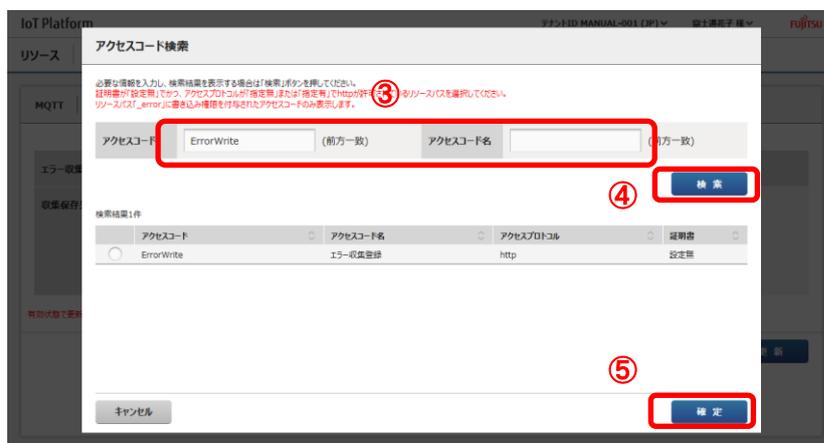
1. エラー収集設定画面で①のエラー収集有効/無効で有効を選択します。

2. 検索②をクリックし、アクセスコード検索画面を表示します。

3. アクセスコード検索画面で検索条件③を入力し、検索④をクリックします。

4. 検索結果からエラー収集に利用するアクセスコードを選択し、確定⑤をクリックします。

5. エラー収集設定画面で更新⑥をクリックします。



**!** 注意

- ・エラー収集設定画面で検索ボタンをクリックした場合に表示されるアクセスコード検索画面では、テナント作成時にシステムにより追加される、エラー収集用リソース「\_error」に対し、Uの権限を設定したアクセスコードのみ検索されます。
- ・エラー収集に利用するアクセスコードはアクセスプロトコルが「指定無」か「指定有」の場合、HTTPを指定しているものを設定してください。上記条件を満たさないアクセスコードを設定した場合、エラー収集が行えません。
- ・エラー収集に利用するアクセスコードとして設定したアクセスコードはアクセスコード更新画面で更新が行えますが、以下のような更新を行うとエラー収集が行えなくなるため、実行しないでください。
  - \_error に対する U 権限を削除する。
  - 使用リソース一覧から \_error を削除する

・エラー収集を無効にする場合

1. エラー収集設定画面で①のエラー収集有効/無効で無効を選択します。
2. 更新(②)をクリックします。



## 第5章 サービスポータルを用いた設定例

サービスポータルをご利用になる際に行う基本的な作業について、例を示します。画面の各項目の内容、操作方法については、該当のページをご覧ください。

### 5.1. サンプルデータ

設定のモデルとして、従業員の位置情報、出退勤の情報をスマートフォンに組み込まれた出退勤管理アプリから収集することによる勤怠管理のモデルを用いて説明します。

#### 実現したい内容

- ・出勤、および休みの状態（勤怠情報）を出退勤管理アプリが組み込まれたスマートフォンから本サービスに送信
- ・出退勤管理アプリでは本人がいる位置情報についても書き込み、参照が可能
- ・勤怠情報については全員が参照可能、勤怠情報の書き込みは各自のみ書き込み可能
- ・位置情報については管理職のみが参照可能、位置情報の書き込みは各自のみ書き込み可能
- ・勤怠情報が休み通知された場合は管理職宛にメール送信する。
- ・位置情報が北緯90度にいる場合はAPIを呼び出す。

出退勤管理対象従業員：富士通花子さん（管理職）  
 富士通太郎さん（一般社員）  
 富士通次郎さん（一般社員）

項目	小項目	設定値
テナント ID		123456JP01
リソースパス直前までの URI		<Base URL>/v1/123456JP01/
TOPIC 名		<アクセスコード/v1/123456JP01/リソースパス>
リソース 1	リソース名	出勤管理(富士通花子)
	リソースパス	diligens/status/hanako
	コメント	管理職
	データ形式	JSON
	データ	Date(日付) :YYYYMMDD plan(勤務状況) :0 : 出勤、1 : 休み JSONData イメージ <pre>{ "data": {     "date": 20150601,     "flag": 0 } }</pre>
リソース 2	リソース名	出勤管理(富士通太郎)
	リソースパス	diligens/status/taro
	コメント	一般社員
	データ形式	JSON
	データ	date(日付)、plan(勤務状況)
リソース 3	リソース名	出勤管理(富士通次郎)
	リソースパス	diligens/status/jiro
	コメント	一般社員
	データ形式	JSON
	データ	diligens/status/jiro

リソース 4	リソース名	位置管理(富士通花子)
	リソースパス	location/hanako
	コメント	管理職
	データ形式	JSON
	データ	lat(緯度)、lon(経度) { "location": { "lat": 30, "lon": 130 } }
リソース 5	リソース名	位置管理(富士通太郎)
	リソースパス	location/taro
	コメント	一般社員
	データ形式	JSON
	データ	lat(緯度)、lon(経度)
リソース 6	リソース名	位置管理(富士通次郎)
	リソースパス	location/jiro
	コメント	一般社員
	データ	lat(緯度)、lon(経度)
リソース 7(負荷リソース)	リソース名	負荷リソース
	リソースパス	drc/load
	コメント	アプリケーション負荷
	データ形式	JSON
	データ	負荷状況
リソース 8(リコメンドリソース)	リソース名	リコメンドリソース
	リソースパス	drc/recommend
	コメント	リコメンド
	データ形式	JSON
	データ	通知文字列
リソース 9	リソース名	ライン 1
	リソースパス	_bin/Line1/Camera
	コメント	カメラ画像
	データ形式	バイナリ
	データ	画像データ
リソース 10	リソース名	IoT 機器 S1
	リソースパス	iot/machine/S1
	コメント	IoT 機器証明書付き
	データ形式	テキスト
	データ	機器情報
アセスコード 1	アクセスコード	DiligenceManagement11111
	アクセスコード名	出勤状況参照と更新
	コメント	誰でも誰に対しても参照と更新ができる
	対象リソース	diligence/status/hanako、diligence/status/taro、 diligence/status/jiro
アセスコード 2	アクセスコード	LocationManagement22222
	アクセスコード名	位置情報更新(富士通花子)
	コメント	自分の位置情報のみ更新可能
	対象リソース	location/hanako
アセスコード 3	アクセスコード	LocationManagement33333
	アクセスコード名	位置情報更新(富士通太郎)
	コメント	自分の位置情報のみ更新可能

	対象リソース	location/taro
アセスコード 4	アクセスコード	LocationManagement44444
	アクセスコード名	位置情報更新(富士通次郎)
	コメント	自分の位置情報のみ更新可能
	対象リソース	location/jiro
アセスコード 5	アクセスコード	LocationManagement55555
	アクセスコード名	位置情報参照
	コメント	管理職のみ参照できる
	対象リソース	location/hanako、location/taro、location/jiro
アセスコード 6	アクセスコード	DRCLoad
	アクセスコード名	負荷情報参照更新
	コメント	
	対象リソース	drc/load
アセスコード 7	アクセスコード	DRCRecommend
	アクセスコード名	リコメンド
	コメント	
	対象リソース	drc/recommend
アセスコード 8	アクセスコード	Line1Camera
	アクセスコード名	ライン1用画像
	コメント	APIからのリソース更新、削除、参照ができる
	対象リソース	_bin/Line1/Camera
アセスコード 9	アクセスコード	SecureIoTMachine
	アクセスコード名	IoT 機器(証明書あり)
	コメント	証明書で認証
	対象リソース	iot/machine/S1
アセスコード 10	アクセスコード	ErrorRead
	アクセスコード名	エラー収集参照
	コメント	エラー収集参照用アクセスコード
	対象リソース	_error
アセスコード 11	アクセスコード	ErrorWrite
	アクセスコード名	エラー収集登録
	コメント	エラー収集登録用アクセスコード
	対象リソース	_error
イベント 1	イベント名	休み通知(富士通花子)
	コメント	花子が休みなら、太郎に Email 通知する
	対象リソース	diligences/status/hanako
	設定内容	パス位置 : data.flag 検出契機 : 数値 : 1 と一致 アクション : Email : taro@ml.css.fujitsu.com 宛に送信
イベント 2	イベント名	休み通知(富士通太郎)
	コメント	太郎が緯度 90 にいるなら、なんらかの API を呼ぶ
	対象リソース	location/taro
	設定内容	パス位置 : location.lat 検出契機 : 数値 : 90 と一致 アクション : API よびだし
サービスポータルアクセス制限 1	許可 IP アドレス(開始)	10.20.30.1
	許可 IP アドレス(終了)	10.20.30.200
	ユーザーID	hanako

アクセスコードアクセス制限	許可 IP アドレス (開始)	10. 10. 20. 10
	許可 IP アドレス (終了)	10. 10. 20. 100
	アクセスコード	LocationManagement22222
分散設定共通	リコメンド周期	60
	算出期間	120
負荷リソース	リソースパス	drc/load
リコメンドリソース	リソースパス	drc/recommend
	tps/bps 選択	tps
	エッジコンピューティング条件	文字種: 数値 条件 : 90 判定 : 以上 通知文字列: START
	上記の解除条件	文字種: 数値 条件 : 50 判定 : 以下 通知文字列: END
証明書 (新規作成)	PEM pass phrase	passphrase
	Export Password	password
	公開鍵の鍵長	2, 048bit
	有効期限	365
	コモンネーム (CN)	iotMachine_sl
	国名 (C)	JP
	都道府県名 (ST)	Tokyo
	市町村名 (L)	Kamata
	組織名 (O)	Fujitsu
	組織単位名 (OU)	IoT
	E-mail	mail-iot@iot.com

## 5.2. 上記モデルを用いた実際の操作

### 5.2.1. ログイン

インターネットに接続できる PC からサービス申込み時に通知されたサービスポータル URL にアクセスします。

1. ①にユーザーID を入力します。
2. ②にパスワードを入力します。
3. ログインをクリックします。



サービス申込み時に通知されたユーザーID およびパスワードを用いてログインします。

### 5.2.2. リソースの追加

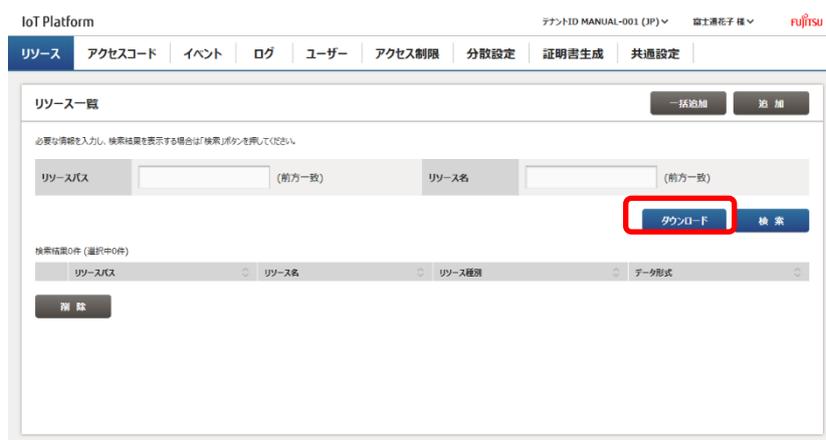
ここでは一括追加機能を用いてリソースを追加する方法を説明します。リソースに関するその他の機能については 4.6 章参照願います。

1. 共通画面の「リソース」をクリックします。



※共通画面については 4.5.1 章を参照願います。

2. 一括追加用の CSV 形式の雛形ダウンロードを行うために、ダウンロードをクリックし、サービスポータルを操作しているパソコンに保存します。



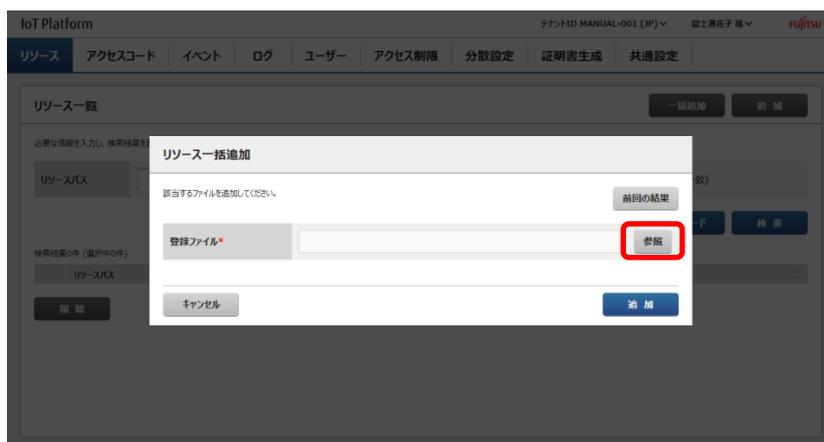
3. ダウンロードした雛形を編集し、保存します。

リソースパス	リソース名	データ形式	コメント	保存期間	リソース種別
diligencs/status/hanako	出勤管理(富士通花子)	1	管理職	1	1
diligencs/status/taro	出勤管理(富士通太郎)	1	一般社員	1	1
diligencs/status/jiro	出勤管理(富士通次郎)	1	一般社員	1	1
location/hanako	位置管理(富士通花子)	1	管理職	1	1
location/taro	位置管理(富士通太郎)	1	一般社員	1	1
location/jiro	位置管理(富士通次郎)	1	一般社員	1	1
drc/load	負荷リソース	1	負荷状況	1	1
drc/recommend	リコメンドリソース	1	リコメンド	1	1
_bin/Line1/Camera	ライン1	2	カメラ画像	1	1
iot/machine/S1	IoT 機器 S1	1	IoT 機器証明書付き	1	1

4. 一括追加をクリックします。



5. 参照をクリックし、3. で保存した CSV ファイルを選択します。



6. 追加をクリックします。

7. 確認メッセージを確認後、確定をクリックします。

8. 追加できたリソースの内容が表示されるため、問題ないことを確認します。

### 5.2.3. 証明書の生成

ここでは証明書生成機能を用いて新規に証明書を生成する方法を説明します。証明書に関するその他の機能については4.13章を参照願います。

1. 共通画面の「証明書生成」をクリックします。



2. 証明書生成画面の証明書形式で「新規証明書作成」を選択します。



3. PEM pass phrase を入力します。



例:passphrase

4. Export Password を入力します。また、確認として、Verifying Export Password に同じ文字列を入力してください。



例:password

5. 公開鍵の鍵長を選択します。

IoT Platform

フロントID MANUAL-001 (JP) 富士通電子様 FUJITSU

リソース | アクセスコード | イベント | ログ | ユーザー | アクセス制限 | 分散設定 | **証明書生成** | 共通設定

証明書生成

必要な情報を入力し、「生成ボタン」を押下してください。(\*は入力必須)  
生成された証明書も保存してください。

証明書生成方式	<input checked="" type="radio"/> 新規証明書生成 <input type="radio"/> 証明書署名
署名ハッシュアルゴリズム	sha2
PEM pass phrase*	<input type="text"/>
Export Password*	<input type="text"/>
Verifying Export Password*	<input type="text"/>
公開鍵の鍵長*	<input type="radio"/> 1,024bit <input checked="" type="radio"/> 2,048bit <input type="radio"/> 4,096bit
有効期間(1~9999日)*	<input type="text"/>

例:2,048bit

5. 有効期限、コモンネーム(CN)、国名(C)、都道府県名(ST)、市町村名(L)、組織名(O)、組織単位名(OU)、E-mailを入力します。

IoT Platform

フロントID MANUAL-001 (JP) 富士通電子様 FUJITSU

リソース | アクセスコード | イベント | ログ | ユーザー | アクセス制限 | 分散設定 | **証明書生成** | 共通設定

証明書生成

コモンネーム(CN)*	<input type="text"/>
国名(C)*	<input type="text"/>
都道府県名(ST)	<input type="text"/>
市町村名(L)	<input type="text"/>
組織名(O)	<input type="text"/>
組織単位名(OU)	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>

生成

例:

有効期限:365

コモンネーム(CN):iotMachine\_s1

国名(C):JP

都道府県名(ST):Tokyo

市町村名(L):Kamata

組織名(O):Fujitsu

組織単位名(OU):IoT

E-mail: mail-iot@iot.com

### 5.2.4. アクセスコードの追加

ここでは一括追加機能を用いてアクセスコードを追加する方法を説明します。アクセスコードに関するその他の機能については4.7章を参照願います。

1. 共通画面の「アクセスコード」をクリックします。



2. 一括追加用の CSV 形式の雛形ダウンロードを行うために、ダウンロードをクリックし、サービスポータルを操作しているパソコンに保存します。



3. ダウンロードした雛形を編集し、保存します。

アクセスコード	アクセスコード名	コメント	アクセスプロトコル	リソースパス 1	アクセス権限 1	リソースパス 2	アクセス権限 2	...
DiligenceManagement11111	出勤状況参照と更新	誰でも誰に対しても参照と更新ができる		diligence/status/hanako	RU	diligence/status/taro	RU	diligence/status/jiro
LocationManagement22222	位置情報更新 (富士通花子)	自分の位置情報のみ更新可能		location/hanako	RU			
LocationManagement33333	位置情報更新 (富士通太郎)	自分の位置情報のみ更新可能		location/taro	RU			
LocationManagement44444	位置情報更新 (富士通次郎)	自分の位置情報のみ更新可能		location/jiro	RU			
LocationManagement55555	位置情報参照	管理職のみ参照できる		location/hanako	R	location/jiro	R	
DRCLoad	負荷情報参照更新			drc/load	RU			
DRCRecommend	リコメンド			drc/recommend	RU			
Line1Camera	ライン1用画像	APIからのリソース更新、削除、参照ができる		_bin/Line1/Camera	CDLRU			
SecureIoTMachine	IoT機器(証明書あり)	証明書で認証		iot/machine/S1	RU			
ErrorRead	エラー収集参照	エラー収集参照用	http	_error	R			
ErrorWrite	エラー収集登録	エラー収集登録用	http	_error	U			

4. 一括追加をクリックします。

5. 参照をクリックし、3. で保存した CSV ファイルを選択します。



6. 追加をクリックします。

7. 確認メッセージを確認後、確定をクリックします。

8. 追加できたアクセスコードの内容が表示されるため、問題ないことを確認します。

#### 5.2.5. API のアプリケーションへの組み込み

リソースおよびアクセスコードの追加が完了すると、本サービスが公開している API をよびだすことによりリソースに対するデータの書き込みおよび参照が可能となります。

API の仕様詳細については「IoT Platform ユーザーガイド」を参照願います。

#### 5.2.6. イベント機能 (Email) の設定

イベント機能の追加を 5.1 記載のモデルに従って「イベント 1」の設定方法を説明します。

1. 共通画面の「イベント」をクリックします。



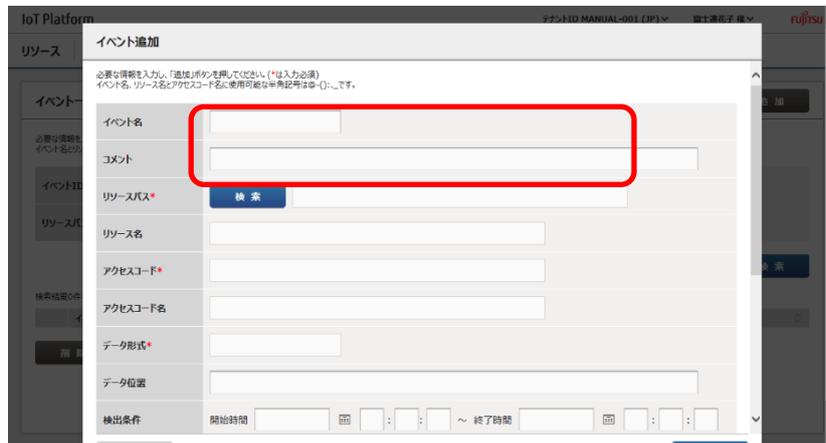
2. 「追加」をクリックします。



3. イベント名およびコメントを入力します。

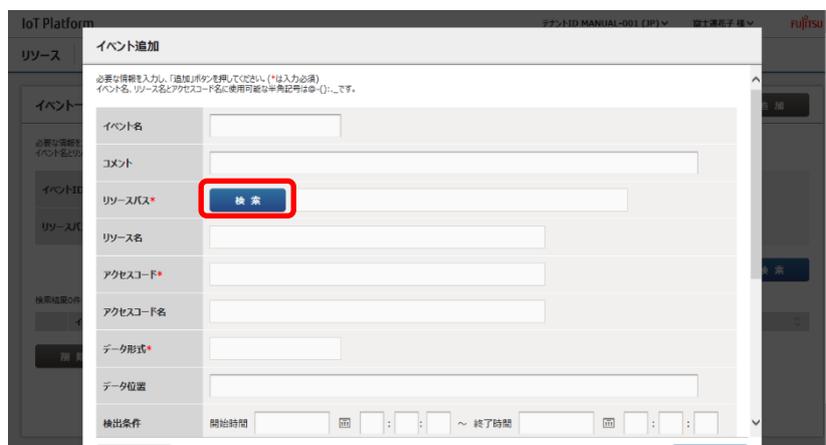
イベント名：休み通知(富士通花子)

コメント：花子が休みなら、太郎に Email 通知する。

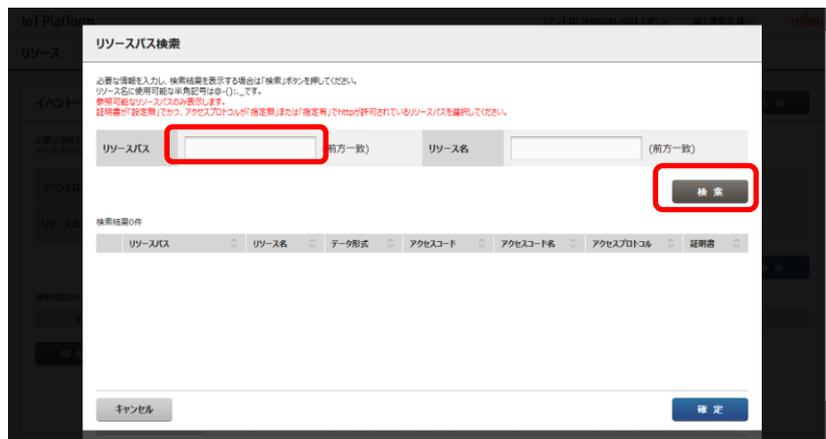


4. イベント対象のリソース割付を行います。

4-1. リソースパスの「検索」をクリックします。



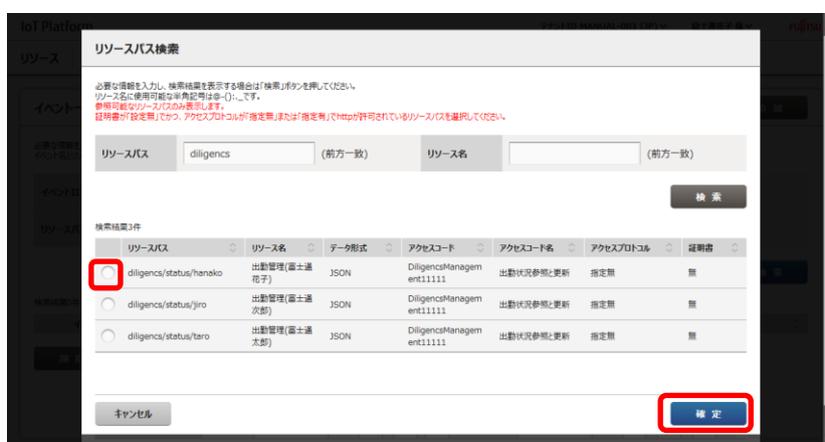
4-2. リソースパスに diligencs と入力して検索をクリックします。



4-3. リソースパスの先頭文字に diligencs を含んだパスの検索結果が下部に表示されます。

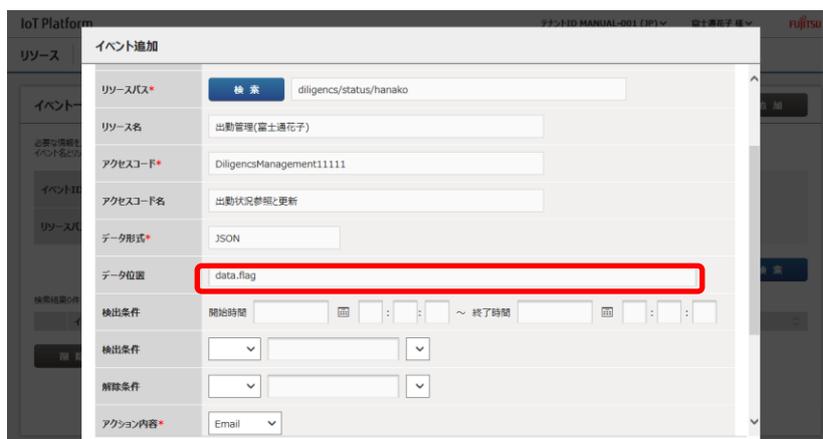


4-4. アクセスコード: diligencsManagement11111 を含んだリソース: diligencs/status/hanako を選択し、「確定」をクリックします。

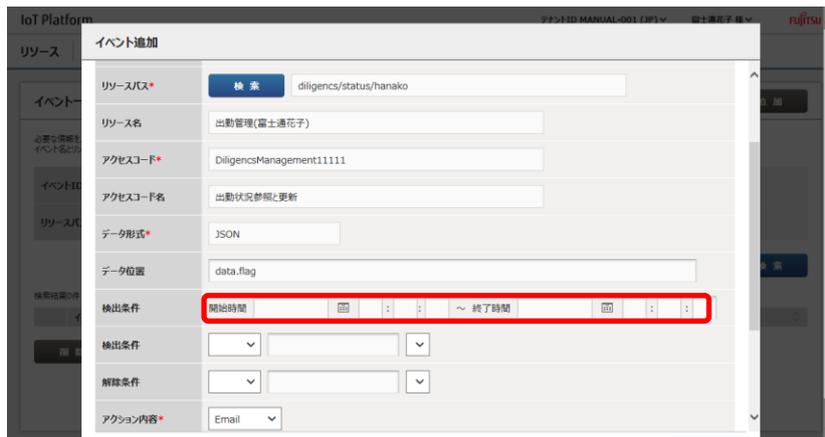


5. 確定クリック後は「リソース名:出勤管理(富士通花子)」、「アクセスコード:DiligencsManagement11111」  
「アクセスコード名:出勤状況参照と更新」が自動的に入力されます。

6. 「データ位置」を入力します。データ位置は JSONPath 形式で入力してください。  
今回の場合は data.flag を入力します。

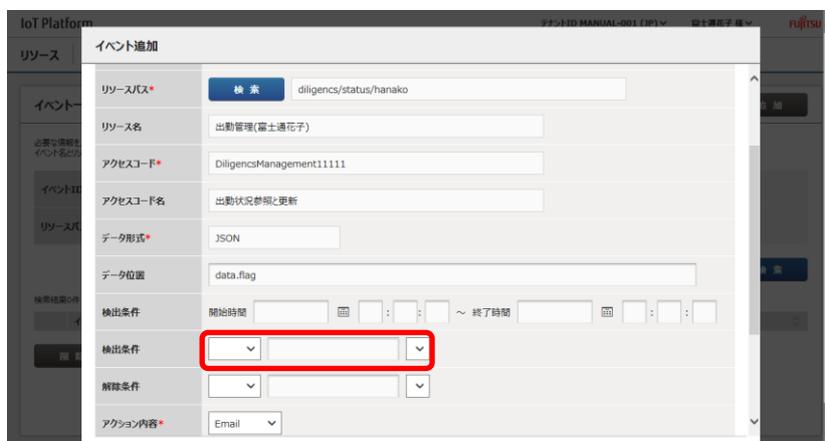


7. 検出条件の時間範囲を入力します。今回のケースでは本設定は行いません。



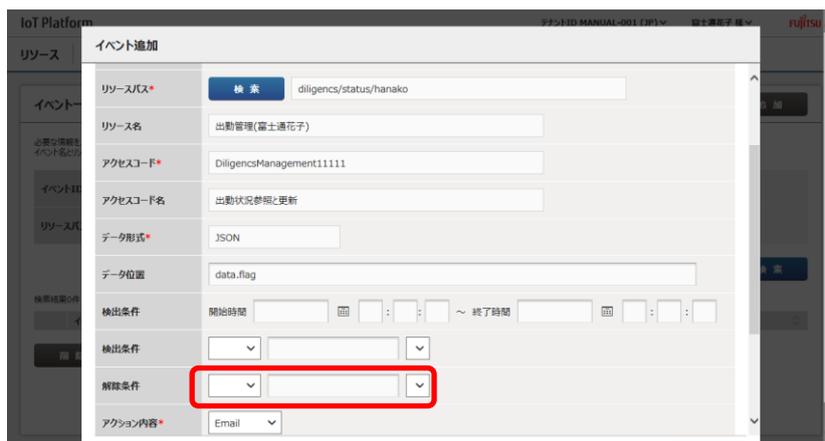
The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form in the IoT Platform. The '検出条件' (Detection Condition) field is highlighted with a red box, indicating the time range selection interface. The form includes fields for 'リソースパス' (Resource Path), 'リソース名' (Resource Name), 'アクセスコード' (Access Code), 'アクセスコード名' (Access Code Name), 'データ形式' (Data Format), 'データ位置' (Data Location), '検出条件' (Detection Condition), '解除条件' (Release Condition), and 'アクション内容' (Action Content).

8. 検出条件を設定します。今回のケースでは「数値を選択、1を入力、一致を選択」の設定をします。



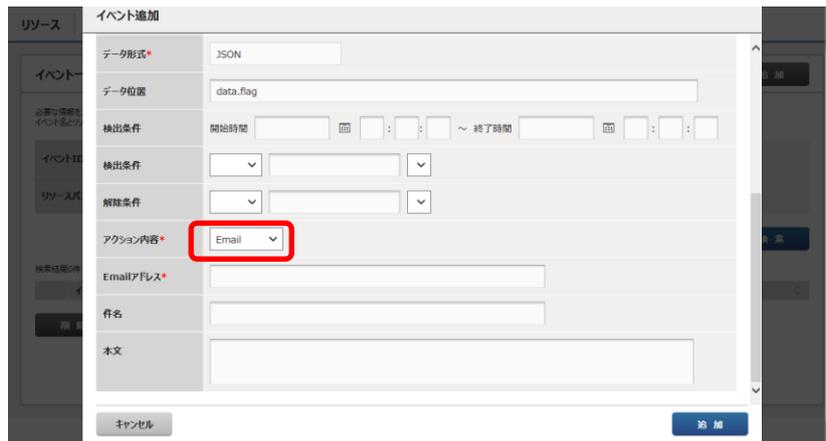
The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form in the IoT Platform. The '検出条件' (Detection Condition) dropdown menu is highlighted with a red box, indicating the selection options. The form includes fields for 'リソースパス' (Resource Path), 'リソース名' (Resource Name), 'アクセスコード' (Access Code), 'アクセスコード名' (Access Code Name), 'データ形式' (Data Format), 'データ位置' (Data Location), '検出条件' (Detection Condition), '解除条件' (Release Condition), and 'アクション内容' (Action Content).

9. 解除条件を設定します。今回のケースでは本設定は行いません。解除条件の仕様については 3.6.3 章を参照願います。



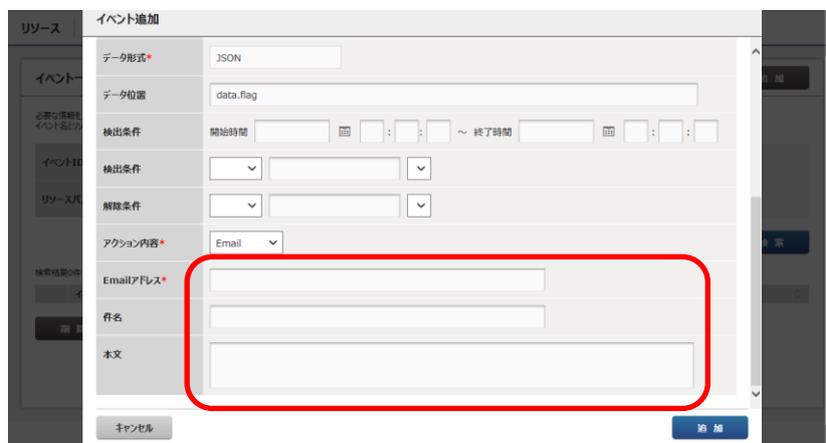
The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form in the IoT Platform. The '解除条件' (Release Condition) dropdown menu is highlighted with a red box, indicating the selection options. The form includes fields for 'リソースパス' (Resource Path), 'リソース名' (Resource Name), 'アクセスコード' (Access Code), 'アクセスコード名' (Access Code Name), 'データ形式' (Data Format), 'データ位置' (Data Location), '検出条件' (Detection Condition), '解除条件' (Release Condition), and 'アクション内容' (Action Content).

10. アクション内容を設定します。今回のケースではEmailを選択します。



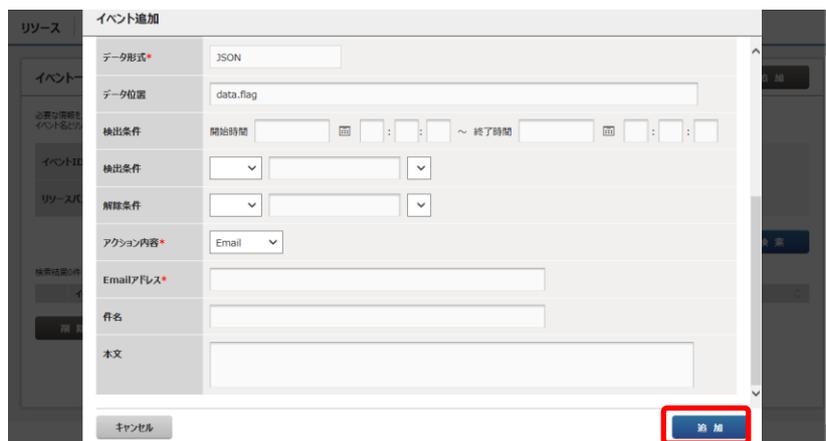
The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form. The 'アクション内容\*' (Action Content) dropdown menu is highlighted with a red box and set to 'Email'. Other fields include 'データ形式\*' (Data Format) set to 'JSON', 'データ位置' (Data Location) set to 'data.flag', and '検出条件' (Detection Conditions) with start and end time pickers. The 'Emailアドレス\*' (Email Address), '件名' (Subject), and '本文' (Body) fields are currently empty.

11. Emailアドレス、タイトル、本文を入力します。



The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form. The 'アクション内容\*' (Action Content) dropdown is still set to 'Email'. The 'Emailアドレス\*' (Email Address), '件名' (Subject), and '本文' (Body) input fields are now highlighted with a red rounded rectangle, indicating they are the focus for input.

12. 最下部にある追加をクリックします。



The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form. The '追加' (Add) button at the bottom right is highlighted with a red box, indicating it should be clicked to save the event.

13. 確認画面が出力されますので、確定をクリックすると、イベント設定が追加されます。

### 5.2.7. イベント(Email)を発生させた場合のメール受信確認

データ書き込みAPI を呼び出した後に Email が送信されることを確認してください。  
また、送信先には以下のようなメールを送信します。

-----  
送信元 : eventinfo@sys. iot. jp. fujitsu. com  
送信先/タイトル/本文 : イベントで設定した送信先/タイトル/本文  
添付ファイル : eventinfo. txt  
添付ファイル内容 JSON 形式の以下のような内容です。

```
{
  "eventID " : " 123456789abc" ,
  "operation " : " update" ,
  "date" : " 20141225T103612.001+0900" ,
  "resoucepath" : " diligencs/status/hanako" ,
  "message" : { "data": {"date": 20150601, "flag": 1} }
}
```

※eventID: システムによって自動で割り当てられる 12 桁のイベント ID です。

operation : 対象イベントが参照しているリソースパスで発生した操作

Data: イベントが発生した時刻です。

Resoucepath: 対象イベントが参照しているリソースパスです。

Meaage: イベントが発生した時点でのリソースデータの内容です。

### 5.2.8. イベント機能(API 呼び出し)の設定

イベント機能の追加を 5.1 記載のモデルに従って「イベント 2」の設定方法を説明します。

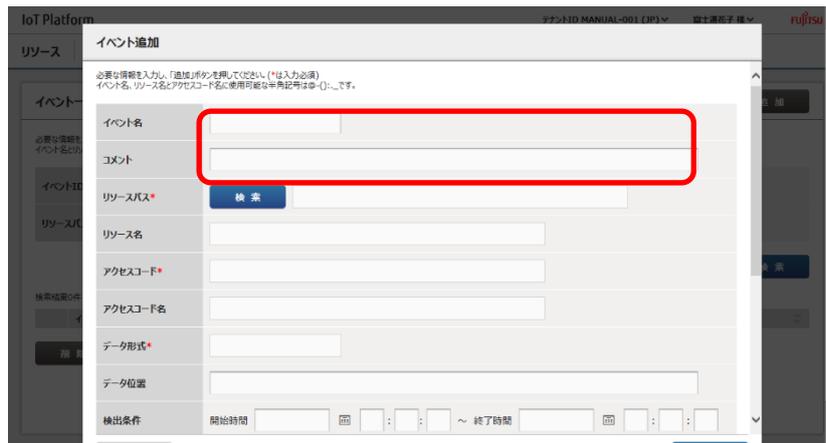
1. 共通画面の「イベント」をクリックします。



2. 「追加」をクリックします。

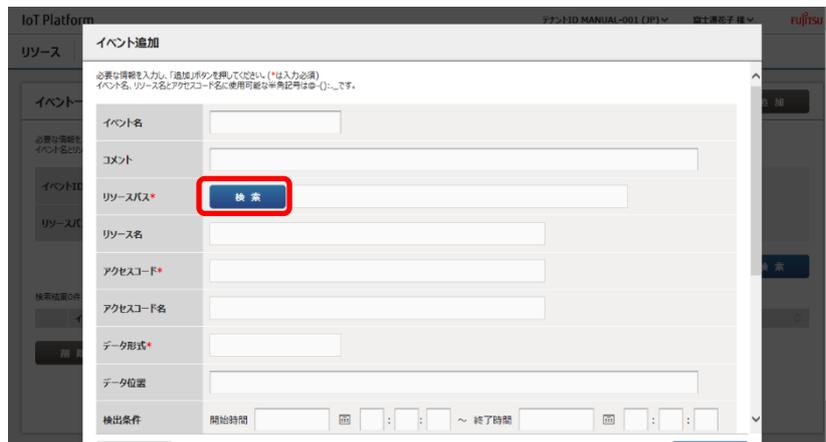


3. イベント名およびコメントを入力します。  
 イベント名：休み通知(富士通太郎)  
 コメント：太郎が緯度 90 にいるなら、API1 を呼ぶ



4. イベント対象のリソース割付を行います。

- 4-1. リソースパスの検索をクリックします。



- 4-2. リソースパスに location とと入力して検索をクリックします。



5. リソースパスの先頭文字に location を含んだパスの検索結果が下部に表示されます。



6. アクセスコード: LocationManagement33333 を含んだリソース: location/taro を選択し、「確定」をクリックします。



7. 確定クリック後は「リソース名:位置管理(富士通太郎)」、「アクセスコード:LocationManagement33333」、「アクセスコード名:位置情報更新(富士通太郎)」が自動的に入力されます。

### Memo

- ・アクセスコードが設定されていないリソースを選択することはできません。
- ・アクセスコードが設定されていても、Rの権限が設定されていないかGの権限が設定されているリソースの配下でない場合もリソースの選択することはできません。権限が設定されていない場合はアクセスコードのメニュー(4.7.5章(3))から編集してください。

8. 「データ位置」を入力します。データ位置は JSONPath 形式で入力してください。  
今回の場合は location.lat を入力します。

The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form in the IoT Platform. The 'データ位置' (Data Location) field is highlighted with a red box and contains the text 'location.lat'. Other fields include 'リソースパス' (location/taro), 'リソース名' (位置管理(富士通太郎)), 'アクセスコード' (LocationManagement33333), 'アクセスコード名' (位置情報更新(富士通太郎)), 'データ形式' (JSON), '検出条件' (Start time, End time), '検出条件' (Dropdown), '解除条件' (Dropdown), and 'アクション内容' (Email).

9. 検出条件の時間範囲を入力します。今回のケースでは本設定は行いません。

The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form. The '検出条件' (Detection Condition) field, which includes a time range selector, is highlighted with a red box. The 'データ位置' field now contains 'location.lat'. Other fields are the same as in the previous screenshot.

10. 検出条件を設定します。今回のケースでは、  
「数値を選択、 90を入力、一致を選択」と入力します。

The screenshot shows the 'イベント追加' (Event Addition) form. The '検出条件' (Detection Condition) dropdown menu is highlighted with a red box. The 'データ位置' field now contains 'location.lat'. Other fields are the same as in the previous screenshot.

- 1 1. 解除条件を設定します。今回のケースでは本設定は行いません。解除条件の仕様については 3.6.3 章を参照願います。

IoT Platform

イベント追加

リリースID\*

リリース名

アクセスコード\*

アクセスコード名

データ形式\*

データ位置

検出条件 開始時間  :  :  ~ 終了時間  :  :

検出条件

解除条件

アクション内容\*

- 1 2. アクション内容を設定します。今回のケースでは API 呼び出しを選択します。API 選択時は以下のような画面になります。

IoT Platform

イベント追加

アクション内容\*

URI\*

メソッド\*

認証ID  認証パスワード

ヘッダ名1  ヘッダ値1

ヘッダ名2  ヘッダ値2

ヘッダ名3  ヘッダ値3

ヘッダ名4  ヘッダ値4

ヘッダ名5  ヘッダ値5

ヘッダ名6  ヘッダ値6

- 1 3. API の設定をします。API の仕様に関してはお客様が設定される API の仕様に基づいて設定されますようお願いします。

- 1 4. 最下部にある追加をクリックします。確認画面で確定をクリックすると、イベント設定が追加されます。

IoT Platform

イベント追加

ヘッダ名3  ヘッダ値3

ヘッダ名4  ヘッダ値4

ヘッダ名5  ヘッダ値5

ヘッダ名6  ヘッダ値6

ヘッダ名7  ヘッダ値7

ヘッダ名8  ヘッダ値8

ヘッダ名9  ヘッダ値9

ヘッダ名10  ヘッダ値10

ボディ

キャンセル

## 5.2.9. アクセス制限の設定

- 想定される利用方法について記載

### ➤ (1) サービスポータルアクセス制限

ここでは、5.2.1 でログインしたユーザーID について、サービスポータルにログインすることのできる PC を制限する設定を追加する方法を説明します。

1. 共通画面の「アクセス制限」をクリックします。



サービスポータルアクセス制限画面が表示されます。

※共通画面については4.5.1章を参照願います。

2. サービスポータルアクセス制限画面で追加をクリックします。



3. 許可 IP アドレスを入力します。以下のいずれかを入力してください。

- a. 開始に許可する PC の IP アドレスを入力し、終了は空白
- b. または、アクセスを許可する PC の IP アドレスを含むようにを入力します。

例: アクセスを許可する PC の IP アドレスが 10.20.30.100 の場合

開始:10.20.30.1

終了:10.20.30.200

- サービスポータルアクセス制限追加画面でユーザーID を入力し(未入力でも可)、検索をクリックします
- 検索結果から許可対象にするユーザーID(hanako)をチェックし、▼追加をクリックしてください。チェックしたユーザーID が使用ユーザーの一覧に移動します。



- 画面下部の追加をクリックすると、確認画面が表示されますので内容が正しいかどうか確認してください。正しい場合は確定をクリックしてください。



- 追加したサービスポータルアクセス制限を有効にするため、ログイン可能なユーザーID で 10 分以内に再ログインしてください。

➤ (1) アクセスコードアクセス制限

ここでは、5.2.4 で追加したアクセスコードについて、アクセスすることのできる機器を制限する設定を追加する方法を説明します。

1. 共通画面の「アクセス制限」をクリックします。



※共通画面については4.5.1章を参照願います。

2. アクセスコードタブをクリックしてください。



アクセスコードアクセス制限画面が表示されます。

3. アクセスコードアクセス制限画面で追加をクリックします。



3. 許可 IP アドレスを入力します。以下のいずれかを入力してください。
  - a. 開始に許可する PC の IP アドレスを入力し、終了は空白を入力します。
  - b. 開始とアクセスを許可する機器の IP アドレスを含むように入力します。  
例: アクセスを許可する機器の IP アドレスが 10.10.20.50 の場合  
開始: 10.10.20.10  
終了: 10.10.20.100

4. アクセスコードアクセス制限追加画面でアクセスコードを入力し(未入力でも可)、検索をクリックすると下部に検索結果が表示されます。
5. 検索結果から許可対象にするアクセスコード(今回は LocationManagement22222)をチェックし、▼追加をクリックしてください。チェックしたアクセスコードが使用アクセスコードの一覧に移動します。



6. 画面下部の追加をクリックすると、確認画面が表示されますので内容が正しいかどうか確認してください。正しい場合は確定をクリックしてください。



## 5.2.10. 分散機能の設定

ここでは、分散機能について設定を追加する方法を説明します。

1. 共通画面の「分散設定」をクリックします。



※共通画面については4.5.1章を参照願います。

画面下部に tps/bps 分散設定画面が表示されます。

2. 全体の有効/無効選択ラジオボタンで有効を選択します。



3. 分散ポリシー共通を入力します。

リコメンド周期：60

算出期間：120



4. 負荷リソースの右側にある検索ボタンをクリックするとリソースパス検索画面が表示されます。リソースパスに drc と入力して検索を実行し、負荷リソースとして割り当てるリソースパス (drc/load) を選択して確定ボタンをクリックしてください。



選択したリソースパスの情報が負荷リソースのリソースパス～負荷リソース URL までの欄に反映されますので内容を確認してください。

5. リコメンドリソース 1 の有効/無効選択ラジオボタンで有効を選択します。



6. リコメンドリソース 1 の右側にある検索ボタンをクリックするとリソースパス検索画面が表示されます。検索を実行し、リコメンドリソース 1 として割り当てるリソースパス (drc/recommend) を選択して確定ボタンをクリックしてください。

※リソースパス検索画面は 4. で表示される画面と同様です。

選択したリソースパスの情報がリコメンドリソース 1 のリソースパス～リコメンドリソース URL までの欄に反映されますので内容を確認してください。

7. リコメンドリソース 1 のエッジコンピューティング条件を設定します。

例: 値が 90 以上の場合にエッジコンピューティングを開始する場合。

文字種: 数値

条件 : 90

判定 : 以上

通知文字列: START (※)

※:エッジコンピューティングを行うアプリに通知する文字列となりますので、アプリに合わせた文字

列を入力する必要があります。

8. リコメンドリソース 1 のエッジコンピューティング解除条件を設定します。例えば以下のように設定できます。

例：値が 50 未満の場合にエッジコンピューティングを解除する場合。

文字種：数値

条件：50

判定：未満

通知文字列：END (※)

※:エッジコンピューティングを行うアプリに通知する文字列となりますので、アプリに合わせた文字列を入力する必要があります。

9. 画面下部の更新をクリックしてください。設定された内容で分散ポリシーを更新します。

The screenshot shows the 'IoT Platform' console interface. The top navigation bar includes tabs for 'ポリシー', 'アクセスコード', 'イベント', 'ログ', 'ユーザー', 'アクセス制御', '分散設定', '証明書生成', and '共通設定'. The '分散設定' tab is selected. The main content area displays a configuration form for a resource named 'Edge/Edge'. The form includes several sections: 'アプリケーション名' (Application Name), '子一対多' (One-to-many), '可読/可写/可消' (Read/Write/Delete), 'Edge/Edge通知' (Edge/Edge Notification), 'Edge/Edge/Edge通知' (Edge/Edge/Edge Notification), and 'Edge/Edge通知条件' (Edge/Edge Notification Condition). The 'Edge/Edge通知' field has a dropdown menu set to 'Edge'. The 'Edge/Edge/Edge通知' field has a dropdown menu set to '未満' and a text input field containing '50'. The 'Edge/Edge通知条件' field has a dropdown menu set to '未満' and a text input field containing 'END'. A red box highlights the '更新' (Update) button at the bottom right of the form.

### 5.2.11. MQTT の設定

ここでは MQTT のパスワードを設定する方法を説明します。MQTT を利用しない、パスワードを変更する必要がない場合は設定する必要はありません。

1. 共通画面の「共通設定」をクリックします。



※共通画面については 4.5.1 章を参照願います。

2. MQTT パスワードを入力し、更新ボタンをクリックします。設定された内容で MQTT パスワードを更新します。



The screenshot shows the MQTT configuration page. The 'MQTT' tab is selected. The form contains the following fields:

User Name	MANUAL-001
Password	Gp(2AhxX
新 Password*	<input type="password"/>

The '新 Password\*' field and the '変更' button are highlighted with red boxes.

例:mqttpass

## 5.2.12. CORS の設定

ここでは CORS の利用有無を設定する方法を説明します。

1. 共通画面の「共通設定」をクリックします。



※共通画面については 4.5.1 章を参照願います。

2. CORS タブをクリックしてください。



CORS 設定画面が表示されます。

3. CORS を利用する場合は有効を、利用しない場合は無効を選択し、更新ボタンをクリックします。設定された内容で CORS 設定を更新します。



例: 無効

### 5.2.13. エラー収集の設定

ここではエラー収集の利用設定を行う方法を説明します。

1. 共通画面の「共通設定」をクリックします。



※共通画面については 4.5.1 章を参照願います。

2. エラー収集タブをクリックしてください。



エラー収集設定画面が表示されます。

3. エラー収集有効/無効の項目を選択します。エラー収集を利用する場合は有効を、利用しない場合は無効を選択します。



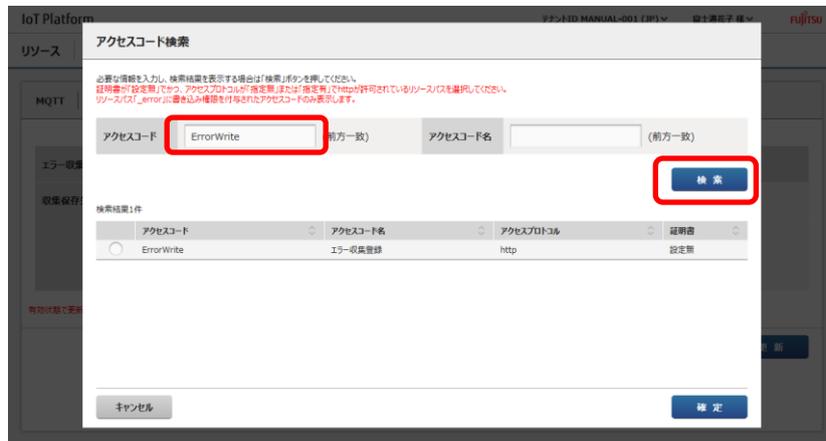
例: 有効

4. エラー収集用リソース「\_error」に書き込みを行うアクセスコードの設定を行います。

- 4-1. アクセスコードの「検索」をクリックします。



- 4-2. アクセスコード検索画面でアクセスコードに ErrorWrite と入力して検索をクリックします。



4-3. アクセスコード ErrorWrite を選択し、「確定」をクリックします。



5. 「更新」をクリックします。



## 第6章 エラーメッセージ一覧

メッセージ ID	メッセージ (日本語)	対処方法
00007	ユーザーID とパスワードが一致しません。	ユーザーID 又はパスワードが間違っています。 ログインに証明書が必要なユーザーの場合、証明書が間違っている場合があります。 パスワードを忘却した場合はお客様内の他管理者様に、パスワードリセット依頼をしてください。 また、サービスポータルアクセス制限の設定に間違いがないかご確認ください。
00010	一定時間操作がなかったため接続を切りました。	再度ログインしてください。
00017	ユーザーID とパスワードが一致しません。	ユーザーID 又はパスワードが間違っています。 パスワードを忘却した場合はお客様内の他管理者様に、パスワードリセット依頼をしてください。 また、サービスポータルアクセス制限の設定に間違いがないかご確認ください。
06101	該当する情報が 100 件を超えているため先頭 100 件のみ表示します。	リソースパスの検索条件を絞ってください。
06102	リソースパスは 128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。記号-/は先頭には使用できません。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
06103	リソース名 は 32 文字以内で入力してください。	
06201	リソースパスは 2~128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号は先頭と/の後ろには使用できません。	
06203	指定されたリソースパスは登録されていません。	未登録のリソースパスを指定してください。
06204	リソース名 は 32 文字以内で入力してください。	
06206	指定されたリソース名は登録されています。	未登録のリソース名を指定してください。
06207	データ形式を選択してください。	
06209	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
06210	認証 ID は 20 文字以内の半角で入力してください。	
06211	認証パスワードは 20 文字以内の半角で入力してください。	
06212	ヘッダ名 1 は 20 文字以内の半角で入力してください。	「ヘッダ名 1」の番号部分是对应する番号が表示されます。
06213	ヘッダ値 1 は 512 文字以内の半角で入力してください。	「ヘッダ値 1」の部分是对应する番号が表示されます。
06214	保存期間(日)は 1~365 以内の半角数字で入力してください。	
06215	URI は 256 文字以内の半角で入力してください。	
06216	リソース種別がリソース (転送) の場合、リソースパスは 1~123 文字以内の半角英数字及	

	び記号-_/で入力してください。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
06217	リソース種別がリソース、データ形式がバイナリの場合、リソースパスは1~123文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
06301	リソース一括追加用ファイルを指定してください。	リソース一括追加時にCSVフォーマットのファイルを指定してください。
06302	CSVのフォーマットに誤りがあります。	リソース登録時のCSVファイルを編集し直してください。
06303	CSVファイルが100行を超えています。分割して登録してください。	
06304	項目数が正しくありません。	
06305	リソース種別を選択してください。	
06308	メソッドを選択してください。	
06310	認証IDは20文字以内の半角で入力してください。	
06311	認証パスワードは20文字以内の半角で入力してください。	
06312	ヘッダ名1は20文字以内の半角で入力してください。	「ヘッダ名1」の番号部分是对应する番号が表示されます。
06313	ヘッダ値1は512文字以内の半角で入力してください。	「ヘッダ値1」の部分は対応する番号が表示されます。
06314	保存期間(日)は1~365以内の半角数字で入力してください。	
06315	URIは256文字以内の半角で入力してください。	
06316	リソース(転送)を選択した場合のリソースパスは_fwd/を含めず1~123文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
06317	リソース種別がリソース、データ形式がバイナリの場合、リソースパスは_bin/を含めず1~123文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
06318	リソース種別がリソース(転送)の場合、データ形式は"1"(JSON)を入力してください。	
06401	指定されたリソースパスは存在していません。	リソース更新中に別ユーザーによってリソースが削除された可能性があります。別ユーザーがリソース削除していないか確認してください。
06402	リソース名は32文字以内で入力してください。	
06404	指定されたリソース名は存在しています。	リソース名更新時のリソース名の指定を見直してください。
06405	選択されたリソースパスは削除されています。	
06410	認証IDは20文字以内の半角で入力してください。	
06411	認証パスワードは20文字以内の半角で入力してください。	

06412	ヘッダ名 1 は 20 文字以内の半角で入力してください。	「ヘッダ名 1」の番号部分是对应する番号が表示されます。
06413	ヘッダ値 1 は 512 文字以内の半角で入力してください。	「ヘッダ値 1」の部分是对应する番号が表示されます。
06414	保存期間(日)は 1~365 以内の半角数字で入力してください。	
06415	URI は 256 文字以内の半角で入力してください。	
06503	削除が失敗しました。	イベントおよびアクセスコードの削除を行ってからリソース削除を行ってください。
06504	リソース配下にアクセスコードが存在するので削除できません。	アクセスコードの削除を行ってからリソース削除を行ってください。
07101	アクセスコードは 48 文字以内の半角英数字で入力してください。	
07102	アクセスコード名は 32 文字以内で入力してください。	
07103	リソースパスは 128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。記号-/は先頭には使用できません。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
07104	リソース名は 32 文字以内で入力してください。	
07105	該当する情報が 1000 件を超えているため、先頭 1000 件のみ表示します。	
07201	アクセスコードは 3~48 文字以内の半角英数字で入力してください。	
07202	リソースパスを選択してください。	追加したいアクセスコードに紐づけたリソースが選択されていない場合に出力します。
07203	アクセス権限は最低 1 個選択してください。	
07204	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
07205	アクセス権限(CDL・L)は同時に選択できません。	
07206	アクセスプロトコルを指定する場合、「http, https, mqtt, mqttts」から一つ以上指定してください。	
07207	正しい証明書ファイル(10000Byte 以下)を指定してください。	
07208	証明書ファイルはテキストファイルで指定してください。	
07209	証明書ファイルの読み込みに失敗しました。再度実施してください。	
07301	アクセスコードは 3~48 文字以内の半角英数字で入力してください。	
07302	アクセスコード一括追加用ファイルを指定してください。	
07303	CSV のフォーマットに誤りがあります。	
07304	CSV ファイルが 100 行を超えています。分割して登録してください。	
07305	項目数が正しくありません。	アクセスコード一括登録時の CSV ファイルを見直してください。

07306	アクセス権限は、CDL, L, P, G, U, R の組み合わせで指定してください。	
07401	リソースパスを選択してください。	
07402	アクセス権限は最低 1 個選択してください。	
07403	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
07406	アクセスプロトコルを指定する場合、「http, https, mqtt, mqttts」から一つ以上指定してください。	
07407	正しい証明書ファイル(10000Byte 以下)を指定してください。	
07408	証明書ファイルはテキストファイルで指定してください。	
07409	証明書ファイルの読み込みに失敗しました。再度実施してください。	
07410	使用リソースが 100 件を超えているため、画面からアクセスコードを更新できません。	
07501	削除が失敗しました。	該当のアクセスコードに紐づいたイベントまたはアクセスコードアクセス制限が定義されていないか確認してください。
07601	アクセスコードは 3~48 文字以内の半角英数字で入力してください。	
07602	アクセスコード名は 32 文字以内で入力してください。	
07603	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
07604	リソースパスは 2~128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号は先頭と/の後ろには使用できません。	
07605	アクセス権限は、CDL, L, P, G, U, R の組み合わせで指定してください。	
07606	リソースパスが重複しています。	
07607	アクセスプロトコルを指定する場合、「;」区切りで「http, https, mqtt, mqttts」から一つ以上指定してください。	
07702	指定されたアクセスコードが既に登録されています。	
07703	指定されたリソースパスが存在していません。	
07704	検索条件に一致するアクセスコードがありません。	
07705	検索条件に一致するアクセスコードがありません。	
07706	登録必要情報がありません。	
07707	対象アクセスコードに紐づいたイベントが存在しています。	
07708	リソースに紐付かないアクセス権が不足しています。	
07709	アクセスコード権限情報が不足しています。	

07710	リソース権限の情報が不足しています。	
07711	リソース権限のリソースパスが不足しています。	
07712	リソース権限のアクセス権が不足しています。	
07713	対象アクセスコードに紐づいた IP フィルタが存在しています。	
07714	対象アクセスコードに紐づいた有効な分散ポリシーが存在しています。	
07715	対象アクセスコードに紐づいた有効なリコメントリソースが存在しています。	
07716	対象アクセスコードが upload 権をもつ分散ポリシーが存在しています。	
07717	対象アクセスコードが upload 権をもつリコメントリソースが存在しています。	
07718	対象アクセスコードとリソースに紐づいたイベントが存在しています。	
07719	1 リクエストで登録可能なリソースパスの制限を超えています。	
07720	アクセスプロトコルが許容されていません。	
07721	証明書ファイルの形式に誤りがあります。	
07722	アクセスプロトコルの指定に誤りがあります。	
07723	証明書ファイルサイズが 10000Byte を超えています。	
07724	正しい証明書ファイルを指定してください。	
07725	アクセスプロトコルが重複しています。	
08101	イベント ID は 12 文字以内の半角英数字で入力してください。	
08102	イベント名は 32 文字以内で入力してください。	
08103	リソースパスは 128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。記号-/は先頭には使用できません。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
08104	リソース名は 32 文字以内で入力してください。	
08105	該当する情報が 1000 件を超えているため、先頭 1000 件のみ表示します。	
08201	イベント名は 32 文字以内で入力してください。	
08202	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
08203	リソースパスは 128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。記号-/は先頭には使用できません。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
08204	リソース名は 32 文字以内で入力してください。	
08205	アクセスコードは 3~48 文字以内の半角英数字で入力してください。	

08206	アクセスコード名は 32 文字以内で入力してください。	
08207	データ位置は 1902 文字以内の半角で入力してください。	
08208	検出データの形式が正しくありません。	数値選択時に文字列が指定されていないか確認してください。
08209	解除データの形式が正しくありません。	数値選択時に文字列が指定されていないか確認してください。
08210	Email アドレスは 254 文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
08211	件名は 256 文字以内で入力してください。	
08212	本文は 140 文字以内で入力してください。	
08213	URI は 256 文字以内の半角で入力してください。	
08214	認証 ID は 20 文字以内の半角で入力してください。	
08215	認証パスワードは 20 文字以内の半角で入力してください。	
08216	ヘッダ名は 20 文字以内の半角で入力してください。	
08217	ヘッダ値は 512 文字以内の半角で入力してください。	
08218	ボディは 1024 文字以内で入力してください。	
08219	イベント検出条件開始時間(時)を入力してください。	
08220	イベント検出条件開始時間(分)を入力してください。	
08221	イベント検出条件開始時間(秒)を入力してください。	
08222	正しいイベント検出条件開始時間を入力してください。	時刻の範囲外の値（時に 25 以上の値が設定されている、分、秒に 60 以上の値が設定されている。）が設定されていないか確認してください。
08223	イベント検出条件終了時間(時)を入力してください。	
08224	イベント検出条件終了時間(分)を入力してください。	
08225	イベント検出条件終了時間(秒)を入力してください。	
08226	正しいイベント検出条件終了時間を入力してください。	時刻の範囲外の値（時に 25 以上の値が設定されている、分、秒に 60 以上の値が設定されている。）が設定されていないか確認してください。
08227	検出条件開始時間は検出条件終了時間より小さい値を設定してください。	
08228	イベント検出条件開始時間(日付)を入力してください。	
08229	イベント検出条件終了時間(日付)を入力してください。	
08230	イベント検出判定を選択してください。	

08231	イベント解除判定を選択してください。	
08232	イベント検出条件を入力してください。	
08233	イベント解除条件を入力してください。	
08234	検出条件が数値の場合、半角数字は整数部が5桁、小数部が5桁以内で入力してください。	
08235	検出条件は文字の場合、128文字以内で入力してください。	
08236	解除条件が数値の場合、半角数字は整数部が5桁、小数部が5桁以内で入力してください。	
08237	解除条件は文字の場合、128文字以内で入力してください。	
08301	イベント名は32文字以内で入力してください。	
08302	コメントは256文字以内で入力してください。	
08303	リソースパスは128文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号は先頭と/の後ろには使用できません。	
08304	リソース名は32文字以内で入力してください。	
08305	アクセスコードは3~48文字以内の半角英数字で入力してください。	
08306	アクセスコード名は32文字以内で入力してください。	
08307	データ位置は1902文字以内の半角で入力してください。	
08308	検出データの形式が正しくありません。	数値選択時に文字列が指定されていないか確認してください。
08309	解除データの形式が正しくありません。	数値選択時に文字列が指定されていないか確認してください。
08310	Emailアドレスは254文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
08311	件名は256文字以内で入力してください。	
08312	本文は140文字以内で入力してください。	
08313	URIは256文字以内の半角で入力してください。	
08314	認証IDは20文字以内の半角で入力してください。	
08315	認証パスワードは20文字以内の半角で入力してください。	
08316	ヘッダ名は20文字以内の半角で入力してください。	
08317	ヘッダ値は512文字以内の半角で入力してください。	
08318	ボディは1024文字以内で入力してください。	
08319	イベント検出条件開始時間(時)を入力してください。	
08320	イベント検出条件開始時間(分)を入力してく	

	ださい。	
08321	イベント検出条件開始時間(秒)を入力してください。	
08322	正しいイベント検出条件開始時間を入力してください。	
08323	イベント検出条件終了時間(時)を入力してください。	
08324	イベント検出条件終了時間(分)を入力してください。	
08325	イベント検出条件終了時間(秒)を入力してください。	
08326	正しいイベント検出条件終了時間を入力してください。	
08327	検出条件開始時間は検出条件終了時間より小さい値を設定してください。	
08328	イベント検出条件開始時間(日付)を入力してください。	
08329	イベント検出条件終了時間(日付)を入力してください。	
08330	イベント検出判定を選択してください。	
08331	イベント解除判定を選択してください。	
08332	イベント検出条件を入力してください。	
08333	イベント解除条件を入力してください。	
08334	検出条件が数値の場合、半角数字は整数部が5桁、小数部が5桁以内で入力してください。	
08335	検出条件は文字の場合、128文字以内で入力してください。	
08336	解除条件が数値の場合、半角数字は整数部が5桁、小数部が5桁以内で入力してください。	
08337	解除条件は文字の場合、128文字以内で入力してください。	
08502	削除が失敗しました。	
08704	イベント判定部への送信に失敗しました。	
08705	イベント判定部からの応答がタイムアウトしました。	
08707	該当するイベント情報が見つかりません。	
08708	対象リソースが見つかりません。	
08710	該当するイベント情報が見つかりません。	
08711	イベント ID が未指定です。	
08712	正しいリクエスト URL ではありません。	
08713	イベント検索条件に不正があります。	
08714	filter 条件に不正があります。	
08715	top 条件に不正があります。	
08716	skipr 条件に不正があります。	
08717	イベント条件が不足しています。	
08718	イベント対象が不足しています。	
08719	イベント対象のリソースパスが不足しています。	
08720	対象のリソースデータ操作が不足しています。	

	す。	
08721	対象リソースパスの read 権をもつアクセスコードが不足しています。	
08722	通知条件の path 形式が不足しています。	
08723	通知条件のボディ要素を指定するリソースパスが不足しています。	
08724	通知条件の比較演算子が不足しています。	
08725	通知条件の比較対象の値が不足しています。	
08726	抑止条件の path 形式が不足しています。	
08727	抑止条件のボディ要素を指定するリソースパスが不足しています。	
08728	抑止条件の比較演算子が不足しています。	
08729	抑止条件の比較対象の値が不足しています。	
08730	通知内容の指定が不足しています。	
08731	通知内容の通知先 E メールアドレスが不足しています。	
08732	通知内容の通知 E メール本文が不足しています。	
08733	通知内容の HTTPMethod が不足しています。	
08734	通知内容の URI が不足しています。	
08735	通知内容のヘッダフィールドが不足しています。	
08736	通知内容のヘッダフィールド名が不足しています。	
08737	通知内容のヘッダフィールドの値が不足しています。	
08738	通知内容が不足しています。	
08739	リソースパスが重複しています。	
08740	DB トランザクション取得に失敗しました。	
08741	イベント判定部への送信失敗に失敗しました。	
08742	イベント判定部からの応答がタイムアウトしました。	
08743	該当するテナントが存在しません。	
08744	Commit に失敗しました。	
08745	SQL 実行に失敗しました。	
08746	レスポンスデータ作成に失敗しました。	
08747	コンフィグリロード時にコンフィグ読み込みに失敗しました。	
08748	対象アクセスコードに紐づいたイベントが存在しています。	
08749	対象アクセスコードが read 権をもつイベントが存在します。	
08750	対象アクセスコードに紐づいた有効な分散ポリシーが存在しています。	
08751	対象アクセスコードに紐づいた有効なリコメンドリソースが存在しています。	
08752	対象アクセスコードが update 権をもつ分散ポリシーが存在しています。	
08753	対象アクセスコードが update 権をもつリコメンドリソースが存在しています。	

08754	対象アクセスコードとリソースに紐づいたイベントが存在しています。	
09102	開始日は YYYY/MM/DD 形式で入力してください。	
09103	終了日は YYYY/MM/DD 形式で入力してください。	
09104	開始時刻は HH:MM 形式で入力してください。	
09105	開始時刻は HH:MM 形式で入力してください。	
09106	終了時刻は HH:MM 形式で入力してください。	
09107	終了時刻は HH:MM 形式で入力してください。	
09108	終了時間を開始時間より遅い時間を入力してください。	
09109	該当する情報がありません。	操作ログの検索条件を見直してください。
09110	ユーザーID は 254 文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
09111	ユーザー名は 32 文字以内で入力してください。	
09201	該当する条件が 1000 件を超えているため、先頭 1000 件のみ表示します。	
09501	対象日は YYYY/MM/DD 形式で入力してください。	
09502	対象日の利用実績ログは存在していません。	
09700	対象月の利用実績ログは存在していません。	
09801	対象月の利用実績ログは存在していません。	
09901	ログファイルに問題があり、表示内容が正しくない場合があります。	
09903	アクセスが集中しておりシステムログ表示に時間がかかっています。しばらく待ってから操作してください。	
10101	ユーザーID は 254 文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
10102	ユーザー名は 32 文字以内で入力してください。	
10103	該当する情報が 1000 件を超えているため、先頭 1000 件のみ表示します。	
10201	ユーザーID は 254 文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
10202	ユーザーID は登録されています。	別のユーザーID を指定して登録してください。
10203	ユーザー名は 32 文字以内で入力してください。	
10204	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
10301	選択されたユーザーID は削除されています。	ユーザー情報更新中に別ユーザーによって該当ユーザーが削除された可能性があります。別ユーザーが該当ユーザーの削除をしていないか確認してください。
10302	ユーザー名は 32 文字以内で入力してください。	
10303	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
11101	許可 IP アドレスは 15 文字以内の IP アドレス形式で入力してください。	

11102	ユーザーIDは254文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
11103	該当する情報がありません。	検索条件を見直してください。
11201	許可IPアドレス開始は15文字以内のIPアドレス形式で入力してください。	許可IPアドレス終了でも同様のメッセージが出力される場合があります。
11202	終了IPアドレスは開始IPアドレス以上の値を入力してください。	
11203	コメントは256文字以内で入力してください。	
11204	ユーザーIDは254文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
11205	ユーザー名は32文字以内で入力してください。	
11206	ユーザー情報を選択してください。	許可IPアドレスに紐づけたいユーザーが選択されていない場合に出力します。
11207	該当する情報が1000件を超えているため、先頭1000件のみ表示します。	
11208	既に5件登録されているので、追加できません。	登録できるサービスポータルアクセス制限は5件までです。
11209	選択されたユーザーIDは削除されています。	別ユーザーによって該当ユーザーが削除された可能性があります。別ユーザーが該当ユーザーの削除をしていないか確認してください。
11301	許可IPアドレス開始は15文字以内のIPアドレス形式で入力してください。	許可IPアドレス終了でも同様のメッセージが出力される場合があります。
11302	終了IPアドレスは開始IPアドレス以上の値を入力してください。	
11303	コメントは256文字以内で入力してください。	
11304	ユーザーIDは254文字以内のメールアドレス形式で入力してください。	
11305	ユーザー名は32文字以内で入力してください。	
11306	ユーザー情報を選択してください。	許可IPアドレスに紐づけたいユーザーが選択されていない場合に出力します。
11307	該当する情報が1000件を超えているため、先頭1000件のみ表示します。	
11308	選択されたユーザーIDは削除されています。	別ユーザーによって該当ユーザーが削除された可能性があります。別ユーザーが該当ユーザーの削除をしていないか確認してください。
11402	削除が失敗しました。	
11601	許可IPアドレスは15文字以内のIPアドレス形式で入力してください。	
11602	アクセスコードは48文字以内の半角英数字で入力してください。	
11603	該当する情報がありません。	検索条件を見直してください。
11701	許可IPアドレス開始は15文字以内のIPアドレス形式で入力してください。	許可IPアドレス終了でも同様のメッセージが出力される場合があります。
11702	終了IPアドレスは開始IPアドレス以上の値を入力してください。	
11703	コメントは256文字以内で入力してください。	
11704	アクセスコードは48文字以内の半角英数字	

	で入力してください。	
11705	アクセスコード名は 32 文字以内で入力してください。	
11706	アクセスコード情報を選択してください。	許可 IP アドレスに紐づけたいアクセスコードが選択されていない場合に出力します。
11707	該当する情報が 1000 件を超えているため、先頭 1000 件のみ表示します。	
11708	既に 5 件登録されているので、追加できません。	登録できるアクセスコードアクセス制限は 5 件までです。
11709	選択されたアクセスコードは削除されています。	別ユーザーによって該当アクセスコードが削除された可能性があります。別ユーザーが該当アクセスコードの削除をしていないか確認してください。
11710	開始 IP アドレスと終了 IP アドレスは登録されています。	別の開始 IP アドレスと終了 IP アドレスで登録してください。
11801	許可 IP アドレス開始は 15 文字以内の IP アドレス形式で入力してください。	許可 IP アドレス終了でも同様のメッセージが出力される場合があります。
11802	終了 IP アドレスは開始 IP アドレス以上の値を入力してください。	
11803	コメントは 256 文字以内で入力してください。	
11804	アクセスコードは 48 文字以内の半角英数字で入力してください。	
11805	アクセスコード名は 32 文字以内で入力してください。	
11806	アクセスコード情報を選択してください。	許可 IP アドレスに紐づけたいアクセスコードが選択されていない場合に出力します。
11807	該当する情報が 1000 件を超えているため、先頭 1000 件のみ表示します。	
11808	選択されたアクセスコードは削除されています。	別ユーザーによって該当アクセスコードが削除された可能性があります。別ユーザーが該当アクセスコードの削除をしていないか確認してください。
11902	削除が失敗しました。	
12101	リコメンド周期は 1~1440 以内の半角数字で入力してください。	
12102	算出期間は 1~1440 以内の半角数字で入力してください。	
12103	算出期間はリコメンド周期以上の値を設定してください。	
12104	負荷リソースのリソースパスは 2~128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号は先頭と/の後ろには使用できません。	
12105	負荷リソースのアクセスコードは 3~48 文字以内の半角英数字で入力してください。	
12106	リコメンドリソースは必ず 1 つ有効にしてください。	分散設定を有効にする場合はリコメンドリソース 1~3 のいずれか 1 つを有効にしてください。
12107	リコメンドリソース 1 のリソースパスは 2~128 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。尚、記号は先頭と/の後ろには	※1

	使用できません。	
12108	リコメンドリソース 1 のアクセスコードは 3～48 文字以内の半角英数字で入力してください。	※1
12109	リコメンドリソース 1 のエッジコンピューティング条件は 10 文字以内の半角数字で入力してください。	※1
12110	リコメンドリソース 1 のエッジコンピューティング条件検出判定を選択してください。	※1
12113	リコメンドリソース 1 の上記の解除条件検出判定を選択してください。	※1
12115	プランナが起動していないため、更新通知が失敗しました。	時間を空けてリトライしてください。
12116	プランナは起動中または停止中のため、更新通知が失敗しました。	
12117	プランナに送信するデータ形式のフォーマットが正しくないため、更新通知が失敗しました。	
12119	プランナから HTTP リクエストエラーを受信しました。	
12120	負荷リソースのリソースパスがアクセスコード権限管理のリソースパスと一致しません。	別ユーザーによって該当リソースパスに紐づくアクセスコードの権限が変更されたかアクセスコードが削除された可能性があります。別ユーザーがアクセスコードの変更または削除をしていないか確認してください。
12121	リコメンドリソース 1 のリソースパスがアクセスコード権限管理のリソースパスと一致しません。	※1
12122	エッジコンピューティング条件は解除条件以上の値を設定してください。	
12123	Prefix リソースのリソースパスは 2～16 文字以内の半角英数字及び記号-で入力してください。	
12124	Prefix リソースのアクセスコードは 3～48 文字以内の半角英数字で入力してください。	
12125	Prefix リソースのリソースパスが 128 文字を超えました。	
12126	リソースパスは 2～64 文字以内の半角英数字及び記号-_/で入力してください。記号-/は先頭には使用できません。尚、記号-_/は/の後ろには使用できません。	
12127	更新に失敗しました。(指定されたリソースパスは存在していないか、またはアクセス権限が変更されてる可能性があります)	別ユーザーによって該当リソースパスが削除されたか、悪銭権限が変更された可能性があります。別ユーザーがリソースパスの変更または削除をしていないか確認してください。
13200	新 Password は 8～12 文字の下記ポリシーで入力してください。	

※ 1: 「リコメンドリソース 1」の番号部分は対応する項目の番号が表示されます。

## 第7章 付録

### 7.1. CSV フォーマットについて

#### 7.1.1. リソース用 CSV フォーマットイメージ

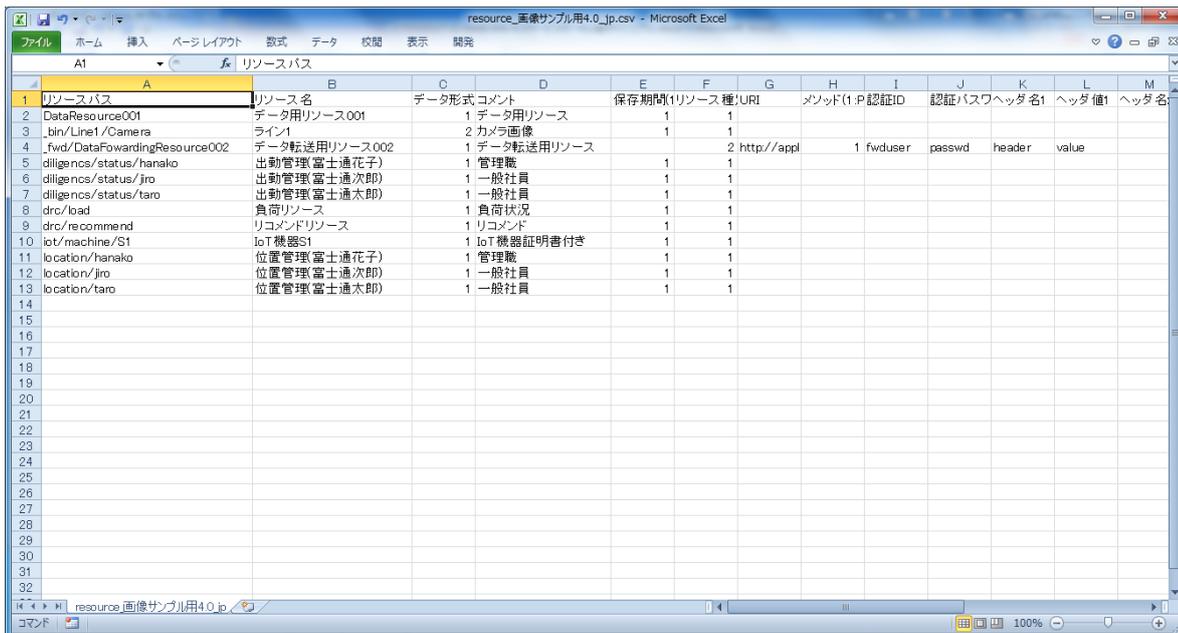
No.	ヘッダ名(日本語)	ヘッダ名(英語)	必須	文字種	文字数	書式	備考
1	リソースパス	Resource Path	○	半角英数記	～128	-	使用可能記号 -(ハイフン)、_(アンダー)、 /(スラッシュ)
2	リソース名	Resource Name	-	半角/全角	～32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字、@ - ( ) : . _
3	データ形式 (1:JSON 2:バイナリ)	Data Format (1:JSON 2:BINARY)	○	半角数	1	数字	
4	コメント	Comment	-	半角/全角	～256	-	日本語入力可
5	保存期間(1～9999日)	Retention period	○	半角数	～4	-	単位:日
6	リソース種別(1:リソース 2:リソース(転送))	Resource Kind(1:Accumulation 2:Transfer)	○	半角数	1	数字	
7	URI	URI	-	半角英数記	～256	-	
8	メソッド(1:POST 2:PUT 3:GET 4:DELETE 5:HEAD 6:OPTIONS 7:TRACE)	Method(1:POST 2:PUT 3:GET 4:DELETE 5:HEAD 6:OPTIONS 7:TRACE)	-	半角数	1	数字	1～7の数字
9	認証ID	Authentication ID	-	半角英数記	～20	-	
10	認証パスワード	Authentication Passwd	-	半角英数記	～20	-	
11	ヘッダ名1	Field Name1	-	半角英数記	～20	-	
12	ヘッダ値1	Field Value1	-	半角英数記	～512	-	
...							
30	ヘッダ名10	Field Name10	-	半角英数記	～20	-	
31	ヘッダ値10	Field Value10	-	半角英数記	～512	-	



#### 注意

- 各機能の一括追加での CSV ファイルに使用できる文字コードは画面の表示言語によって以下の通りとなります。
  - 表示言語が日本語の場合: Shift-JIS, JIS, EUC, UTF-8(自動判別。文字コードの混在は不可)
  - 表示言語が英語の場合: UTF-8

## CSV イメージ



### 7.1.2. アクセスコード用 CSV フォーマットイメージ

No.	ヘッダ名(日本語)	ヘッダ名(英語)	必須	文字種	文字数	書式	備考
1	アクセスコード	Access Code	○	半角英数	3~48	-	
2	アクセスコード名	Access Code Name	-	半角/全角	~32	-	使用可能文字 数字、英小文字、英大文字、 全角文字、@ - ( ) : . _
3	コメント	Comment	-	半角/全角	~256	-	日本語入力可
4	アクセスプロトコル	Access Protocol	-	半角英記	~21	-	http、https、mqtt、mqtts を;区切りで指定
5	リソースパス	Resource Path	○	半角英数記	~128	-	使用可能記号 -(ハイフン)、_(アンダー)、/(スラッシュ) ユ)
6	アクセス権限	Access Code Permission	○	半角英	~5	C, D, L, R, U	CDLRU の各文字の組み合わせ(順番違い可)。ただし、Cが含まれる場合はDとLも、Dが含まれる場合はCとLも組み合わせる必要があります (C,DなしのLのみの指定は可) 指定可能な組み合わせ(順番違い可) R またはU のどちらかは必須です。 CDL/L/CDLR/CDLU/CDLRU/LR/LU/LRU/R/RU/U

#### Memo

・紐付けしたいリソースパスおよびアクセス権限が複数となる場合は以下の CSV イメージのように横の行に追加することで対応できます。

## CSV イメージ

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	アクセスコード	アクセスコード名	コメント	アクセスプロ	アクセス権	リソースバ	アクセス権		
2	DiligenceManagement11111	出勤状況参照と更新	誰でも誰に対しても参照と更新ができる	diligence/status/hanako	RU	diligence/s RU	diligence/s RU		
3	LocationManagement22222	位置情報更新(富士満花子)	自分の位置情報のみ更新可能	location/hanako	RU	location/hanako	location/hanako		
4	LocationManagement33333	位置情報更新(富士通次郎)	自分の位置情報のみ更新可能	location/taro	RU	location/taro	location/taro		
5	LocationManagement44444	位置情報更新(富士通次郎)	自分の位置情報のみ更新可能	location/jiro	RU	location/jiro	location/jiro		
6	LocationManagement55555	位置情報参照	管理職のみ参照できる	location/hanako	R	location/hanako	location/jir R		
7	DRCLoad	角荷情報参照更新		drc/load	RU	drc/load	drc/load		
8	DRCRecommend	リコメンド		drc/recommend	RU	drc/recommend	drc/recommend		
9	Line1 Camera	ライン1用画像	APIからのリソース更新、削除、参照ができる	_bin/Line1/Camera	CDLRU	_bin/Line1/Camera	_bin/Line1/Camera		
10	SecureIoTMachine	IoT機器(証明書あり)	証明書で認証	bot/machine/S1	RU	bot/machine/S1	bot/machine/S1		
11	ErrorRead	エラー収集参照	エラー収集参照用アクセスコード	http	R	_error	_error		
12	ErrorWrite	エラー収集登録	エラー収集登録用アクセスコード	http	U	_error	_error		

## 7.2. ソートポリシーについて

検索結果表示画面にて表示されるソートボタンクリック時のソートは以下の順番にて表示されます。

- 半角記号(※1)
- 半角数字
- 半角英字(大文字)
- 半角英字(小文字)
- 全角ひらがな
- 全角カタカナ
- 全角漢字
- 全角記号(※2)
- 全角数字
- 全角英字(大文字)
- 全角英字(小文字)
- 半角カタカナ



注意

- ※1: 半角記号はコード順にソートされるため、記号の種類によっては数字よりも後ろにソートされる場合があります。
- ※2: 全角文字はコード順にソートされるため、種類によっては上記のソート順とならない場合があります。

### 7.3. イベント機能の通知メッセージ

イベント機能で通知されるメッセージのフォーマットについては以下のとおりです。

Email 通知の場合は以下のメッセージが JSON 形式にて記載されたテキストファイル(eventinfo.txt)として送信されます。

API 呼び出しの場合はイベント追加設定時にボディに何も格納しない設定をおこなった場合、リソースのデータ形式が JSON であるなら、通知メッセージを本サービスが自動的にボディに格納して送信します。データ形式がバイナリであるならボディに格納せずに送信します。

	項目名	説明	備考
①	イベント ID	検出されたイベント ID が格納されます。	12 桁の英数字組み合わせの文字列
②	操作	該当イベントを検出したときのリソースの操作内容が格納されます。	“update”：書き込みを行った場合 “delete”：削除を行った場合
③	日時	イベント判定を行った時刻が格納されます。	ISO8601 に従います。 (20141225T103612.001+0900 など)
④	リソースパス	イベントを検出した時に操作されたリソースのパス	4.6.2 参照
⑤	メッセージ	リソースパスに格納されているデータ	JSON 形式のメッセージ

フォーマット例は以下のとおりです。

```
{  
  "eventID": "123456789abc",  
  "operation": "update",  
  "date": "20141225T103612.001+0900",  
  "resoucepath": "Kamata/Printers/1F/Printer",  
  "message": {"temp": 69}  
}
```

## 7.4. 証明書の登録・削除手順について

ユーザーが使用する端末に証明書を登録する手順を以下に説明します。

ここでは 4.13 章の機能で PKCS#12(.p12)形式の証明書を生成し、その証明書をユーザー追加・変更機能でユーザーへ設定した場合の、当該ユーザーが使用端末で行う手順について説明いたします。

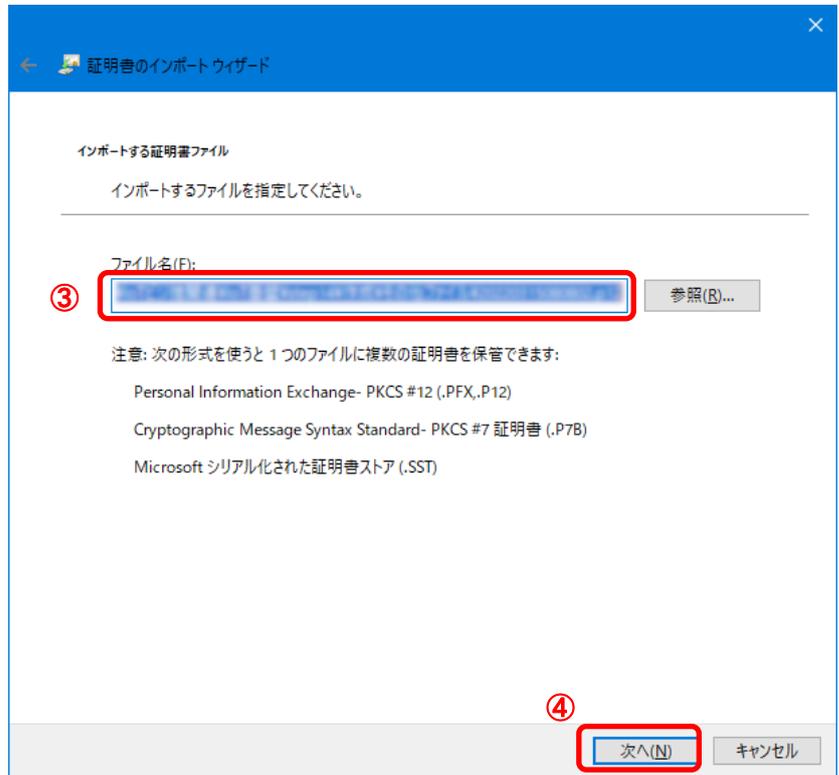
### Memo

- ・下記ではユーザーの使用端末が Windows 10 の場合について説明いたします。環境が異なる場合は適宜読み替えてください。
- ・証明書にパスワードを設定している場合はパスワードをユーザーに通知する必要があります。

#### 7.4.1. 登録手順

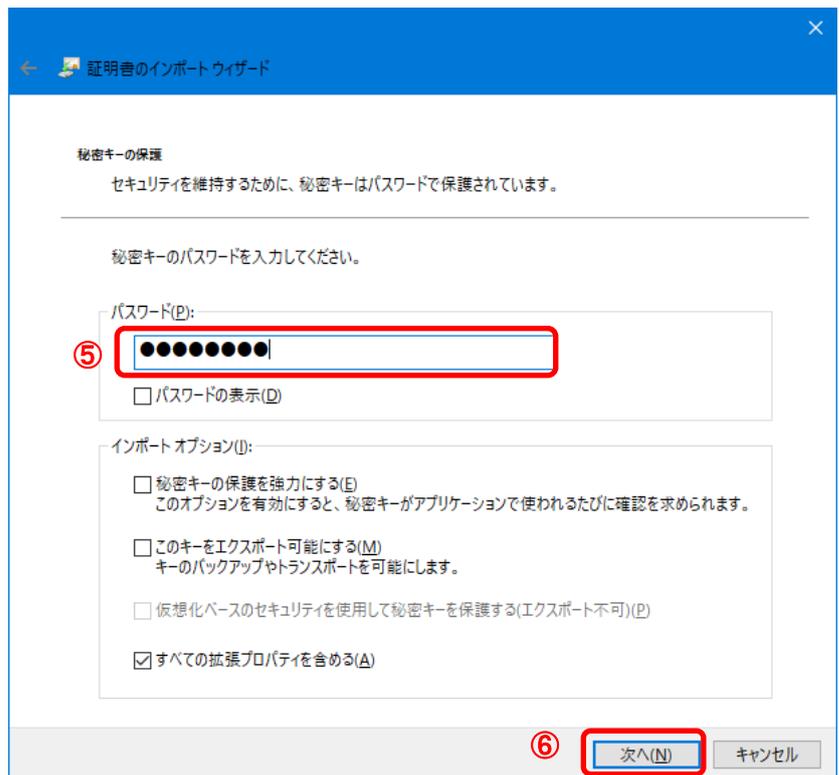
1. PKCS#12(.p12)形式の証明書ファイルをダブルクリックし、証明書のインポートウィザードを開始します。
2. ①の現在のユーザーをチェックし、②の次へをクリックします。
3. ③のファイル名に 1. の証明書ファイルのパスが入力されていることを確認し、④の次へをクリックします。

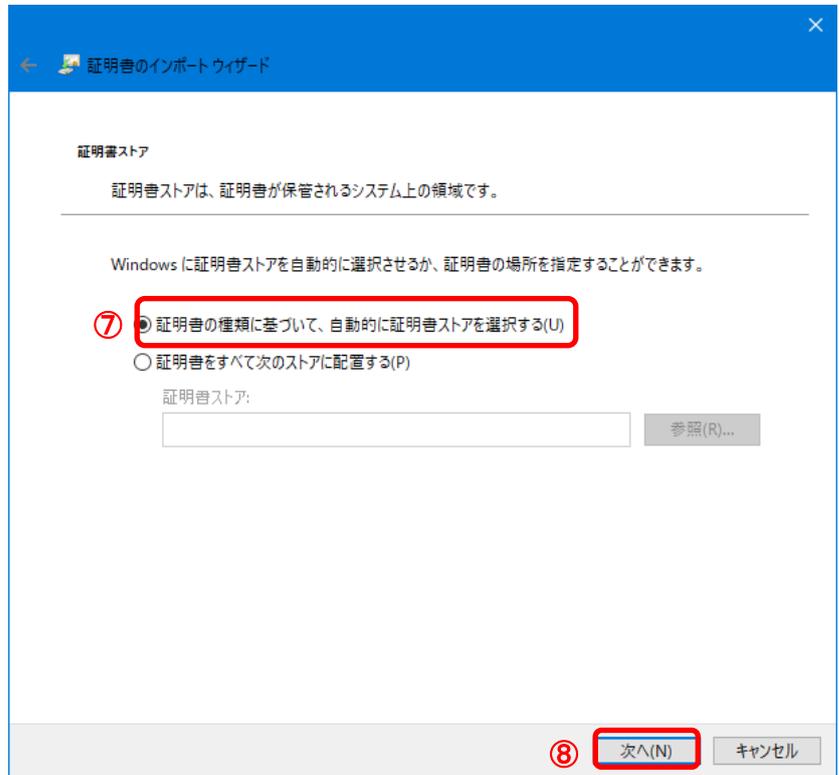




4. ⑤のパスワードに証明書のパスワードを入力し、⑥の次へをクリックします。

5. ⑦の「証明書の情報に基づいて、自動的に証明書ストアを選択する」をチェックし、⑧の次へをクリックします。

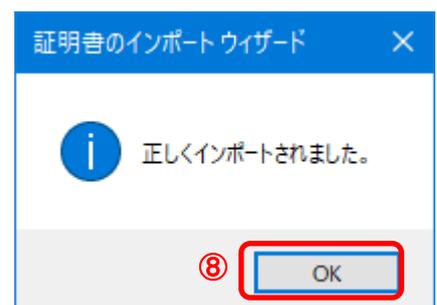
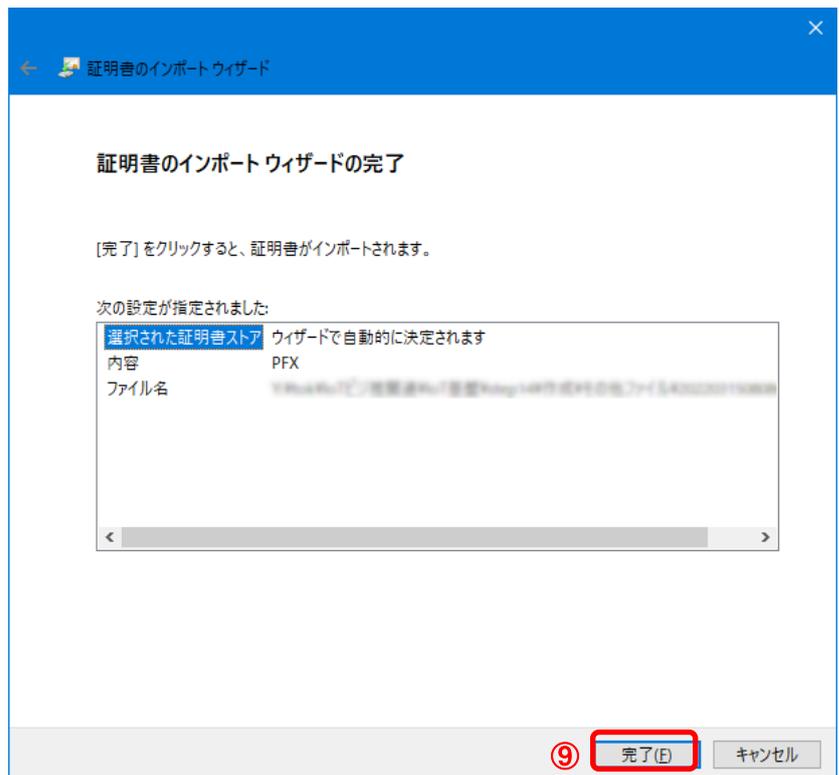




6. 証明書のインポートウィザードの完了で内容確認後、⑨の完了をクリックします。

セキュリティの警告が表示された場合は内容を確認後、はいをクリックしてください。

7. 「正しくインポートされました。」のダイアログが表示されましたら、正しくインポートされています。⑩のOKをクリックします。



## Memo

- ・インターネットオプション等で証明書ダイアログを表示し、「個人」ストアにインポートしたクライアント証明書が表示されていることを確認して下さい。
- ・ブラウザが Chrome の場合、[設定] > [セキュリティとプライバシー] > [セキュリティ] > [証明書の管理] > [個人]で証明書の配置場所を確認することができます。

### 7.4.1. 削除手順

以下ではブラウザが Chrome の場合の手順について説明します。

1. Chrome で①の右上のメニューから [設定]画面を表示します。  
[セキュリティとプライバシー]  
> [セキュリティ] > [証明書の管理] > [個人]と選択し、証明書の管理画面を表示します。
3. 証明書の管理画面で削除する証明書を選択し、②の削除をクリックします。
3. ③のはいをクリックします。

